

令和6年度 事業報告書 北いきいき市民活動センター

【指定管理者:NP0 法人くらしネット21】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 常勤 2 名、非常勤 11 名

【人材育成の取組】

- ・提案業務にかかる各実行委員会やイベント・研修会への積極的な参加を促す。
- ・共生館各団体へ出かけての研修会・交流会の実施。
- ・毎月の職員会議で、コンプライアンスやハラスメント防止について職員の意識の向上をめざす。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
288	312	318	299	266	275	288	284	261	258	280	288

(年間) 3,417 件 (前年度比 92.9%)

イ 利用状況

- 障がい者から児童生徒・学生団体・高齢者まで、幅広い年齢層の利用がある。
- 長時間利用する団体があり、20 時間の枠の弾力的運用が必要となっている。

ウ 利用促進に向けた取組

- センター紹介パンフレットをよりわかりやすくリニューアル。

エ その他

- サロンは なし。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- HP を随時更新。抽選会のお知らせだけでなく、センターでのイベント情報など双方向の情報発信に積極的に取り組み、YouTube にイベントの様子を動画で配信。
- 共生館団体 (HAPS・天才アート・楽只児童館・ツラッティ千本・保育所) との施設連絡会を毎月開催し、各取組に加えてまちづくり・人づくりの共有を行う。

イ 取組の効果

- 障がい者団体・高齢者施設とのつながりが深まり、利用団体の増加につながっている。

(4) 管理運営

- 共生館団体 (HAPS・天才アート・楽只児童館・楽只保育所・ツラッティ千本) との施設連絡会を毎月開催し、各取組について消防計画等管理運営の共有を行う。

(5) その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」
 - ・コンプライアンスや人権についての職員研修の実施。
 - ・地元にある高齢者施設「紫野」「ふなおか」との連絡会の実施。
 - ・地元楽只学区社会福祉協議会に加えて紫野社協との連携強化を図る。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業①計画①

【事業名】団体交流「いきいき市民活動祭」

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 9 月 28 日（土）10 時～12 時
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 多目的ホール
- 3 参加人数： 100 名（11 団体）
- 4 協力団体等： 実行委員会（楽只社会福祉協議会・楽只保育所・楽只児童館等）
- 5 予算：400,000 円 / 決算：379,307 円

1 事業内容

- 北いきいき市民活動センター利用団体による、音楽やダンスなどのパフォーマンス、児童館保育所との交流の場を設け、各団体の常々の活動や練習の成果を存分に発表してもらう祭典。

- ・センター利用団体の発表と交流 ダンス・音楽の発表と交流
- ・幼児児童とお年寄りとの交流 簡単な手遊びゲームや運動

2 準備段階での工夫

- ・実行委員会に発表団体代表者の参画をはかるように工夫する。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- ・北イキセン利用団体間の交流・学習・運営の場を促進する。
- ・共生館共用施設間の交流・発表・協働制作などを通じた総合芸術文化祭を催し、地域の活性化とまちづくり人材を発掘・育成する。
- ・地域団体・高齢者・障がい者・児童を招待・交流することによって、地域福祉貢献事業としても発展させる。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・各利用団体とも、普段の練習の成果を十分に披露していただくことができた。
- ・筑前琵琶の語りは普段なかなか聞く機会のないもので、興味深く聞き入っておられた。
- ・介護予防センターの健康体操も、会場一体となり、効果的であった。
- ・児童館の子どもたちによる生活発表やクイズも、和やかで好評であった。
- ・「あたたかい雰囲気ですりつけもかわいく、わいわいとにぎやかな活動祭だった。」
- ・「認知症で閉じこもりの方のカフェコーナーなど今後工夫したい。」
- ・「地域交流イベントとして定着し、地域の歴史ほっとステーションとして発展させたい。」

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったこと
- ・各利用団体の発表・交流に終わらず、活動の様子や運営上の悩みなども話し合える活動祭にできればと考えている。
- ・発表のしやすい文化系のサークルや団体には声をかけやすいが、スポーツ系の団体のイベント交流も更に進めたい。できるだけ幅広い利用団体の様々な交流を図る工夫を凝らす。

アンケート 集計 (市民活動祭 実施日 9/28 日 回答数 77)						
アンケート項目	よかった		ふつう		どちらでもない	
①市民活動祭に観覧・出演して。	68	89%	8	10%	1	1%
②市民活動祭にを楽しめたか。	70	91%	5	6%	2	3%
③他の出演者やお客様との交流ができましたか。	36	47%	25	32%	16	21%
④また次の機会に参加したいと思いましたか。	61	79%	12	16%	4	5%
■その他、お気づきの点やご意見など						
催し全体、進行について…						
・皆様ごくろうさまです。来年もたのしみにしています。・今後お願いいたします。						
・センター内での活動・内容をもっと地域に教えて欲しい。敬老会についてももっと地域に伝えてください。						
・ありがとうございます。皆がたくさん参加できるようにすみずみまでビラが配られることをお願いします。						
・毎年たのしみです。本当にありがとう!! ・楽しかったです。お子さんはかわいかったです。						
・初めてお呼びいただきありがとうございました。日頃お会いできる高齢者の方もおられ、楽しく参加できました。						
・早くから準備等ありがとうございました。参加させていただいて楽しかったです。						
・小さなお子様もいられましたが、興味をもって聴いてくれたのが、嬉しかったです。						
・いろいろな方の出演、最後まで楽しませてもらいました。スタッフの方、お世話ありがとうございました。						
会場について…						
・あたたかい雰囲気がかざりつけもかわいく、わいわいとにぎやかな活動祭だったと思います。楽しかったです。						
・マイクが聞こえにくかった。・マイクの声がこもって聞き取りにくい						
・靴をはき替えなくて良かった。・左のビルにいつてしまい迷ってしまった。						
ダンスや踊り演奏について…						
・子どもたちのダンスが大変良かったです。吹奏楽の音楽がとてもよかったです。						
・楽しく演奏させていただきました。ありがとうございました。						
・本日は出演させていただき、ありがとうございました (CATS)。来年もまた来たいです。						
・いつもおまねきいただきありがとうございます。						
・太鼓の出演楽しかったです。						
・子どもたちも参加しましたが、たくさんの人が見て下さっていたので、緊張していました。						

・子どもたちが興味を持ちそうな演目があれば、見たい子どもだけでも一緒に見させてもらえたらいいなあと思いました。
その他…
・健康でありつづけるようにがんばりたいと思います。
・いつも練習場所ありがとうございます（CATS）。 ・次回は少し説明をわかりやすくしたいと思います（CATS）。
■今後おこなってほしいイベントや活動
・吹奏楽団 ・しゅーとのフュー ・和太鼓 ・演奏会（参加したい）
・昔のいきセンのように、お食事やおやつの手作り教室やお食事会。
認知症で閉じこもりの方へのカフェなどあれば…ぜひ協力させていただきたいです。
・地域交流イベント、楽しいと思います！ ・音楽などを演奏してほしい。
・大変と思いますが、今回のようなイベントを続けてください。
・人形劇など子ども向けのイベントがあれば、参加したいです。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業①計画②

【事業名】地域交流「いきいき楽ちゃんフェスティバル」(いきいき総合芸術文化祭)

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 8 月 10 日（土）17 時～21 時
- 2 開催場所： いきいき市民活動センター 楽只保育所園庭
- 3 参加人数： 700 名（団体）
- 4 協力団体等： 実行委員会（楽只社会福祉協議会・児童館・保育所・FUNAGORA）
- 5 予算：500,000 円 / 決算：496,753 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
イキセン利用団体の中から、ダンス・音楽交流と盆ダンスの総踊り。
子ども神輿の実施。楽只・紫野社協、共生館団体による協力出店の実施。
- 評価委員会から指摘された事項
ふれあい共生館内の団体の積極的な参加と交流により、独自性の高い事業をめざす。

2 準備段階での工夫

- 実行委員会には多くの団体が参画し、参加者主体を目指した多くの意見をいただくことができた。地域の中学生高校生によるボランティア参加ができた。
- HP・ラジオミックス・北区社会福祉協議会によるアナウンス効果により、参加者が飛躍的に増えた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたこと。
 - ・北いきいき市民活動センター利用団体を中心にダンス等の表現活動の発表と交流の場を設け、地域の方々の参加も定着し、市民活動のさらなる活性化を促す。
 - ・活動紹介のブースを設置し、各利用団体のつながりを促す。
 - ・ふれあい共生館の知名度アップと参加者の行動化の促進。
 - ・実行委員会による運営を行い、地域の活性化とまちづくりの担い手を育成する。

(2) 事業実施による目標の達成度

- 昨年度より参加も増え、幅広い年齢層の参加を得ることができた。
みこしを担ぐ体験ができ、フェスティバルが盛り上がった。
- アンケート結果などから代表的な意見等
 - ・お客さん参加型の出し物があれば、さらに楽しくなるのかと考えている。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・中学生高校生のボランティア参加ができたことにより、フェスの雰囲気が若々しくなり、次年度につながった。
 - ・「盆踊りの練習をもっとしたい。」という声もあり、練習を定期的実施する活動の支援。

夏祭アンケート集計 ※8/21 出店 11／児童館 10／保育所 10／FDF10／暖音 2／佛大紫踊屋 5／PP2／保存会 3 総数 43						
アンケート項目	よかった		ふつう		どちらでもない	
①夏まつりに出演または出店して。	38	88%	5	12%	0	0%
②夏まつりを楽しめたか。	37	86%	5	12%	1	2%
③他の出演者やお客様との交流ができたか。	23	53%	9	21%	11	26%
④また次の機会に参加したいと思ったか。	37	86%	3	7%	3	7%
■その他、お気づきの点やご意見など						
・全般について…						
・子どもさんが多く来てよかった。 ・たのしかったです。 ・ いつもありがとうございます ・						
・大変良かったです（保存会）。 ・楽しく祭を過ごしました。 ・楽しかった。						
・昨年より参加者が増え、当日を楽しみにされている方も多かった。						
・会場について…						
・風がきつくてモノが飛んでた。イス、テーブルが少なすぎる（お店関係の人たちが最初からずーっと陣取ってた）。						
・盆踊りは櫓があった方がいいかなと思います！						
・砂がすごかったです。昨年もこうだったかな？と思いました。「わたあめ」が「すなあめ」に…泣。						
・昨年より来場者が多かったと思いますが、お店を出すスペースが狭くテントひとはり分、欲しい。						
・当日の準備、片付けもスムーズにできていた。						
・出店する飲食の種類が増えてほしい。						
・ダンスや盆踊り（プログラム）について…						
・楽しい時間が過ごせました。また機会があればよろしくお願いします（お囃子）。						
・舞台は緊張しましたが楽しかったです。次回はもっと楽しめたらと思います（お囃子）。						
・マイクの音が通らなくて息が辛かったです（保存会）。						
・もっと踊りの練習会をしてほしいです。 いつかマスターしたいです。よろしくお願いします…！！						
・楽只小卒業生の写真を映し出すのがよかった。						
・ お客さんが近くて緊張した（3名）。						
・ 踊れて楽しかった。 ・ 緊張した。 ・ サイコー！！						
・ 盆踊りの時間が長い（15分程度）。						

・その他…
・暑いので時期を考えてみては…？
・子どもチケットのホッチキス止め（外した時）が危ない
■今後おこなってほしいイベントや活動
・ハロウィン、月見など、なんなり参加させていただきます。 ・子どもが喜ぶイベント
・お客さん参加型の出し物があれば、さらに楽しくなるのかなと思いました。
・盆踊り（３） ・秋祭り ・X'mas 会 ・スポーツ大会

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業①計画③

【事業名】福祉体験交流「体験してみようニューパラスポーツの世界」

事業の概要

- 1 開催日時： 2025年3月15日（土）13時～16時
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 多目的ホール
- 3 参加人数： 50名 スタッフ30名
- 4 協力団体等： 実行委員会
(京都ライトハウス アイアイ教室 FDF 放課後等デイサービスさんりん舎等)
- 5 予算：300,000円／決算：295,711円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
 - ・FDF ダンスチームによるダンス（準備の運動）
 - ・車いすバスケットに慣れる。（大学車いすバスケットチームの紹介と追いかけっこなど）・車いすバスケットボールのお話
 - ・車いすバスケットの体験。（車いすの体験からミニゲームの実施まで）
- 評価委員会からの指摘された事項があれば、その改善点を記載してください。
 - ・地元佛教大学サークルの協力サポートによる開催。
 - ・健常者が車いすを手段にバスケットボールをするスポーツで、健常者と障がい者の活動と心の距離がとても近く新鮮だった。

2 準備段階での工夫

- 実施に向けてプログラム等佛教大学サークルによる支援をいただいた。
- 他センターにはない独自の広報の工夫。
 - ・プレスリリース等佛教大学学生支援課からも支援をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・車イスユーザーとノンユーザーが同じコートで競い合い、今までの障がい者理解を超えた車いすバスケットボールを通しての体験・交流会をめざす。

（2）事業実施による目標の達成度

- （1）の達成度について
 - 「パラスポーツのつどい」に、子どもから大人、運動機能・視覚に障がいのある人をはじめいろいろな人たちがつどい交流することができた。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。
 - ・思っていたより上手く車イスに乗ることができた。
 - ・声を掛け合って、ゲームが楽しかった。
 - ・車イスからたくさんシュートができた。 など

4 今後の抱負

- ・多様な参加者があり、チーム分けに工夫が必要。
- ・佛教大学車いすバスケットボール部と連携して、定期的に交流会・体験会ができるようにめざす。

「パラスポーツのつどい」 3月15（土）



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業②計画①

【事業名】「船岡山ストリート」まちづくりワークショップ

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2024年10月3日（木）13時～14時 他4回
- 2 開催場所： 楽只児童館・船岡西通り
- 3 参加人数： 延べ100名 スタッフ50名
- 4 協力団体等： 実行委員会（社協（交対協）、児童館、保育所、親の会・ライトハウス）
- 5 予算：185,000円 / 決算：164,669円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
 - ・船岡山に関わる関連施設や北土木事務所をはじめとする関係機関の協力を得ながら、船岡山西通りを教育ストリートとして構築するプログラムとする。
 - ・事業の3年目として、各団体協力して外灯も設置し、また「美しい・気持ち良い」一斉清掃を実施する。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたこと
 - ・児童館や保育所の子どもたち、保護者の思い・意見を尊重し、前庭を整備する活動ができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・HAPSやMONAKAなどの関連施設とのまちづくり・人づくりの協働活動を進めることができた。

（2）事業実施による目標の達成度

- （1）の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・西通りのありようについて利用者だけでなく、全ての地域の方々が普段から関心を持っていただくことができるようになった。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。

「外灯の設置により児童館の入り口が明るくなって、夜も安心できる。今後も継続して保護者の意見を伝える場を設けていきたい。」

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・北区の安心安全ネット事業をはじめ、船岡山公園パークアップ事業とも連携して、公園や周辺を活用した多様なマネジメントにも支援を行う。

事業風景の写真

○ こどもも大人も 植え込みの整備



共生館施設も参加しての清掃活動



地元の方・保護者と西通りワークショップ



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業②計画②

【事業名】「紙屋川開キ町たんけん」

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 5 月 ～ 12 月 計 20 回
- 2 開催場所： 砂防ダム・楽只児童館・ハップススタジオ等
- 3 参加人数： のべ 200 名
- 4 協力団体等： 実行委員会（楽只児童館・ハップス・アーティスト）
- 5 予算：190,000 円 / 決算：184,544 円

1 事業内容

- 事業の内容 5 月 アイの植え付け
6 月 水やり
8 月 いきいき楽ちゃんフェスティバルに出店
11 月 「ふれあい児童館祭」に「ちぎり絵」の工作コーナー
12 月 紙すき体験会
2 月 すいた和紙で美濃市の保育所にお手紙を書く。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたこと
児童館での PR により、保護者の参加・協力も見られるようになった。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・トロロアオイの栽培から取り組み、和紙ができるまでの自然との関わりを知ることができた。
 - ・生活の身近なところにある開キ町の自然の恵みと脅威に触れ考えることができた。
 - ・HAPS アーティストによる継続した取組となっている

（2）事業実施による目標の達成度

- ・初めて和紙作りに参加した児童も多く、大変興味深く取り組んでいた。
 - ・特に、紙屋川での活動は、身近に自然を感じ楽しく体験することができた。

4 今後の抱負

- トロロアオイの栽培から収穫、紙すきに至るまで、継続して行うことができた。
作成した和紙から手紙の作成まで、大変有意義な活動だった。今後、栽培の日程や成果物の発表については、より計画的に進めていきたい。

紙すきの体験



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業②計画③

【事業名】「盆踊り保存会」(市民活動支援)

事業の概要

- 1 開催日時： 2024年6月～2月 計8回
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 会議室 多目的ホール・園庭 等
- 3 参加人数： のべ80名
- 4 協力団体等： 実行委員会（保存会・社会福祉協議会・楽只児童館）
- 5 予算：450,000円 / 決算：449,538円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
 - ・音頭練習 6月から開始
 - ・江州音頭 踊りの講習会（保育所・児童館・イキセン）
 - ・「いきいき楽ちゃんフェスティバル」で披露 8月
 - ・「市民活動祭」で披露 9月・反省会 来年度へ向けて 10月
 - ・音頭とりや太鼓方の募集と育成 2月
- 評価委員会から指摘された事項があれば、その改善点を記載してください。
 - ・多世代の交流の機会として、踊りの練習会や（音頭）太鼓の体験会を実施。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたこと
 - ・今宮神社みこし会にも協力いただき、フェスティバルの音頭が大いに盛りあがった。
- 他センターにはない独自の広報の工夫
 - ・クチコミが中心で、SNS活用の情報戦略が今後の課題。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・音頭取り集団の育成と千本における踊り文化の継承に取組む保存会の定期活動を支援する。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について
 - ・700人規模の一大イベントに成長する中で、次代を担う音頭取りの人材が育ちつつあるものの、リーダー・世話役等の継承が見過ごせない。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。
 - ・「やってみたい」という人はおられるので、いつでも受け入れられる窓口を設ける。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - 伝統文化・芸術であふれた共に生きる喜びのまちづくりを進める保存会をめざす。
 - 他地域との交流ネットワークづくりをどのように進めていくかが課題。

事業風景の写真

- 写真は、事業風景がよく分かるように、できる限り大きくしてください。
- A4サイズ1枚までとしてください。

① 練習風景



② 児童館の子どもたちと踊りの練習



③ 「いきいき楽ちゃんフェスティバル」



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業②計画④

【事業名】『千本の赤』人権教育絵本・マンガプロジェクト（地域の歴史・人権本）

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2024年9月 ～ 2月（計16回）
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 会議室 等
- 3 参加人数： のべ200名（団体）
- 4 協力団体等： 実行委員会
- 5 予算 450,000円 / 決算： 431,688円

1 事業内容

○ 事業の内容（①②NPO 暮らしネット 21 の独自事業への支援）

①「京都本」版としての「ラクシノクラシ」の編集について、編集にかかわる資料収集・情報提供、取材協力サポート、製本作業サポート等を支援する。「京都」の特徴や良さとしての「観光」「大学」のまちや「駅伝発祥」のまちの要素（日本初となる京都から上野までの駅伝大会や小学生大文字駅伝・全国高校生駅伝・全国女子駅伝を軸としたマップ作成やポイントの紹介等）を支援する。

②共生館 HAPS の作家（アーティスト）と協働し、子ども向け絵本「千本の赤」の大人向けマンガ化をめざす活動を、オープンラーニング（中世の部落史を見直し深める講座）としてイキセン利用者に広く発信していくように支援する。

2 準備段階での工夫

- 楽只小学校 OB 教員にも呼びかけ、アドバイスをいただくことができた

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- マンガ化プロジェクトの編集会議を支援する中で、HAPS アーティストによる積極的な関わりが見られた。

（2）事業実施による目標の達成度

- （1）の達成度
 - ・12月 絵本「千本の赤」の増し刷りに向けて編集・校正を支援。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。
 - ・「千本の赤」の見直しを通して、中世の河原者の生活について理解が深まった。
 - ・共生館が旧楽只小学校跡地の複合施設である利点を生かし、各施設はもとより各施設の利用者の幅を広げ、利用者間の新しいつながりを構築する。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
冊子「ラクシノクラシ」を、「マンガ」や「絵本」・「京都本」をとおして現代を生きる人々の様々な人権問題と多文化共生の観点から教育資料・教材として活用していく。

事業風景の写真

- 写真は、事業風景がよく分かるように、できる限り大きくしてください。
- A4サイズ1枚までとしてください。



「絵本 千本の赤」3000部 増刷

第二版

(独自事業② 資料)

千本地域を中心に人権都市京都をめぐるガイド情報誌

事業提案者 NPO 法人 くらしネット 21

「仮 ラクシノガイド ～人権都市京都をめぐる～」の発行

編集方針：

反戦＝広島（原爆ドーム＝中心核）→人権＝京都（千本共生館＝中心核）

- ▶世界的人権都市、京都（北部を中心に）の新たな価値観を創造。
- ▶これからの国際人に必要な社会的ポリシーが詰まった
知的志向層にむけた指南ガイド（国際常識 SDGs＝人権尊重の精神）
- ▶史跡を紹介するガイド情報誌＋人権アイデンティティ。

ターゲット：

国内外を問わず京都を訪れる観光客 未来創造の担い手

- ▶国内と世界各国の観光客や人権に携わる知識人
- ▶国内と世界各国の学生や人権を学ぶ次世代層

巻頭の企画案 人権をキーワードにした読み物企画（例）

- ▶現代の世界が抱える人権問題のクローズアップ 各国
 - ※戦争と難民 ※人種と差別 ※民族間の歴史的軋轢など
 - ※ 図解でわかる客観的データ ※学者さんの見識（寄稿？取材？）
 - ※ 中和的存在「移民」の歴史と文化
 - 現代へつながるロマンと歴史的継承 シルクロードなど
- ▶お客様へのもてなし（料亭女将主人から寄稿 ex 萬重さんなど）
 - 平和と人権につながる世界的用語「おもてなし」を掘下る
- ▶人権がテーマやメッセージに込められた世界の映画
 - ※ エレファントマン ※天使にラブソング ※半地下の家族など
- ▶世界の注目「日本アニメが魅力的なワケ」登場人物の生立ち・階級
 - ※ 鬼滅の刃 ※本好きの下克上、※地獄楽、もののけ姫など

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業③計画①

【事業名】「子どもの教育支援ボランティア養成」(子育て支援活性化事業)

事業の概要

- 1 開催日時： 2025 年 1 月 ～ 2 月 10 回
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 会議室・楽只児童館等
- 3 参加人数： のべ 200 名
- 4 協力団体等： 実行委員会（楽只児童館・佛教大学教育学部後藤・堀家ゼミ）
- 5 予算：101,680 円 / 決算：101,591 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
 - ① 支援の必要な子どもへの理解と支援のあり方について理解を深める。
 - ・児童生徒の理解の基本や障がいのある子どもへの理解
 - ・子どもの学習習慣や基本的な生活習慣の定着について
 - ・集団活動や仲間づくりの基本について
 - ・近隣小学校での授業参観と指導案の作成などの体験
 - ②地域活動や市民活動のボランティアとしての実践力を身につける。
 - ・子どもたちと書き初めや昔の遊び大会など、一緒に楽しむ。
 - ・園庭を使つての小中学生の集団スポーツ活動を通したコミュニケーション能力の向上。
- 評価委員会から指摘された事項。
 - ・佛教大学教育学部後藤・堀家ゼミと協力し、引きこもりやひとり親家庭の子どもといった地域の課題についての活動を支援する。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたことも詳細に記載してください。
佛教大学教育学部後藤・堀家ゼミから、多数の学生の支援をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・支援の必要な子どもへの理解と支援のあり方について理解を深めることができた。
 - ・大学生の将来展望を確かにする、教育と福祉のボランティアの重要性への理解を深めた。
 - ・地域活動や市民活動のボランティアとしての実践力を身につけることができた。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・学習だけでなく、遊びをとおして子どもとの関係を深めることができた。
- アンケート結果などから代表的な意見等
 - ・遊びを通して、子どもとしっかり関わる時間を設ける。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
佛教大学をはじめ近隣の大学にも呼びかけ、教員養成・教育ボランティア活動を支援する。

事業風景の写真

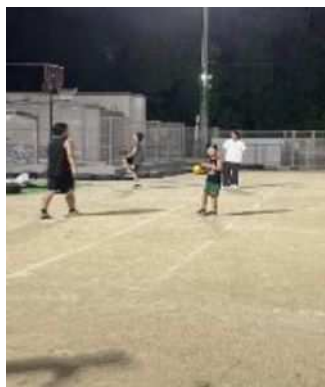
- ① 支援が必要な子どもへの理解と支援のあり方について話し合う



- ② 新年の書初め大会



- ③ 「一緒にバスケットしようよ」(夜間の開放)



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業③計画②

【事業名】「わんぱくキッズプログラムボランティア指導員養成」(タグラグビー)

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2024年6月9日(土) 10時～12時 9月22日 11月10日 12月9日
- 2 開催場所： 楽只保育所 園庭
- 3 参加人数： 各回 20名程度
- 4 協力団体等： 実行委員会(楽只児童館・楽只保育所・体育振興会等)
- 5 予算：475,000円 / 決算：474,988円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

- ・ラグビーボールに触れ、パスやタグ取り等集団スポーツの楽しさを体験する。
- ・簡単なゲームをする。

(当日のタイムスケジュール)

8:30 スタッフ集合 10:00 開会 準備運動 体験活動 12:00 閉会 後片付

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたことも詳細に記載してください。

京都市タグラグビー協会からも、指導者の派遣等協力をいただいた。

- 他センターにはない独自の広報の工夫などがあれば記載してください。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。

- ・タグラグビーをメインとする朝鮮初級学校とのスポーツ交流を通じた継続的な取組によって、多文化共生の理解を深める。
- ・2月実施の全市レベルの「ユアアイスクエア」の活動につないでいく。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・参加者同士の交流ができ、保護者の中にも自立したクラブ化への意識が高まってきた。

- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。

- ・小学校でのクラブ活動・放課後活動が減少していく中で、楽只児童館では外遊びの時間にタグラグビーを楽しむことから、クラブ化に向けた継続的 をめざす。

- ・広い園庭を力いっぱい走る姿が頼もしい。(保護者)

- ・子どもなりにパスなどもよく考えてプレーしている。(ボランティア)

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。

- ・継続的クラブ化のためにも、「親の会」の自立的・日常的な活動への支援。

事業風景の写真

ねんど だい かい がつ か にち
【2024年度 第1回】6月9日（日）
きょうせい かん たいけんかい
ふれあい共生館 タグラグビー体験会



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業③計画③

【事業名】「地域高齢者見守り・声かけ活動ボランティアリーダー養成」(楽ちゃんキッズデリ)

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2024年11月16・30日(土)10時～12時 12/7・21 1/18・2/1
- 2 開催場所： 楽只学区内
- 3 参加人数： 各回約30名
- 4 協力団体等： 実行委員会(社会福祉協議会・民生児童委員・老人福祉委員・自主防災会・共生館各団体・学生)
- 5 予算：120,000円 / 決算：117,374円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

NPOくらしネット21と社協が進める地域の独居高齢者への配食サービスと見守り活動を支援し、高齢者の健康・安全を見守り活動を応援しながら、次世代の地域の中高・大学生と共に、社協の地域リーダーの地域高齢者の見守りと声かけ活動のボランティアリーダーの育成を支援する。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたことも詳細に記載してください。

民生児童委員・老人福祉委員にも呼びかけ、協力をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなど。

世代間交流を目指した企画・運営を支援し、若い世代に継承・発展を促し、自立・自走組織としての継続を支援する。その際、地域の実態に目を向け、顔の見える関係性の構築・災害時の支援体制など地域に働きかける人材育成も視野に、地域福祉を多世代で支援していく。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。

・「足が痛いので中に入ってきて」という高齢者から生活の困りごと・支援・相談等もうかがい、見守りや交流が深まってきた。

- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。・「デリと違う日もあいさつができるように街に笑顔が増えてきた。」

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。

- ・土曜日の午前中はデイサービスに出かけて、不在の方が結構おられる。
- ・材料費の高騰を受け、今年度から「お弁当代」が値上がりした。
- ・昼食のお弁当だけでなく、他のいろいろなソウルフードについても、提供できるように工夫したい。そのための料理教室等も計画する。

事業風景の写真

「お弁当をどうぞ」



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業③計画④

【事業名】「地域福祉ボランティア養成」(共生社会推進支援者養成セミナー)

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時：2025年2月26日(水)13:30時～15時 3月3日(水)13:30時～15時
- 2 開催場所：北いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数：22名
- 4 協力団体等：実行委員会「まのあ勉強会実行委員会」(まのあ・ライトハウス)
- 5 予算：128,320円 / 決算：121,084円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

「まのあ勉強会」の実施

- ①京都ライトハウスの行う様々な支援について 講師 支援部長
- ②視覚に障害のある子どもへの支援 講師 「あいあい教室」所長
- 評価委員会から指摘された事項があれば、その改善点を記載してください。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体に協力いただいたことも詳細に記載してください。
京都ライトハウス・あいあい教室には、施設見学等多大な協力をいただいた。
- 他センターにはない独自の広報の工夫などがあれば記載してください。
近隣の放課後等デイサービスにも呼びかけた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
居宅介護支援事業所「まのあ」と連携・協働し、障がい者が人的交流・芸術的活動に参加しやすい共生館施設として、支援者育成を支援する。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。
関心が高く、学生・保護者・福祉団体など多様な参加がえられた。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。
点字図書やガイドの活動について知り、ボランティアについて関心が高まった。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
・福祉ボランティアや介助ボランティアの養成講座として人材開発・人材確保の支援を進め、福祉のまちづくりと福祉の仕事をマッチングさせ、自立的な活動の推進と自走化に向けて取り組み、「特色ある施設へと進化」を目指す。

事業風景の写真

まのあ勉強会1 2月26日(水) 13時半～15時 参加者10名
京都ライトハウスの行う様々な支援について 講師 支援部長

13時半～14時

研修「京都ライトハウスってどんなところ」



14時～15時

施設見学



まのあ勉強会2 3月3日(月) 13時半～15時 参加者12名
視覚に障がいのある子どもへの支援 講師「あいあい教室」所長

13時半～14時

研修「視覚に障がいのある子どもへの支援」



研修

(北いきいき市民活動センター 会議室2)

14時～15時

施設見学



感覚を知る教具

(視覚支援あいあい教室内)

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

事業③計画⑤

【事業名】「地域の歴史・文化活動ボランティア養成と歴史研究」

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時： 2025 年 1 月 11・18・25 日（土）13 時～15 時
- 2 開催場所： 北いきいき市民活動センター 会議室 等
- 3 参加人数： 計 45 名
- 4 協力団体等： 実行委員会（地域歴史研究会・正覚寺等）
- 5 予算：450,000 円 / 決算：445,058 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。
 - ・地域の寺院の成立からの移り変わりについて調査研究を支援する。
 - ・地域のお年寄りから、地域の歴史・文化風俗についての聞き取りを行い、アーカイブ化を支援する。
 - ・研究会の主催する報告会(オープンラーニング)を支援する。
 - 「野口村の移転と蓮台の村の成立」
 - 「地域に残る資料の再発見と評価」
 - 「中世河原者「千本の赤」を探る」
- 評価委員会から指摘された事項があれば、その改善点を記載してください。

2 準備段階での工夫

- ボランティアや他団体 京都文化博物館や京都市歴史資料館

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなど。
歴史・伝統のまちづくりを推進し、歴史・文化に関わろうとするボランティア養成を支援する。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
地域の歴史・文化風俗について聞き取りを行い、アーカイブ化を進めることができた。
- アンケート結果などから代表的な意見等を抜粋し、事業に対する客観的な評価を記載してください。
「野口の河原者の活動から、その時代をたくましく生き抜いてきたことが知れた。」

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・中世の職能民としての活躍について、より具体的に明らかにしていく。
 - ・資料・史料の収集方法や保存方法について工夫する。

事業風景の写真

オープンラーニングの様子



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：4,201,519 円（前年度比 95.7%）

〔内訳 会議室等：3,998,199 円
附属設備：203,320 円 ※自主事業分を除く
スモールオフィス：0 円〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和6年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

（2）センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
16.9%	78.4%	3.9%	0.4%	0.4%

（2）センター独自アンケート

○結果の概要を可能な範囲で記載してください。（ 概ね満足 ）

3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したもの

- ① 「各部屋への案内表示が分かりにくい」→利用者目線で表示を増やした。
- ② 「窓口対応」→職員同士の連携を密にし、接遇マニュアルを共有する。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

指定管理3年次も終わり、提案業務に関わる各実行委員会の話し合いも順調に進めることができ、共生館内でのネットワークも進化してきた。

- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

運営スタッフの、積極的運用（地域へ出ていく活動）と有効活用の手立て（勤務体制）。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

指定管理最終年度として、市民活動支援について、各団体が自走化できるように担い手や人材育成・活動支援を積極的に進める。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例) 重大な事故やコンプライアンス違反等 特になし

例) 年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業 なし。

すべて実施。

京都市 北 いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 NPO法人くらしネット21

代表者名 理事長 後藤 直

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		19,342,280	19,342,280	0
利用料金収入		3,570,000	4,201,519	631,519
	会議室等	3,400,000	3,998,199	598,199
	スモールオフィス	0		0
	付属設備（自主事業を除く）	170,000	203,320	33,320
その他 収入	光熱水費分担金	0	0	0
	個別事業参加費	0	0	0
				0
				0
				0
当期収入合計		22,912,280	23,543,799	631,519
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		13,700,000	14,316,996	▲ 616,996
	職員2名	4,800,000	4,640,000	160,000
	非常勤職員11名	7,500,000	7,796,945	▲ 296,945
	法定福利費	1,000,000	1,415,923	▲ 415,923
	福利厚生費	400,000	464,128	▲ 64,128
光熱水費		2,740,000	2,231,571	508,429
	電気代	2,500,000	2,023,255	476,745
	ガス代	140,000	113,673	26,327
	水道代	100,000	94,643	5,357
施設管理費		0	0	0
	樹木剪定			0
	定期清掃等			0
	機械警備			0
	消防保守点検			0
	E V保守点検			0
	空調保守点検			0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検			0
	自家用電気工作物			0
	雑用水用給水設備			0
	建築設備点検			0
	空気環境測定等			0
				0

事務費		1,932,280	2,006,771	▲ 74,491
	電話代	350,000	302,920	47,080
	事務用品	800,000	871,957	▲ 71,957
	雑費	782,280	831,894	▲ 49,614
修繕費		440,000	132,220	307,780
	ガラス修繕	100,000	27,170	72,830
	掲示板修繕→キャスター取替	190,000	5,500	184,500
	多目的ホール床ワックス	150,000	99,550	50,450
備品購入費（5万円以上の物品）		70,000	0	70,000
		70,000	0	70,000
				0
				0
租税公課		160,000	114,948	45,052
	源泉徴収税	160,000	114,948	45,052
				0
				0
その他		120,000	114,120	5,880
	賠償責任保険保険料	70,000	68,920	1,080
	諸会費	50,000	45,200	4,800
施設運営業務支出合計		19,162,280	18,916,626	245,654
2. 事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		3,750,000	3,662,305	87,695
	交流事業	1,200,000	1,171,771	28,229
	地域・社会貢献事業	1,275,000	1,230,439	44,561
	地域活動・ボランティア・活動家養成事業	1,275,000	1,260,095	14,905
				0
				0
サロン運営・活用事業費		0	0	0
				0
				0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		3,750,000	3,662,305	87,695
当期支出合計		22,912,280	22,578,931	333,349
当期収支差額		0	964,868	964,868

令和6年度 事業報告書 岡崎いきいき市民活動センター



【指定管理者:特定非営利活動法人 音の風】



1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 11 名（常勤 1 名、非常勤 11 名）

【人材育成の取組】

- ・ OJT 研修
- ・ オンライン視聴研修「中間支援を考えるシンポジウム」ひょうごコミュニティ財団
- ・ オンライン視聴研修「地域社会から選ばれる存在となるために」大阪市市民活動総合ポータルサイト

(2) 貸館等

ア 利用件数

(表 1)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度比
R5	130	128	126	136	128	143	133	124	121	116	130	149	1,564	91.84%
R6	141	134	150	139	135	161	165	148	130	134	126	160	1,723	110.17%

(年間) 1,723 件 (前年度比 110.17%)

(表 2) 月別時間

R6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
午前	121	109	133	126	120	138	139	126	114	107	101	134	1,468
午後	155	173	185	170	155	206	187	189	170	183	165	205	2,143
夜間	54	33	40	40	38	45	53	49	31	32	33	55	503
R6合計	330	315	358	336	313	389	379	364	315	322	299	394	4,114
R5合計	316	320	319	313	330	387	342	292	290	276	318	371	3,874
前年度比	104.43%	98.44%	112.23%	107.35%	94.85%	100.52%	110.82%	124.66%	108.62%	116.67%	94.03%	106.20%	106.20%

イ 利用状況

① 年間の利用状況について

件数でみると前年から 110.17%の増加（表 1）、時間は 106.20%増加している。（表 2）

9 月、10 月、11 月、3 月に利用時間が上がっている要因として、10 月の青空おんがく祭、12 月の市民活動総合センターのみんなの文化祭、3 月のサークル見本市などの事業の前に、発表に向けて練習を多くされていることがあげられる。また、コーラスやシニア音楽グループなども、コンクールや発表会の前は、いつもの練習に加えて時間を延長して利用があった。

（表 3）は 3 月を例として、利用団体別に時間で分析したものである。定期利用団体が 35 件、237 時間。不定期でよく利用がある団体・個人が 25 件、85 時間。これらの団体で 81.8%の利用があった。

1 回また年に数回程度の利用が 11 件 34 時間。センターで事業、調律や抽選会などで使った時間が 38 時間 9.6%である。

令和 6 年は、新規利用登録が 46 件あった。このうち毎月の定期的な利用につながったのが 3 件、また複数回の利用が 8 件であった。それ以外は 1 回のみの利用である。

(表 3) 利用団体別時間分析(3月) 単位：時間

定期利用	237	60.2%
不定期利用（多め）	85	21.6%
年に数回程度、または1回	34	8.6%
共有外：センター事業等	38	9.6%
合計利用時間	394	

② 課題や改善

○課題

- ・会議室に比べ和室の利用が低い。昨年と比較すると、会議室2の利用が増えていない。

R5年度	会議室1 1486時間	会議室2 1312時間	和室 768時間
R6年度	会議室1 1634時間	会議室2 1310時間	和室 922時間

会議室1：1634時間 会議室2：1310時間 和室：922時間 合計：3866時間（R6 有料利用のみ）

R6年度	午前 1402時間	午後 1991時間	夜間 473時間
------	--------------	--------------	-------------

- ・夜の時間帯の利用が低い。

ウ 利用促進に向けた取組【センターで取り組んだこと】

貸館利用促進企画として、夜間の利用を狙い『ふらっとアトリエ』に取り組んだが、思うように利用者がなかった。そこで新たに、個人練習を呼び掛けるチラシを作成し、サークル活動前に自宅での練習不足を補うため、また活動終了後にもう少し納得いくまで練習したいという方の利用につながった。次年度も和室や夜間の利用を呼び掛ける工夫を行いたい。

昨年から続いている町内老人会の健康麻雀は、参加者も多く定期的に開催されている。このように新規利用者が定期利用につながるような働きかけを行いたい。



（3）情報発信等

ア 取組実績【SNS 等広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例】

- ・HP、Facebook、X（旧ツイッター）と3つのSNSを情報発信の特性に応じて分けている。
- ・HPはこれから行う事業の告知と、終了した事業を報告している。いくつかの提案事業では専用ページを作り、内容の告知や出演するサークルの紹介などを行った。

また新規利用者の登録がスムーズに進むように登録用紙や利用規約をダウンロードして記入できるようにしている。新規利用について電話で問い合わせがあった際は、来館しなくても登録できるように利便性を高めている。

- ・Facebookでは事業の報告、Xは日々のニュースや、他のセンターや近隣施設のポスト、そして助成金情報などのリポストなどを日々気軽におこなっている。Xはほぼ1日に1回程度、今までのポストは3,879件（4/5現在）当センターのフォロワーも徐々に増加し4/5の時点で840人となった。
- ・地域自治推進室を通じた区民新聞への広報もこまめに広報依頼をしているほか、京都新聞のお知らせ欄「まちかど」にも依頼している。

・昨年度は、京都新聞に数回センターの取り組みが取り上げられた。レコードを聴く会 10 周年を記念して発行した冊子から、センターフェンスでのいちご栽培、またドラムサークル、シニアの地域活動と記者の方を見かけるたびに、センターの事業をアピールすることで新聞に取り上げてもらうことができた。

- ・「文化と地域デザイン学会」共同代表の同志社大学名誉教授の新川達郎先生に学会年報に当センターを記載したいとインタビューを受けた。またその内容は「文化×地域×デザインが社会を元気にする」という本として、2025 年 3 月に出版された
- ・地元町内会対象に「岡崎いきセン便り」を作成し回覧している。



イ 取組の効果

事業が新聞に多く掲載された。レコードを聴く会 10 周年冊子では多くの市民からの問合せがあり、レコードを聴く会への来会者が昨年比 125%と大幅に増え、かける会に参入された方もおられた。またセンターの X での取り上げで、自ら SNS を発信していない市民活動の会に問い合わせがあり活動を応援することができた。

(4) 管理運営

京都市との協定書及び仕様書に基づき、適切に管理運営を行っている。

防火管理者の講習は 2 人のスタッフが受けている。

業者による、建築設備、消防設備の保守点検を受けた。年に 2 回のワックスがけ等の清掃もしている。植栽等は高木に関しては剪定業者に整えてもらっている。他、普段の清掃、保守管理、草花の植栽はスタッフにより実施している。

(5) その他

【施設運営の質を高めるための取組】

- ・京都市の定期アンケートのほか独自アンケート、事業ごとにアンケートを実施し利用者の意見を聞いている。詳細は後述「4 施設の利用満足度」。
- ・各建物にご意見ボックスを設置し、窓口でも利用者への積極的な声掛けで良好なコミュニケーションをとっている。また、10 月を相談月間として大々的にサークルの悩みなどのヒアリングに努めた。

【将来に向かって地域と共に進化するための取組】

- ・地元密着型公共施設として地域とのパートナーシップを強化し、小回りを利かせた活動で地域団体との協働をすすめている。地元施設からの依頼で、学校や利用者をコーディネートしている。
- ・左京区役所ふれあいまつり出演や、区役所イベントのチラシ配架を行っている。また区のまちづくり助成金事業等の審査員紹介なども行った。

2. 市民活動支援・活性化事業 *岡崎いきいき市民活動センターは、すべて市民活動支援活性化事業

【事業名】市民活動自立自走事業 相談・育成事業

1 事業の概要

	業務内容	日時	場所	人数	協力団体等
①	ロームスクエアライブ『岡崎パークステージ』出演グループコーディネート	10/5	ローム・スクエア（ロームシアター京都中庭）	233名、観客多数	ロームシアター京都
②	ドラムサークルグループサポート	R6/7～R7/3	センター、錦林小学校体育館	37名、その他イベントごとに来場者	錦林小学校、
③	岡崎いきセン利用者交流会『サークル見本市』	3/15	ローム・スクエア（ロームシアター京都中庭）	出演者約70名、観客約30名	
④	センター利用団体の活動サポート、地域へのコーディネート ア) チラシ作成サポート イ) 左京区ふれあい祭 ウ) 保育園コーディネート エ) 市縁堂団体募金箱設置	ア) 9月 イ) 11/4 ウ) 1/30 エ) 11, 12月	イ) 左京区役所 ウ) あおき保育園	ア) 2団体 イ) 出演者8名＋観客多数 ウ) 出演者5名＋観客20名 ウ) 2団体	イ) 左京区役所 ウ) あおき保育園 エ) 京都市市民活動総合センター、エイブルパフォーマンス柄
⑤	センター利用者相談月間	10月	センター	2団体	
予算：855,000円 決算：864,966円					

2 事業内容

- ① ロームスクエアライブ『岡崎パークステージ』地域団体出演グループコーディネート
ドラムサークルグループ、あおい苑（障がい者施設）、岡崎幼児園、錦林児童館、文教中学高等学校ダンス部、岡崎中学校吹奏楽部
- ② ドラムサークルグループサポート
養成講座終了後、昨年できたサークルグループ「Kyo 響 Beat」のメンバーが増えた。活動先へのコーディネートとサークル運営に関してミーティングにかかわった。
- ③ 岡崎いきセン利用者交流会『サークル見本市』
様々なセンター利用グループが発表を行い、準備や司会なども相互に行い交流をはかった。
- ④ センター利用団体の活動サポート、地域へのコーディネート
チラシアドバイス、コーラスグループの発表会イベントにアドバイスを行う。左京区民ふれあい祭りに、センター利用団体こどもコーラス Comodo を出演、オープニングイベントで会場を盛り上げた。てをつなぐ青木保育園に、センター利用団体錦林アカペラコーラスをコーディネート。お楽しみ音楽会で手遊び歌や、子ども向けの曲を歌い盛り上げた。市縁堂 2024 団体のエイブルパフォーマンス集団柄（ガラ）の募金箱を設置し募金協力を行った。
- ⑤ センター利用者相談月間
サークル活動についての悩みや運営の相談を個別に行いスムーズな運営につなげた。（卓球ビギナービギナー、ふれあいネットアンサンブル）

3 準備段階での工夫

- ① ロームスクエアライブでは、主催者ロームシアター京都の担当者が変わったので、当センター主導で出演者等の調整等を行った。
- ② ドラムサークルグループの活動場所として、小学校で行われる地域の夏祭りを想定し、春から小学校と自治連合会と連絡を密に行い調整した。また、騒音についての配慮として、学校周辺の家に「夏祭りの音量に関するお詫び」のチラシをポスティングした。
- ③ サークル見本市では、センター側のスタッフ不在でもイベントが進むように、当日の進行の流れや紹介文の準備など綿密に行った。
- ④ 保育園のコンサートの依頼に際し、対象となる幼児やそのイベントの内容を細かに聞き取り曲選定など相談にのった。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

当センターの利用者、グループの活動の活性化をはかる。市民活動グループの自立自走を目指す。またグループの活動活性化を促進することで、貸館利用の拡大も狙う。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・利用者や地域団体を市民活動につなげることができた。
- ・発表の場を求めている、地域団体、サークル活動を活性化することができた。
- ・子どもむけの曲を練習しているコーラスグループに、得意分野を活かしたボランティア活動を提案することができた。
- ・サークル見本市で交流し、新規加入者があり活動が活性化した。
- ・一般市民にセンターの取組みを周知することができた。

○アンケート結果より

① ロームスクエアライブより：地域イベントへの協力について

(ア) 子どもたちのモチベーションアップに繋がっています。このような舞台での発表を目標に練習をしているクラブもありますので、ぜひ次回も参加できればうれしいです。保護者の方はもちろん、地域の方々にも見ていただける機会となっています。出演後はいつもいろいろな方からお声がけをいただき、地域の方々との繋がりも生まれる素敵なイベントだなと感じております。(錦林児童館)

(イ) 地域でのイベント協力、参加は何よりも大事だと思っております。地域の方々の応援・サポートあってこそ吹奏楽活動だと以前から強く感じております。今後も可能な限り協力、参加したいと思っております。(岡崎中学校)

5 今後の抱負

- ・利用者相談月間だけでなく、普段の対応や会話から相談や悩みがあれば、全スタッフで情報を共有しサポートを続けていきたい。
- ・利用者のサークル活動を、児童施設や老人福祉施設、障がい者施設にボランティアに出かける市民活動化を進めていきたい。
- ・新規サークルの立ち上げや利用団体の活動の活性化による貸館利用時間の増加を目指す。

市民活動自立自走事業 相談・育成事業



①岡崎パークステージ 岡崎中学校吹奏楽部



②ドラムサークルサポート 小学校夏祭りコーディネート



③サークル見本市 参加者で準備飾りつけ



③サークル見本市 閉会式記念撮影 お客さんも出演者も



④活動サポート 左京区ふれあい祭 子どもコーラス



④活動サポート 保育園 アカペラグループコーディネート



④チラシ作成サポート コーラス発表会チラシ作成のアドバイス



⑤サークル利用者相談月間 卓球団体

【事業名】 市民活動自立自走事業 イベント企画支援「青空おんがく会」実施

1 事業の概要

- 1 開催日時：R6/10/26 日（土）準備 10-13 時 本番 13-16 時 片付け 16-17 時
- 2 開催場所：センター 音の庭（二条通に面した小庭）
- 3 参加人数：企画者：ホシノカケラ 3 名、出演者：6 グループ、観客、約 50 名
- 4 予算： 105,000 円 / 決算： 104,165 円

2 事業内容

センター利用団体に、センター二条通に面した庭での音楽イベント企画を募集し、コーラスグループ「ホシノカケラ」が応募。企画立案から当日の運営にいたるまでの支援を行った。

【役割】

- ・企画者：イベントの出演者の出演依頼、企画立案、チラシ作成、広報、準備、設営、司会進行、音響等、片付け。
- ・センター：場所、市内各所へのチラシ配架依頼、SNS 等での広報。音響。写真・動画撮影、他運営補助全般。

3 準備段階での工夫

- ・企画者にとっては初めてのイベント企画だったので、余裕を持った日程設定、出演者の選定やチラシ作成へのアドバイス、当日までの準備など順を追って説明し相談にのった。

4 事業実施による効果・達成度

（１） 当初の事業効果，目標等

サークル活動から市民活動へ一歩踏み出すために、自らイベントを開催する企画力の養成

（２） 事業実施による目標の達成度

- ・出演者の立場から、企画運営も担いイベント全体の流れを理解することができたことで、過去のイベントも含め企画運営側への目線に立つことができた。
 - ・企画運営側の苦労を経験したうえで、終了後には次回開催への意気込みが感じられた。
- 本事業の開催により、音楽サークルが、市民交流イベントの企画運営という市民活動に向けた第一歩としての効果が得られた。

○ アンケート結果

- ・企画者：Q. 企画段階で、苦労したこと難しかったこと工夫したこと。
A. 何から手をつけて良いか手探りだったので不安だったが、センターのサポートが受けられたので心強かった
- ・出演者：あまり人前に出るのが得意ではないので緊張しましたが、良い経験になりました。
客席が大き過ぎず仲間が見守ってくれていて、初心者の私にはちょうど良いイベントに思えました。

5 今後の抱負

イベント終了後、企画者出演者よりまた機会があればこのようなイベントをしたいという相談もあった。今後もレベルに合わせて引き続きサポートを続けていきたい。

市民活動自立自走事業 イベント企画支援「あおぞら音楽会」



椅子、飾りつけ他、セッティングも出演者と一緒に。



午前中に行われたリハーサル



司会は企画者「ホシノカケラ」メンバーで



客席も満席



周辺から音の庭を見守る観客



今回が初舞台だった男性ギターユニット



企画者、ホシノカケラの演奏



最後は客席にも歌詞を配り全員で合唱

【事業名】市民活動自立自走事業 まちあるき&手作りマップ

① アートライター講座 ② まちあるきギャラリー巡りツアー

1 事業の概要

- 1 開催日時：①11/16（土）13：00～16：00
②1回目 11/22（金）12：45～16：30、2回目 11/30（土）12：45～16：30
- 2 開催場所：①会議室2とロームシアター京都中庭
②和室と岡崎近辺のギャラリー4か所
- 3 参加人数：①29人 ②11/22：17人 11/30：15人
- 4 協力団体等：京都市美術館、芦屋画廊、ギャラリー恵風、京都写真美術館ギャラリー等岡崎
周辺ギャラリー8か所
講師：①藤井容子氏 ②11/22 美術作家：多田幸浩氏、11/30 京セラ美術館副館長 小林中氏
- 5 予算：467,000円 決算：462,545円

2 事業内容

【実施目的】①まちの魅力を発信するための文章をつくるコツを学ぶ。

②岡崎のまち歩きを楽しみながら、地域の魅力の発見、市民目線での発信を目指す。

【実施内容】

①講師より新聞記事を例に「足・目・心」の視点で見るライティングの講義を受けた。ロームスクエアにて、京都市美術館別館やロームシアター京都の建物を題材に表現するWS、センターにて動画を視聴しての感想を伝えるWSを、講義で学んだ視点で伝え合うペアワークを行う
②11/22 は美術作家のヒロ氏と、11/30 は京都市京セラ美術館副館長の小林氏を講師に迎え、岡崎エリアを中心としたギャラリーと美術館をそれぞれ各4か所巡った。まち歩きを楽しむとともに、各ギャラリーを担当グループに分かれて取材。センターに帰ってから、記事にまとめた。その記事を元に、アートのまちである岡崎の魅力を伝えるギャラリーマップを作成する。

3 準備段階での工夫

3年前からギャラリー巡りをはじめ、事前に講師と共に歩き高齢者に無理のない行程になるよう考えている。今回はライター講座を先に企画して、ギャラリー情報を言語化する力を高め、ライター講座参加メンバーが積極的にグループ内で発言をまとめ記事にした。

4 事業実施による効果・達成度

①ライターの視点の解説により、ワークショップで記事をまとめる際にも「考え方、表現の仕方がまとまった文章が書ける。」「深く考えることができたようになった。」と参加者からも良かった点が多数あげられている。今回の講座受講者から、ギャラリー巡りツアーに11名参加があり、講座で得た知識で魅力を発信することができた。

②アート施設の多い岡崎エリアのギャラリーや美術館を巡る事により、地域の魅力を再発見することができた。またグループ同士で一丸となり記事作成や取材をすることで参加者同士の交流や、地域ギャラリーとの交流が生まれやすい場作りができた。

5 今後の抱負

当講座終了後に参加者がギャラリー巡りを通して発見した地域の魅力を SNS 等で発信できるような工夫をしたい。

市民活動自立自走事業 まちあるき手作りマップ

①アートライター講座 ②ギャラリー巡リツアー

①アートライター講座 11/16



座学にて表現のコツを聴く参加者



ロームシアター京都にて建物を表現するペアワーク

②ギャラリー巡リツアー11/22、11/30



講師のヒロ氏のギャラリー巡りのルールの説明



京セラ美術館の作品展示について話を聞く参加者



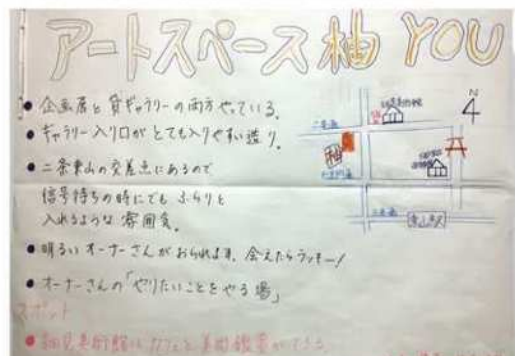
ギャラリーオーナーに取材する参加者



グループ同士で記事をまとめる参加者



まとめた記事をグループごとに発表



当記事を用いて後日センターで
ギャラリーマップを作成する

【事業名】文化芸術交流連携事業 社会包摂とアート 福祉ドラムファシリテータ養成講座

1 事業の概要

- 1 開催日時：令和 R6/6/15（土）、6/29（土）、7/13（土）、7/14（日） 各日 13・17 時
- 2 開催場所：6/15：錦林小学校、他はセンター
- 3 参加人数：講座参加者 29 名
- 4 協力団体等：株式会社ビートオブサクセス、錦林小学校 PTA
- 5 予算：875,000 円 / 決算：883,639 円

2 事業内容

【実施内容】

- ・打楽器を通じた福祉活動や企業研修を行っているビートオブサクセスより講師を招き、講義と実技を学んだ。
- ・初日は小学校でのイベントを企画し、小学生の親子参加者に混じって、講座受講者はドラムサークルを体験した。
- ・昨年の受講生が自主的に活動しているドラムサークルクラブを紹介し、今後地域イベント出演のコーディネートをを行った。

3 準備段階での工夫

ドラムサークルの魅力を伝えるために、初回に小学校でのイベントを企画した。また、昨年の受講生が活動しているドラムサークルグループとうまく連携できるように去年の企画者もオブザーバーという形で参加できるようにした。

4 事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果、目標等

文化芸術を通して地域福祉に貢献する人材の育成を行い、地域への派遣を行うことを目的とする。

（２）事業実施による目標の達成度

- ・講座終了後、錦林小学校で開催された岡崎自治連合会の夏祭りに講師と参加して経験を積むことができた。また、受講者のみでロームスクエアライブでドラムサークルのファシリテーターを実践し経験を積むことができた。
- ・センターで和室で開催された岡崎学区社会福祉協議会のいどばたサロン、事業「サークル見本市」などでドラムサークルを行い経験を積んでいる。

○アンケート 自由記述より一部抜粋

たった、4 回の交流とは思えないほどあたたかくて、変に力を入れずに過ごせる素敵な場になりました。私はもともと非言語コミュニケーションに興味があり、今回人類共通の一番シンプルなビートをサークルのみで共有するという体験ができて、自分の中にまた新しい感覚が芽生えたのを感じられました。この先どこに行ってもいつまでもこのビートと感情があれば生きていけるなあと考えたことはとても大きな財産です。導いてくださりありがとうございました。仲間の皆さんとも出会えてよかった。また叩きたいです。

5 今後の抱負

ドラムサークルグループに参加する人が社会課題に気が付き、ボランティアとして積極的に地域福祉に貢献するメンバーを増やし、安定的なドラムサークルクラブの活動が動き出すまで伴走しながら支援を継続していきたい。

文化芸術交流連携事業 社会包摂とアート 福祉ドラムファシリテーター養成講座



6/15:1回目:錦林小学校でDC体験。受講者もはじめてドラムに触れる人も多い



受講者は親子と混じって体験。講師のファシリテーションで1時間ほどのDCは終了



1回目:小学校の後、センターに帰って講義

6/29:2回目:真ん中に立ってファシリテータの体験中



7/13:3回目:手作り楽器、段ボール、鍋など身近なものでの楽器体験

7/14:4回目:4回の講義を無遅刻無欠席の受講者は、当センター認定ファシリテーターに任命。地域活動に取組まれる。

【事業名】文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会 2024

1 事業の概要

- 1 開催日時：①レコードを聴く会 4/27、5/25、6/22、7/27、8/24、9/21、9/28、10/26、11/23、12/21、R7 年 1/25、2/22、3/8、3/22（全日 14：00～15：30） ②レコードをかける会 12/28（14：00～15：30） ③お出かけレコードを聴く会 7/31（13 時半～15 時） R7 年 3/27（10 時～11 時半）
- 2 開催場所：①②センター和室 ③東山老人福祉センター
- 3 参加人数：①4/27：21 名、5/25：15 名、6/22：21 名、7/27：30 名、8/24：26 名、9/21：35 名、9/28：35 名、10/26：31 名、11/23：23 名、12/21：29 名、R7 年 1/25：27 名、2/22：22 名、3/8：32 名、3/22：20 名（計 367 名） ②12/28：20 名（計 20 名） ③7/31：12 名、3/27：12 名（計 24 名）（①②③合計 411 名）
- 4 協力団体等：岡崎レコードを聴く会サークル、東山老人福祉センター
- 5 予算：411,000 円 決算：410,029 円

2 事業内容

- ・毎月 1 回、レコードを聴く会の開催、年 1 回の企画者交流会の開催、お出かけレコードを聴く会の開催、新規企画者の育成、市民企画者の自立・自走支援

3 準備段階での工夫

- ・それぞれの企画者に見合ったサポートをするために企画者ごとにスキルを分析した。
- ・受け身側だった来場者が能動的に動き出せるようにと「レコードをかける会」を企画した。
- ・レコードを聴く会の企画者が固定化しないように新しい企画者を志願する人を来場者の中から探した。
- ・集客が思わしくないと推測できる会の前には京都新聞まちかどの掲載などを利用した。

4 事業実施による効果・達成度

- （1）当初の事業効果、目標等
 - ・企画者の自立自走へ向けて。
- （2）事業実施による目標の達成度
 - ・それぞれの企画者のスキルを分析し、企画者ごとに見合ったサポートをし、自立に向けてさらに一歩前進できた。
 - ・企画者の中でもリーダー的な存在の企画者が企画者交流会を取りまとめ企画者同士で作り上げる会ができた。
 - ・企画者の中の数名が自身で企画運営し、自主企画の会へと踏み出す事が出来た。
 - ・昨年度は 330 人だった来場者が 411 人となり、本年度は 125%増となった。

5 今後の抱負

- ・リーダー的な存在の企画者をまとめ役にして企画者同士で作りに上げる会を作り、自主運営を学べる場を作っていきたい。
- ・お出かけレコードを聴く会を今後も開催し、企画者が市民活動に気づきを持てる環境を作っていきたい。
- ・受け身側だった参加者が能動的に動き出せる「レコードをかける会」を来年度も計画していきたい。

文化芸術交流連携事業 レコードを聴く会2024



念入りに企画をし広報にも力を入れた甲斐あり、大盛況な会となった



自発的に会場の片付けのサポートをする来場者



センターの利用団体を交えウクレレとオカリナの生演奏



レコード曲を歌い一体感が生まれた会となった



人気の招聘講師の会



受け身の来場者が能動的に会に参加するレコードをかける会



各月の会のメンバーが集まり、企画者同士がサポートし合い会を運営する企画者交流会



東山老人福祉センターで開催した、お出かけレコードを聴く会

【事業名】多世代交流事業 岡崎ワールドミュージックフェスタ

1 事業の概要

- 1 開催日時：①岡崎ワールドミュージックフェスタ mini 9/29(日) (13:00～16:30)
②ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：5/18、7/20、9/16、9/23、10/12、12/14、1/11、3/20 (全日 14:00～15:30) ③打合せ (5/31、②の終了後、他日は SNS でのメッセージなど)
- 2 開催場所：①ロームシアター京都ロームスクエア内 ②岡崎いきいき市民活動センター和室
③京都文教大学・宇治キャンパス、岡崎いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①約 100 人 ②各回約 5～20 人 ③各回約 3～5 人
- 4 協力団体等：京都国際交流会館、ロームシアター京都
- 5 予算：435,000 円 決算：434,812 円

2 事業内容

- ・岡崎近隣施設（京都市国際交流会館、ロームシアター京都）、地域団体、市民との連携から生まれたまちのにぎわい創りによる音楽フェスの側面的支援。
- ・地域団体の小学生からセンター高齢利用者の多世代交流の中、一丸となり音楽フェスを作る。
- ・ワールドミュージックを聴く会・ワークショップ：ミニコンサートやワールドミュージックの勉強会などを、2 か月に 1 回程度で開催。ワークショップでは手作り三味線や民族楽器演奏体験などを行う。
- ・自立自走に向けた体制づくり。

3 準備段階での工夫

- ・会の終了後には必ずミーティングを行い、また頻繁に SNS でのやり取りを行い、実行委員の現状を把握しておく。
- ・参加者を増やすため、「レコードを聴く会」事業の企画者や参加者に声掛けをした。また京都新聞のまちかどの掲載を利用した。

4 事業実施による効果・達成度

(3) 当初の事業効果、目標等

- ・小規模なイベントでありながらも継続していけるようサポートを行う。
- ・多世代で交流できる音楽フェスやワークショップを行う。

(4) 事業実施による目標の達成度

- ・岡崎近隣施設と地域団体、市民との連携の中イベントを行い、多世代が交流する場づくりができた。
- ・実行委員長が不在となった岡崎ワールドミュージックフェスタの存続のために実行委員の 1 人がワールドミュージックを聴く会の中心として名乗り出た事で継続が見込める事になった。
- ・岡崎ワールドミュージックフェスタ mini で当事業に興味を持った参加者がワールドミュージックを聴く会にも足を運ぶようになり交流の輪が広がった。

5 今後の抱負

- ・さらに多世代交流が生まれるワールドミュージックを聴く会を目指していきたい。

多世代交流事業 岡崎ワールドミュージックフェスタ



京都市国際交流会館連携企画。海外留学生達が講演した



珍しい楽器を試奏しながら市民と交流した



子供と子育て世代との交流ができた楽器作りWS



岡崎ワールドミュージックフェスタminiルーム・スクエアにて



アイヌの音楽と気孔のWSを体験する参加者



ピアノと箏、パーカッションの生演奏を楽しむ参加者



三味線の音の聴き比べを参加者と共に行った



レコードを聴く企画者と当実行委員と連携イベントを開催

【事業名】地域連携事業 岡崎わいわい文化祭

1 事業の概要

- 1 開催日時：①文化祭：R7年2月1日(土)13:10～16:00
②会場スタッフ会議：R7年1月9日(木) ③出演者会議：R7年1月15日(水)
④実行委員スタッフ会議：R7年1月22日(水)
- 2 開催場所：①京都市国際交流会館メインホール、ホワイエ ②京都市国際交流会館
③センター会議室1 ④岡崎集会所
- 3 参加人数：わいわい文化祭入場者数：約350名（出演者：岡崎中学吹奏楽部、京都文教中高ダンス部、錦林児童館、岡崎女性会、太極拳「朝練清清」、あおい苑など13団体約250名）
②会場スタッフ会議：実行委員長、会場スタッフ2名
③出演者会議：各出演団体代表12名
④実行委員スタッフ会議：地域の方々14名
- 4 協力団体等：岡崎中学校、京都文教中高、京都市国際交流会館
- 5 予算：345,000円 / 決算：344,620円

2 事業内容

- ・岡崎地域の福祉施設、教育機関等が連携し、歌や踊りの発表を行った。
- ・地域の魅力を伝える写真展、地域の小学生の絵画、中学生の書道、また岡崎地域に滞在制作する海外作家の現代アートの発表、地域の特産品の販売等催し物をホワイエで同時開催。

3 準備段階での工夫

- ・実行委員長のPCスキルアップを目指し、今まで手書きだった書類作りをデジタル化できるようにサポートした。
- ・ホワイエで同時開催の作品展の出展者が増えるよう地域のギャラリーに声掛けをした。

4 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・地域実行委員の文化祭自主運営を目指す。
- ・実行委員が文化祭を自主運営していくための資金調達。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・企画から当日の運営まで地域住民が力を合わせて開催し、地域活動の活性化に向けた自立的な活動ができた。
- ・実行委員のPCスキルの向上により、昨年よりもさらに広報物の作成ができるようになった。
- ・寄付金箱を会場の数か所に設置し、実行委員の積極的な呼びかけの甲斐あり、地域の方々から来年度に向けての運営資金を調達する事ができた
- ・アンケートから次回も楽しみにするという声をたくさんもらった。10年以上も開催した甲斐あり、地域の皆が楽しみにしている地域に根付いた文化祭になってきている。

5 今後の抱負

- ・文化祭の継続のため運営資金調達に向けて寄付金を促す呼びかけと自主運営を目指したサポートをしていきたい。

地域連携事業 わいわい文化祭



客席は満席の中 地域の中学校吹奏楽部の演奏からスタート



地域の方々の発表を参加者も一緒になって楽しんだ



ホワイエでは地域の方々の作品展示が行われた



トークの上手い実行委員が司会を担当し終始イベントが盛り上がった



実行委員スタッフで手分けして会場の設営を行った



終演後は実行委員で集まり和やかに反省会を行った



出演者会議では出演団体とタイムテーブルを念入りに確認し合う



会場スタッフと実行委員でステージの動きの打合せを行った

【事業名】 地域連携事業 ギャラリートークイベント

1 事業の概要

- 1 開催日時：R6/5/4（土）13時30分～15時30分
- 2 開催場所：センター会議室2
- 3 参加人数：38名
- 4 協力団体：アーツスペース柚 You
- 5 予算：120,000円 / 決算：119,600円

2 事業内容

- ・前年度のセンター主催の事業で交流が生まれた地域ギャラリーと、さらに親交を深めるために連携し、絵本裏話トークショーのイベントを行う。
- ・トークイベント内容に左京南部地域の話題が含まれている事もあり、市民に当地域近辺の魅力の再発見を目指す。
- ・センターはアートの分野で活動する市民との繋がりが薄かったこともあり、本イベントをきっかけとして利用者増を目指す。

3 準備段階での工夫

- ・極力ギャラリーに出向き対面で話をする機会を増やし、親交を深めつつ企画を進めた。

4 事業実施による効果・達成度

（2）当初の事業効果、目標等

- ・地域ギャラリーと親交を深めるために連携し、トークイベントを行う。またアートの分野で活動する市民との繋がりを作り、利用者増を目指す。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・広報物の準備から当日の運営まで地域ギャラリーの連携のもとイベントを開催する事ができ、地域ギャラリーとの親交を深めることができた。
- ・市民と地域のギャラリーを繋げるきっかけづくりができた。
- ・来場者が絵本裏話トークショーを参考にしたトークイベントを開催するため会議室を利用する事になった。

5 今後の抱負

- ・主催者と入念な打ち合わせのもと仕上げたチラシがきっかけとなり「ギャラリートークイベント」に参加した来場者がセンターを利用する事に繋がった。今後はさらに利用者増に繋がるような仕組みも取り入れていきたいと思う。

地域連携事業 ギャラリートークイベント



予想を上回る参加者が集まり会場は満員となった。



話題豊富な登壇者のトークを興味深く聞く参加者。



受付に手慣れた登壇者の身内の方がサポートに入った。



イベント開催日前に当日の動きと、使用する機材の確認を登壇者とともにいった。



地域ギャラリーにて打合せを行った。



地域ギャラリーの絵本作品展

同時開催！
絵本「潜入！天才科学者の実験室」 原画展
日程：2024年5月3日(金)～5月12日(日)
場所：アーツスペース 柚 YOU (075-761-4484)

科学者 × 作家 × 漫画家 =
絵本裏話トークSHOW
佐藤文隆 くさばよしみ たなべたい
ヒミツの話を聞きましょう！子ども大人もおもしろい！

日時：2024年5月4日(土・祝) PM13:30～3:30
場所：京都市岡崎いきいき市民活動センター・会議室2
詳細：参加無料・事前申込み制(先着30名) 075-761-4484
共催：ギャラリーアーツスペース 柚 YOU

立寄申込み・お問合せ先
京都市岡崎いきいき市民活動センター (公益財団法人 京都市市民活動センター)
〒604-8545 京都市中京区岡崎1-1-1 電話：075-761-4484 E-mail: okazaki@youthcity.or.jp
アクセス：地下鉄「東山線」2番出口南徒歩3分(徒歩10分)
このイベントは京都市「文化芸術」分野として実施されています。
京都市文化芸術振興課 文化芸術推進課 文化芸術課 文化芸術課

入念な打ち合わせのもと仕上がったチラシ。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 6 年度実績： 2,578,840 円（前年度比 108.6% 令和 5 年度：2,374,840 円）

〔 内訳 会議室等：2,349,000 円（前年度 2,161,800 円）
 付属設備：229,840 円（前年度 213,040 円） ※自主事業分を除く
 その他収入 提案事業（参加費） 87,000 円 〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和 6 年 11 月実施 【調査項目】窓口サービス

（2）センター独自アンケート

ア) センター独自にアンケートを実施(令和 5 年 11 月実施)

イ) ご意見箱を会議室 1 と分室ロビーに設置 (R5 年 11 月より)

ウ) 事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

	案内表示は分かりやすかったですか	あいさつやお声がけはきちんとしていましたか	身だしなみは業務にふさわしいものでしたか	表情や態度は感じが良かったですか	言葉づかいや説明は、親切でていねいでしたか	説明は的確で分かりやすかったですか	整理、整頓は行き届いていましたか
たいへん満足	23.77%	45.9%	40.2%	44.3%	45.1%	41.8%	36.9%
満足	72.95%	54.1%	59.0%	55.7%	54.9%	57.4%	60.7%
不満	3.28%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	1.6%
たいへん不満	0.00%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
無回答	0.00%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

「たいへん満足」「満足」が多い。今後も利用者対応について丁寧に行った。

（2）センター独自アンケート 【令和 6 年 11 月実施】

ア)センター独自アンケート(125 枚) 利用者の地域や年代について

①利用者の地域について

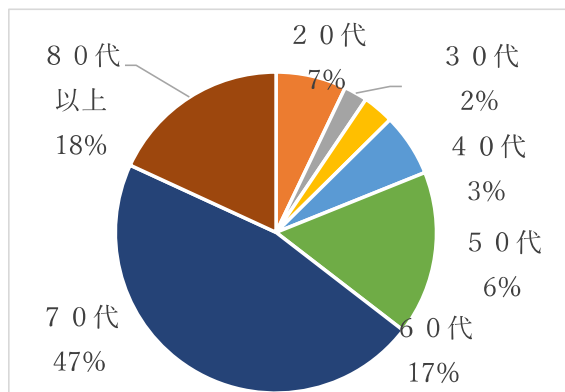
左京区	北区	上京区	中京区	東山区	山科区	下京区	南区
45人	7人	6人	7人	4人	8人	8人	6人
右京区	西京区	伏見区	京都府下	大阪	兵庫	滋賀	
7人	8人	7人	3人	7人	1人	1人	

左京区の利用者が全体の 36%で多い。市内全域だけでなく他府県からの利用もあった。

②利用者の年代

10代以下	20代	30代	40代
0人	9人	3人	4人
50代	60代	70代	80代以上
8人	21人	59人	23人

70代の47%を筆頭に60～80代の利用者が82%を占めている。当センターの利用者は、シニアが中心である。



② 『身近な社会課題について』、自由記述形式で書いてもらった。

戦争・平和	物価高	安全・犯罪 闇バイト	高齢化	居場所 孤立	いきセンの 存続	オーバーツーリズム、 バス混雑
7	4	4	3	3	3	3
人間関係の 社会性低下	老後	環境	高齢化			
2	2	2	3			

その他、見えない障害、芸術におけるポリコレ、マイナ保険、地域創生、年齢による転職など様々な意見が1人ずつあった。

イ)事業実施時にアンケートを実施
事業報告書に添付している。

3 意見等への主な対応状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

自由記述欄に多かった要望として「蛍光灯のちらつき」が多かった。蛍光灯を交換しても、ちらつきが続き灯具自身の器具の交換等が考えられるので、修理を検討していきたい。

(2) センター独自アンケート

年に1回、100名以上の利用者を対象とした独自アンケートや、常時置いているご意見箱で、スタッフへの直接要望しにくいことや、気づかれた点、気になることなど様々な意見を集めている。

今回独自アンケートの自由記述欄には「いきセンの存続」を気にしている意見が3件あり存続を求められている。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

1 取り組んだ事業等の総括の記載

「市民活動自立自走事業」だけでなく、すべての事業において参加者による自主運営や自立自走に向けての支援に取り組んでいる。また、サークル活動でもメンバー募集チラシのアドバイスや、活動先の紹介など活動の発展に尽力している。

事業「地域文化祭」は、今までセンター側で作成していた、出演者へのお知らせや出演者の記

入表を、担当者が作成できるようにワードの操作方法などアドバイスして作成できるようになり、自主的な運営の強化につなげた。

また、「レコードを聴く会」では「レコードをかける会」の新規企画者の参加が、今までの市民企画者に良い刺激となり、さらに盛り上がりを見せている。市民企画者は、自身で広報をするスキルをつけてもらうためにチラシは自作してもらい、当日運営も一定のルールが確立し市民企画者が各自ができるようになった。さらにポータブル機材を持って老人福祉施設等にでかける「おでかけレコードを聴く会」は2回あり、ワールドミュージックを聴く会などに企画者が関わり、市民活動への積極的な関与が見られた。

自立自走に向けた支援は、個人やグループの状況に合わせてきめ細やかに行う必要がある。センターでは長期に渡る利用者や関係者とのコミュニケーションから臨機に対応ができ、自立自走支援の成果が現れている。

2 今後、解決すべき課題等

【貸館利用者増】

チラシやインターネットを活用し、市民に向け広く周知に努め、新規利用者を増やす努力を続けてきた。夜の貸館利用増を狙った「レンタルアトリエ」の利用が思うようになかったので、個人練習アップのチラシを作成し、今までの利用者の中より活動を増やしてもらうよう努力する。

快適な環境を整え利用しやすい部屋に努めているが、さらに利用者アンケートやヒアリングなどを通して利用者増につなげていきたい。

3 次年度に向けた対応

次年度も、引き続き事業や支援の内容の充実を図り、さらなるグループの自立自走に取り組む。

施設運営に関しては常勤スタッフからアルバイトスタッフのスキルアップを目指し、研修などを充実させたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項はありませんでした。

京都市岡崎いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 特定非営利活動法人 音の風

代表者名 代表理事 西野桂子

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		12,612,590	12,612,590	0
利用料金収入		2,510,000	2,578,840	68,840
	会議室等	2,350,000	2,349,000	▲ 1,000
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）	160,000	229,840	69,840
その他収入	光熱水費分担金			0
	個別事業参加費			0
	提案事業（参加費）		87,000	87,000
当期収入合計		15,122,590	15,278,430	155,840
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		7,950,000	8,283,793	▲ 333,793
	職員1名、非常勤11名	7,950,000	6,874,897	1,075,103
	法定福利費	0	1,408,896	▲ 1,408,896
	福利厚生費	0		0
光熱水費		800,000	601,018	198,982
	電気代	665,000	524,876	140,124
	ガス代	15,000	10,274	4,726
	水道代	120,000	65,868	54,132
施設管理費		470,000	387,805	82,195
	樹木剪定			0
	定期清掃等	100,000	68,750	31,250
	機械警備	260,000	248,160	11,840
	消防保守点検	50,000	33,000	17,000
	空調保守点検			0
	建築設備点検	50,000	27,500	22,500
	空気環境測定等			0
	産業廃棄物処理	10,000	10,395	▲ 395

事務費		850,000	561,039	288,961
	事務消耗品費	200,000	125,042	74,958
	備品消耗品費	100,000	42,691	57,309
	賃借料	100,000	0	100,000
	通信運搬費	200,000	127,953	72,047
	印刷製本費	50,000	0	50,000
	旅費交通費	30,000	12,600	17,400
	新聞図書費	50,000	58,800	▲ 8,800
	研修費	30,000	0	30,000
	会議費	10,000	0	10,000
	会計税務管理費	60,000	66,000	▲ 6,000
	支払手数料	20,000	26,740	▲ 6,740
	業務委託費	0	101,213	▲ 101,213
	雑費	0		0
修繕費		500,000	99,310	400,690
	小規模修繕	495,000	99,310	395,690
	その他の修繕	5,000		5,000
				0
備品購入費（5万円以上の物品）				0
				0
				0
租税公課		700,000	698,687	1,313
	未払消費税	700,000	698,687	1,313
				0
				0
その他		15,000	19,975	▲ 4,975
	賠償責任保険保険料	10,000	5,000	5,000
	諸会費	5,000	14,975	▲ 9,975
施設運営業務支出合計		11,285,000	10,651,627	633,373
2. 事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		3,613,000	3,624,376	▲ 11,376
	1. 市民活動自立自走事業	1,427,000	1,431,676	▲ 4,676
	2. 文化芸術交流連携事業	1,286,000	1,293,668	▲ 7,668
	3. 多世代交流事業	435,000	434,812	188
	4. 地域連携事業	465,000	464,220	780
				0
サロン運営・活用事業費		0	0	0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		3,613,000	3,624,376	▲ 11,376
当期支出合計		14,898,000	14,276,003	621,997
当期収支差額		224,590	1,002,427	777,837

令和6年度 事業報告書 左京東部いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人劇研】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 7 名（常勤 2 名、非常勤 6 名）

【人材育成の取組】

- ・ 2024 年 12 月 24 日に研修会を実施
- ・ 事業に関わる職員については、別途個別に研修を実施

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
390	342	347	358	355	404	419	398	358	324	379	436

(年間)

4510 件（前年度比 92%）

イ 利用状況

○ 前年度の減少（22%減）よりは減少幅は減ったものの、8%程度減少した。新規登録団体数は 158 増えたものの、利用団体数が昨年度と比べて 7 団体減少していること。利用頻度が高かったいくつかの団体の申請件数（利用時間数）が大きく減ったこと。＊2023 年度の利用頻度が高かった 2 団体（個人）だけで 111 件の減少が影響していると考えられる。

- 宣伝効果の影響もあり、新規の登録団体は増加した。

ウ 利用促進に向けた取組

- SNS（主に x）を活用し、認知を高めた。
- 提案事業と連動して来館者数を増やす努力をしたことで、新規の来館者が増えた。
- 昨年度作成したセンター利用を促すチラシを事業の際に配布した。

エ その他

- サロンの自由利用者数は大体昨年と同じ水準で推移した（前年比 93%/7%減）昨年の 32%減に比べ持ち直しているが、コロナの影響がなくなり来館者が安定したためと考えられる。ただし月平均で 5 人程度ということで定期的な利用はほとんどない状態が続いている。占有件数は前年比 191%とほぼ倍増した。葬儀や法事はほとんど利用がなく、地域活動が安定的に行われるようになったためと考えられる。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- 昨年に引き続き SNS（主に X）の発信頻度を高めることに努めた。フォロワー数も 42 増加したが、その数字以上に情報発信に対する反応が活発になっている。（参考：総フォロワー数 547）。
- 昨年から引き続き、事業と連動して情報発信につなげる試みを継続した。社会活動に取り組む方にインタビューし web でその動画を配信した。

イ 取組の効果

- 取材させていただいた社会福祉協議会関係で反響があり、団体内外の多くの方に冊子やインタビュー動画を見ていただけたことで、活動の理解につながり団体の活発化に貢献できた。

(4) 管理運営

- 消防設備・建物の点検を実施するとともに、不備箇所について修繕を行った。日常的に清掃を行い、年数回大掃除。植栽の手入れ備品等の保守点検、修繕等を実施した。

(5) その他

- 一昨年度、昨年度に引き続き、サロンの活用事業などで学区社協および隣接する錦林保育園と連携し事業を実施した。今年度も大谷大学社会学部と共同で地域の住民等に聞き取りを行った。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み1 『多様な交流の促進事業』(市民活動支援・活性化事業)

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年5月4日(土)14時、18時30分 等
- 2 開催場所： 左京東部いきいき市民活動センター 集会室
- 3 参加人数： 463名
- 4 協力団体等： C.T.T.京都事務局、T-position Ballet など参加団体
- 5 予算： 1,964,900円 / 決算：2,263,000円

1 事業内容

○左京東部いきいき市民活動センターを、利用団体、地域団体などとの交流の場として機能させる目的で文化交流事業を開催した。「新緑の文化祭」「秋の文化祭前期」「秋の文化祭後期」「春の文化祭」と題して年4回、センター利用者等による多ジャンルの音楽、ダンス、演劇、マジックなど多彩な催しを実施した。小学生からシニア世代、そして多国籍の市民まで幅広い世代が参加し、レベルの高い演奏などを実施した。出演者どうし、観客を交えて楽しい交流の機会を創出した。

○今年も各団体と連携して情報を発信した結果、幅広い宣伝効果があった。

2 準備段階での工夫

○例年通りセンター利用団体さん等とコミュニケーションをとり、対象者や内容のバランスも見極めた上でプログラムを実施した。

○集会室で最大限の演出効果が図られるよう工夫した。照明や音響効果のレベルがさらに向上した。

○昨年からの課題であった障害者用のスロープを設置し、車椅子の方も問題なく来場できるようにでき、数名車椅子での来場があった。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

○利用者どうし、センターに足を運んだことのない方、地域住民など多様な人たちがさらに交流を図ることができたと同時に、センターの認知を高めることを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○集客率は今年も80%を超え、多くの来場者にお越しいただくことができ、概ね目標を達成した。

○いただいたアンケートによると、「とても良かった」「良かった」と回答した人が95%を超え、記述式の回答でも多くの方から「春の陽気にぴったりのフェスティバルでとても明るい気持ちになりました。」「It was great!」のような肯定的な回答をいただくことができた。

4 今後の抱負

○運営スキルが高まって来たので、なんとかこれを発展・継続していきたい。



秋の文化祭・前期 演劇公演



秋の文化祭・後期 ダンス公演



秋の文化祭・後期 合気道演舞

**【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み 2『市民への聞き取り事業』
(市民活動支援・活性化事業)**

事業の概要

- 1 開催日時：ワークショップ R6 年 6 月 6 日（木）11 時～12 時 ／聞き取り 6 年 7 月～7 年 2 月（計 6 回） 等
- 2 開催場所： 左京東部および左京西部いきいき市民活動センター 会議室 等
- 3 参加人数： 聞き取りボランティア 15 名（大学生） 展示来場者多数
- 4 協力団体等： 大谷大学社会学部 等
- 5 予算：879,700 円 ／ 決算：879,700 円

1 事業内容

○「多文化共生」をテーマに左京区界限にお住まいの外国籍市民や海外にルーツを持つ方に聞き取りを行い、それを冊子にまとめ発表した。聞き取りにあたっては、大谷大学社会学部と一部共同で実施した。聞き取りに参加する学生には、聞き取りのための研修としてコミュニケーションワークショップを実施、また聞き取りに関する研修も聞き取りグループごと個別に実施した。

2 準備段階での工夫

○聞き取りにあたっては毎年入れ替わる大谷大学の学生さんや先生方に非言語コミュニケーションのワークショップを開き、聞き取りにあたっての「聞く姿勢や態度」について研修するとともに、社会学部の学生にとっても興味深いと思われるテーマを選択した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

○左京東部いきいきセンターは外国籍市民の利用も多く、国籍も多様であるが、なかなかそうした人たちと時間をとってお話を聞く機会が持てず、この機会にゆっくりお話を聞き交流のきっかけや、多文化共生のまちづくりへのヒントを得ることを目標とした。また、聞き取りに参加する大学生への学びにつなげることも目標の一つとした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○日頃なかなか直接話を聞くことのない外国籍の方とお話することができ、こちらにも発見や学びがあった点で非常にいい機会となり、十分な達成感があった。

○インタビューを大学生と共有できたことも彼らにとって有意義な学びの機会となった。昨年度聞き取りを行った学生の中から、卒業論文でさらに深めた聞き取りをしたいという学生が現れ、それにも協力することができた。

○またインタビューを通じて交流が深まり、他の事業にも関係してもらえるなど、広がりができた。

4 今後の抱負

○ こうしたテーマを設けた聞き取りの事業は、近隣にお住まいのいろいろな方とお話する（コミュニケーションをとる）貴重な機会となっている。聞いた内容に加えそうした効果があり、様々なテーマを設定しながらできるだけ継続していきたい。大学生にとって非常に学びがあると先生方から評価を受けている。大学生との連携も継続していきたい。計画が大幅に遅れ展示が年度を跨いでしまったことは反省し、計画通りの実施を行いたい。

事業風景の写真



【事業名】芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み3 『文化ボランティア育成事業』（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 6年8月24日（土）10時～13時 等
- 2 開催場所： 左京東部いきいき市民活動センター サロン 等
- 3 参加人数： 5名
- 4 協力団体等： すわるばキッズ、スタジオぐるり、At・kyoto
- 5 予算：220,400円 / 決算：220,400円

1 事業内容

○ 事業の運営を支え、協力してくれる「文化ボランティア」を募集し、当センターが主催する文化関連の事業において受付等の手伝いなどボランティア活動を行っていただいた。SNSやホームページを活用した募集の告知を行い、説明も随時開催した。

2 準備段階での工夫

○ サロン活性化事業で協力いただいている3団体に協力いただき、ボランティア集めをおこなった。交流事業への出演団体に協力いただいてボランティアを集めた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

○ 10名を目標にボランティアを募り、昨年同様に、主にサロン活性化事業で子供たちが多く集まる際にボランティアをお願いした。

（2）事業実施による目標の達成度

○ 人数が目標に達しなかったのは残念であった。学生の参加が今年もあったことはよかった。交流事業の受付補佐なども担っていただけたのは昨年より機会が増えてよかった。複数で子供の見守りができ、子供たちのフォローもできた。ボランティアの皆さんにもやりがいがあり、満足していただけた。

4 今後の抱負

○ ボランティアをケアする体制をしっかりとさせないと積極的な募集や受け入れが難しいので、受け入れがわの体制づくりを充実させたい。

事業風景の写真

<活動風景>



令和6年12月1日開催の『影絵とアートと交換会』でアートワークショップの補佐をおこなうボランティア。

【事業名】居場所作りを通じた、市民活動支援事業 取り組み1『サロンに集おう』（「影絵人形を作ろう」、「影絵とアートと交換会」）（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 8月24日（土）10時～13時 等
- 2 開催場所： 左京東部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： 119名（団体）
- 4 協力団体等： At-Kyoto（交換会運営） 等
- 5 予算：1,058,000円 / 決算：1,058,000円

1 事業内容

○錦林東山学区の社会福祉協議会、錦林保育園と連携して、サロンにより多様な方々が集える事業を実施した。高齢者が集って手作業をおこなう『影絵人形を作ろう』および『子育て中の親子の交流事業』として、おもちゃ、絵本、衣服など子供用品の無料交換会を実施するとともに、『影絵人形を作ろう』で制作した影絵の上演、および廃材を使った親子向けアート講座を実施した。昨年に引き続き今年度も3回開催した。

2 準備段階での工夫

○事業には「文化ボランティア育成事業」で登録してくれた、ボランティアが関わってくれ、地域団体と協力して実施した。

○好評を受けて今年も昨年と同じ回数で実施した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

○高齢者向け講座10名・子育て中親子の交流事業延べ100名の来場者を見込んだ。

（2）事業実施による目標の達成度

○高齢者向けの講座「影絵人形を作ろう」は参加人数の目標には至らなかったものの、参加してくれた方々の評判はよかった。親子向けの事業「影絵とアートと交換会」は毎回好評で、多くの親子に参加いただくことが出来た。お年寄りから子供、外国籍の方まで幅広い方々にお越しいただくことが出来た。来場見込みを上回る方にお越しいただくことができた。

○アンケートは非常に好評で、提出いただいた方のほぼ全員が満足もしくは大変満足の結果だった。

4 今後の抱負

○昨年と同様に、もっと宣伝をすればさらに来場者が見込めるが、人数が入りきらない可能性があり、回数を増やすなど対策が必要となっている。予算の捻出などの対策が必要。

事業風景の写真
＜影絵上演風景＞



＜廃材アート制作中風景＞



【事業名】市民の社会関与を促進する事業 取り組み1『市民活動団体活動勉強会』（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年10月22日～12月25日／ヒアリングおよび取材
- 2 開催場所： 左京東部いきいき市民活動センター 会議室 等
- 3 参加人数： 視聴者数150名（4月18日現在）
- 4 協力団体等： 錦林東山学区社会福祉協議会
- 5 予算： 898,000円 ／ 決算： 898,000円

1 事業内容

○左京東部いきいきの地元、錦林東山学区で活発に活動する錦林東山学区社会福祉協議会の会長さんにヒアリング調査を行い、地域の課題の実情を把握する。また、ヒアリングした内容や活動を映像で記録し編集の上インターネットで紹介するとともに、紙媒体でのレポートも作成し、センター等で配布した。

2 準備段階での工夫

- 映像の時間を短くし、見やすく編集した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- 視聴者数200名を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 映像は公開してわずか目標に迫っており、近いうちに目標数は達成する見込み。
- 取材させていただいた学区社協さんからは好評の声をいただいている。

4 今後の抱負

○ 昨年と同様になるが、vol4、vol.5と数を重ねることで広がりをも、視聴回数などもアップすることを目指したい。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 6 年度実績：6,289,660 円（前年度比 89.5%）

内訳 会議室等：6,159,000 円

付属設備：130,660 円 ※自主事業分を除く

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 1 1 月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
66.4%	29.9%	0.8%	0.3%	2.6%

(2) センター独自アンケート

○回収したアンケートの 9 割以上が大変満足、満足の結果。

3 意見等への主な対応状況

○ ・ローリングドライシートをいつもきれいなのにしておいて欲しいです。

・床拭きの取り替えシートが小さくて、部屋の隅が届かないです。利用した方には、退出の際、清掃して欲しいです。→大きなものに変えた上で、ヒートの取り替えをまめに行っている。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ 窓口アンケートで指摘された点の改善にしっかり取り組んだことで、アンケート結果は総じて改善した。利用申請数の改善に取り組んだが昨年並みを維持することができなかった。

・ 今後、解決すべき課題等／次年度末に閉館が予定されており、利用者からは活動を継続させるための代替場所情報について問い合わせが増えている。情報の収集と提供を行なっていきたい。

・ 次年度に向けた対応／定期的に利用されている方が、閉館見越しして活動場所を変えることが増えてくることが予想される。健全な運営を維持するため、非定期的な利用者の獲得など利用急減を防ぐ対策を行なっていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

特になし。

【締め切り】

4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

京都市左京東部いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 特定非営利活動法人劇研

代表者名 杉山 準

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		16,433,320	16,433,320	0
利用料金収入		7,509,520	6,289,660	▲ 1,219,860
	会議室等	7,300,000	6,159,000	▲ 1,141,000
	ロッカー利用料	119,520	59,760	▲ 59,760
	ピアノ利用料	90,000	70,900	▲ 19,100
その他 収入	光熱水費分担金	990,000	995,726	5,726
	個別事業参加費	271,000	569,100	298,100
				0
				0
				0
当期収入合計		25,203,840	24,287,806	▲ 916,034
人件費		11,022,840	10,963,488	▲ 59,352
	常勤職員 2人		5,038,912	▲ 5,038,912
	非常勤職員 6人		4,507,329	▲ 4,507,329
	法定福利費		1,070,443	▲ 1,070,443
	福利厚生費		346,804	▲ 346,804
光熱水費		5,690,000	4,586,076	1,103,924
	電気代		4,245,919	▲ 4,245,919
	ガス代		34,760	▲ 34,760
	水道代		305,397	▲ 305,397
施設管理費		840,000	815,782	24,218
	樹木剪定			0
	定期清掃等			0
	機械警備		188,760	▲ 188,760
	消防保守点検		66,000	▲ 66,000
	E V保守点検			0
	空調保守点検			0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検		55,000	▲ 55,000
	自家用電気工作物		314,292	▲ 314,292
	雑用水用給水設備			0
	建築設備点検		165,000	▲ 165,000
	空気環境測定等			0
	ゴミ廃棄料		26,730	▲ 26,730

事務費		700, 000	998, 113	▲ 298, 113
印刷費			56, 743	▲ 56, 743
交通費			23, 540	
通信費			621, 372	
消耗品費			197, 646	
支払手数料			28, 710	
事務用品				0
雑費			70, 102	▲ 70, 102
修繕費		530, 000	159, 280	370, 720
ピアノ修繕				0
バスケットゴール修繕			60, 280	
多目的ホール電灯・ワックス				0
ハトの駆除			99, 000	▲ 99, 000
備品購入費（５万円以上の物品）		0		0
				0
				0
				0
租税公課		1, 371, 760	1, 359, 531	12, 229
印紙税		10, 000		10, 000
消費税および地方消費税		1, 361, 760	1, 359, 531	2, 229
法人税				0
その他		28, 240	38, 240	▲ 10, 000
賠償責任保険料		13, 240	13, 240	0
諸会費		15, 000	25, 000	▲ 10, 000
施設運営業務支出合計		20, 182, 840	18, 920, 510	1, 262, 330
市民活動支援・活性化事業費		3, 963, 000	4, 261, 100	▲ 298, 100
芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業取り組み１		1, 964, 900	2, 263, 000	▲ 298, 100
芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み２		879, 700	879, 700	0
芸術・文化を活用した地域のまちづくり事業 取り組み３		220, 400	220, 400	0
市民の社会関与を促進する事業		898, 000	898, 000	0
				0
サロン運営・活用事業費		1, 058, 000	1, 058, 000	0
居場所作りを通じた、市民活動支援事業		1, 058, 000	1, 058, 000	0
				0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		5, 021, 000	5, 319, 100	▲ 298, 100
当期支出合計		25, 203, 840	24, 239, 610	964, 230
当期収支差額		0	48, 196	48, 196

令和6年度 事業報告書 左京西部いきいき市民活動センター

【指定管理者： 特定非営利活動法人劇研】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 6 名（常勤 1 名、非常勤 5 名）

【人材育成の取組】

- ・非常勤職員にも、積極的に事業の立案、実施に関わってもらうことで、センターを活用したまちづくりに貢献できる人材育成をしている。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
318	314	339	311	339	392	349	303	287	272	354	341

(年間)

3919 件（前年度比 97.4%）

イ 利用状況

- 利用料金制度への移行以来減少傾向にあり、昨年度と比べ件数で 103 件、時間ベースで 314 時間減となったが、令和 4 年度から令和 5 年度での減少率（83.7%）と比較すると、その幅は縮小しており、減少傾向に一定の歯止めがかかっていると言える。

利用団体の内訳は文化芸術系団体の利用が約 60%、次いでスポーツ系団体、健康系団体の利用がそれぞれ約 10%となっている。営利目的でない事業者の利用は 5 件 9 時間だった。

- 会議室 1 のエアコンが故障しており、夏までに修理もしくは入れ替えが必要。

ウ 利用促進に向けた取組

- 利用者の利便性向上のため、当日利用の電話予約を開始したところ年間 220 件 485 時間の利用があった。

エ その他

- サロンの自由利用者数は、のべ 552 名で、前年度比 162%（前年度利用者数のべ 340 名）となった。また、廃材アート、フリーガーデンなど、サロンで事業を行うことで、センターの認知度向上と地域活性化を目指している。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- センターのホームページのほか、Twitter、Facebook での情報発信を行っている。
- 利用者紹介コーナーの設置、サロンでの地域に係る展示や、かもがわデルタフェスティバルを使った、利用者の成果発表など利用者や地域の魅力を発信する機会を作っている。

イ 取組の効果

- 特に提案事業へのボランティア参加者が増え、新たな事業のアイデアも提案された。提案された事業は令和 7 年度より実施予定。

(4) 管理運営

- 備品の長机やパイプ椅子等が老朽化し、使用できないものが増えてきたが、単純に買い替えるのではなく、職員自身が修理し、その様子を SNS で発信している。

廃材を利用した棚やテーブルを共有スペース（ロビー）に設置し、美しく居心地のいい空間づくりを心がけている。

(5) その他

- 利用者への積極的な声掛けや、地域の取り組みへの積極的な参加を行っている。
特に養正市営住宅は再開発に着手しており、今後どんな地域にしていきたいかという課題を地域住民とともに話す場として、サロンを使ってもらうなど、地域の発展に貢献できるよう努めている。

また、地域内の小中学校とも連携し、事業を行っている。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】多文化共生促進事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年9月15日（日）15時～19時
- 2 開催場所： 養正児童公園
- 3 参加人数：来場者約 1,000 名
- 4 協力団体等：かもがわデルタフェスティバル実行委員会／カポエイラ・アンゴラ インジンガ京都／PPI KYOTO SHIGA／養正小学校／高野中学校／田中村六斎念仏保存会
- 5 予算： 1,160,000 円 / 決算： 1,155,000 円

1 事業内容

- 当センターも実行委員として参加している「かもがわデルタフェスティバル」の関連企画として、「かもがわデルタフェスティバル」のステージを利用し、「カポエイラ・アンゴラ グループ インジンガ 京都」「PPI KYOTO SHIGA」の協力を得て、カポエラやインドネシアスマトラ島の伝統舞踊の紹介を行い、同じ舞台で「養正小学校金管バンド」の演奏や「田中村六斎念仏保存会」の六斎念仏踊りの発表を組み合わせることで、地域の方と海外にルーツを持つ方との交流の場をつくった。
- イベントだけに留まらないよう、フェスティバル中、当センター内に外国籍の方向けの相談窓口を設置した。

2 準備段階での工夫

- 当センター利用団体である「カポエイラ・アンゴラ グループ インジンガ 京都」「PPI KYOTO SHIGA」「田中村六斎念仏保存会」「養正小学校」「高野中学校」のご協力をいただき、実施した。
- 地域の複数の団体で構成された「かもがわデルタフェスティバル実行委員会」（当センターも参加している）の協力のもと、広報活動、準備活動を実施し、スムーズな運営ができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 1,000 名程度の参加者を目標とし、1,000 名の参加があった。
地域の方々と特に外国籍の左京西部いきいき市民活動センター利用者との交流の場を作り、文化紹介を行い相互理解を深めるという効果が見込まれた。

（2）事業実施による目標の達成度

- 参加人数の達成度は 100%。
- 「養正小学校のアリランがよかった」「いろいろな国の文化に触れられたことや、外国の人たちと一緒に踊れたのが面白かった」などの意見がきかれた。

4 今後の抱負

- パフォーマンスだけでなく、海外にルーツを持つ方々を交えたトーク、シンポジウムのようなものも開催し、さらに多くの方が参加できる場を作りたい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】ハイザイ・アートワークショップ（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年4月20日より毎月第3土曜日10時～13時、計12回。
- 2 開催場所：ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約50名、計のべ約600名
- 4 協力団体等：スタジオぐるり
- 5 予算： 680,000円 / 決算： 680,098円

1 事業内容

- 水野哲雄京都芸術大学名誉教授が主催するスタジオぐるりと協力して、高齢者や親子が参加できる廃材を使ったアート作品創作ワークショップを毎月第3土曜日に行った。また、9月と3月に作品の展示会を実施した。

2 準備段階での工夫

- 使用する材料の調達、ワークショップの進行、展示など「スタジオぐるり」の協力を得て実行した。
- SNSを使った広報と口コミによる周知。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 当初の参加者目標は30名×12回で360名。アート作品制作を通じて環境問題やSDGsの取り組みに対する理解を深める効果が見込まれた。

（2）事業実施による目標の達成度

- 参加者はのべ600人となった。
- ワークショップ、展示を通じて環境問題、SDGsに対する関心を喚起し、理解を深めることができた。

4 今後の抱負

- 遊びながら環境問題、ごみ問題についての理解を深められるこの企画は好評で、引き続き実施していこうと考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】 ベビー&キッズ用品交換会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年4月20日より毎月第3土曜日10時～13時、計12回。
- 2 開催場所：ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約50名、計のべ約600名
- 4 協力団体等：AT-Kyoto
- 5 予算： 660,000円 / 決算： 655,000円

1 事業内容

- 主に子育て世代を対象とした、リユース交換会を行っている任意団体 AT-Kyoto と協力し、子育てに必要なもの、すでに不要になったものの交換会を毎月1回、計12回行った。企画の周知や、開催日に参加できないひとのために、左京西部いきいき市民活動センター入口に交換会で残ったものを並べる棚を設置し、センター利用者や保育所に通う方も欲しいものがあれば持ち帰れるようにした。

2 準備段階での工夫

- 会場設営など AT-Kyoto の協力を得て実施した。
- SNS を使った広報。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 各回25組の親子50名×12回のべ600人を目標とした。
子育て世代の交流促進と共に、「捨てる」から「交換する」へ、SDGsへの関心や意識向上を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 参加者のべ600名という目標は達成できた。
- 子育て世代の交流促進と共に、「捨てる」から「交換する」へ、SDGsへの関心や意識向上に寄与することができた。

4 今後の抱負

- 大変好評な事業であり、子育て支援、ふれあいサロンの活動という観点からも事業を継続していきたいと考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】まちづくりサポーター育成事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年4月21日より毎月第3日曜日の10時～12時（計12回）
- 2 開催場所：ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約10名。
- 4 協力団体等：左京朝カフェ／ようせいこども会／京都学生演劇祭／養正小学校／
京都市東部まち美化事務所
- 5 予算： 770,000 円 / 決算： 784,671 円

1 事業内容

- 今年度より、ようせい子ども会と協力し、地域の小中学生の居場所づくりをサポートする取り組みを開始したことで、これまでの「かもがわデルタフェスティバル」や「地域清掃」だけでなく、小中学生を対象としたワークショップ「ようせい・アートむら」や養正小学校での「ようせいおばけやしき」のサポートなど活動の幅が広がった。

2 準備段階での工夫

- 広報や事業実施について、左京朝カフェや京都市東部まち美化事務所のご協力をいただいた。また小中学生向けの取り組みに関して、ようせいこども会や養正小学校のご協力をいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- 5~10名のボランティア参加者を目標としていた。

（2）事業実施による目標の達成度

- 大学生含む大人のボランティア10名、小学生のボランティア20名程度。
- 「来年もまた参加したい」「おばけやしきをサロンでもやりたい」「想像したより子供たちが盛り上がってくれた」「単なる作業のお手伝いではなく、交流や、一緒に企画を運営している感覚があり楽しかった」などの声が聴かれた。

4 今後の抱負

- 地域の小中学校とのつながりから、ボランティアの活動自体大きく変化しており、ボランティアも一緒に楽しめる企画を実施していくことで、参加者を増やし、地域力向上に寄与していきたいと考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】サロン活性化サークル育成事業（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年4月25日(木)より毎月第4木曜日の11時～15時（計12回）
- 2 開催場所：ふれあいサロン
- 3 参加人数：各回約15名程度
- 4 協力団体等：京都学生演劇祭実行委員会／かもがわデルタフェスティバル実行委員会／
ようせいこども会
- 5 予算： 860,000 円 / 決算： 863,111 円

1 事業内容

- ふれあいサロン（旧高齢者ふれあいサロン）を使った地域の活性化のためのサークルメンバーを募集し、サロン利用者、地域の方々への聞き取りや、専門家の話を聞きながら、サロンの活用法を考え、実践した。

昨年から実施している「自由菜園」と「自由本棚」を継続し、「自由菜園」で収穫された野菜などは一部「ふれあい食事会」で使用し、タイミング的に難しいものは左京西部いきいき市民活動センター入り口のテーブルに並べ、利用者に持ち帰って貰えるようにした。生ごみを減らすため、コンポストを作成、設置している。

令和6年度には新たに「バケツ田んぼ」と「ふれあいビオトープ」を実施し、ふれあいサロンの魅力を高めるとりくみをしている。

2 準備段階での工夫

- 京都学生演劇祭実行委員会、かもがわデルタフェスティバル実行委員会、ようせいこども会の協力を得て事業を実施した。
- SNSを使った広報。他の提案事業との協働。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 各回5～10名の参加を目標とした。ふれあいサロンを訪れる人を増やし、地域の活性化を促すことを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 各回15名の参加があり、目標は達成できた。
- 「初めて自分で野菜をとった」「とんぼがかわいい」などの声がきかれた。

4 今後の抱負

- 「立ち寄りやすいサロン」を目指し、更なる工夫をこらした事業を展開したい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域に係わる展示事業（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R7年4月16日（水）／R7年4月27日
- 2 開催場所：左京西部いきいき市民活動センターロビー／ふれあいサロン
- 3 参加人数：来場者 145 名
- 4 協力団体等：大谷大学地域連携プロジェクト「聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト」／左京東部いきいき市民活動センター
- 5 予算：260,000 円 ／ 決算：259,960 円

1 事業内容

- 大谷大学、左京東部いきいき市民活動センターと協力し、「多文化共生」をテーマに、海外にルーツを持つ地域の方にインタビューした内容をパネルにして展示した。

2 準備段階での工夫

- 大谷大学地域連携プロジェクト「聞き取りを通じた共生社会推進プロジェクト」及び左京東部いきいき市民活動センターと協力し、インタビュー、編集、展示を行った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 100 名の来場者を目標とした。
海外にルーツを持つ方と、元々の地域の方々との相互理解の促進を目指した。

（2）事業実施による目標の達成度

- 4/21 現在で来場者数 70 名。展示期間終了までに目標の 100 名は超える見通し。
- 「同じ地域にいろいろな海外の方が生活している実感がわいた」「お互いの理解を深める必要があると感じた」などの意見が聴かれた。

4 今後の抱負

- 今回は初めて海外の方への聞き取りだったため、インタビューに答えていただける方を探す過程と、インタビューの内容をお話いただいた本人に確認してもらうのに時間を要し、開催予定だった 2 月に開催できず、4 月開催になってしまった。この点を踏まえて、今後は綿密な計画を立てて企画を実施する。
今回知り合った方々との提案事業「多文化共生促進事業」での連携を考えている。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】ふれあい食事会（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：R6年4月25日(木)より毎月第4木曜日の12時～15時（計12回）
- 2 開催場所：ふれあいサロン
- 3 参加人数：のべ180名
- 4 協力団体等：モンパン食堂 京都 Tera.Coya 京都市立養正浴場 ようせいの家
- 5 予算： 360,000円 / 決算： 356,435円

1 事業内容

- 誰もが参加できる「ふれあい食事会」を毎月第4木曜日、年計12回開催した。
その際、「防災」につなげるため、子どもに火の扱いを教える焼きおにぎり会と段ボールピザの会を実施した。

2 準備段階での工夫

- モンパン食堂 京都 Tera.Coya 京都市立養正浴場 ようせいの家に広報、講師の協力をしていただきながら実施した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 参加者各回10名、計120名を目標とし、「ふれあい食事会」を介した多世代交流を促すことを目的とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- 参加者はのべ約180名で目標の120名を上回った。
- 参加する高齢者の方々も配膳など協力し、多世代交流の場として機能した。

4 今後の抱負

- 事業名を『高齢者食堂』から『ふれあい食事会』としたことで、様々な世代の方が参加でき、多世代交流が活性化できた。「防災」をテーマとした食事会ができ、単なる交流の場ではなく、楽しく地域のことを考える場としても活用したい。

事業風景の写真



※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 6 年度実績：4,714,250 円（前年度比 96%）

内訳 会議室等：4,643,700 円
附属設備：70,550 円 ※自主事業分を除く
スモールオフィス：0 円

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 1 1 月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
55.1%	44.1%	0.8%	0%	1.3%

(2) センター独自アンケート

○概ね満足

3 意見等への主な対応状況

- 机やパイプ椅子などの備品が老朽化しているとの意見があったため、修繕している。
掃除しやすい掃除機の導入をした。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。
概ね好評な意見をいただいているので、発展的に継続していきたい。
夕方以降空いている部屋を「自習室」として小学生～高校生に開放する試みをしてみたところ特にテスト期間前など一定数の利用があった。
- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。
エアコンを修理してほしいという声があるので修理したい。
- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。
利用者の利便性向上と、地域の活性化を促し、利用率上昇につなげたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

地域に係わる展示事業の実施が4月にずれ込んでしまった。

【締め切り】

4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

京都市左京西部いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 特別非営利活動法人慶

代表者名 杉山 準

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		12,202,090	12,202,090	0
利用料金収入		4,900,000	4,714,250	▲ 185,750
	会議室等		4,643,700	4,643,700
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）		70,550	70,550
その他収入	光熱水費分担金			0
	個別事業参加費			0
				0
				0
				0
当期収入合計		17,102,090	16,916,340	▲ 185,750
人件費		7,722,090	7,125,316	596,774
	常勤職員		2,630,817	▲ 2,630,817
	非常勤職員		3,134,094	▲ 3,134,094
	法定福利費		824,526	▲ 824,526
	福利厚生費		535,879	▲ 535,879
光熱水費		1,970,000	1,830,993	139,007
	電気代		1,416,961	▲ 1,416,961
	ガス代		39,160	▲ 39,160
	水道代		374,872	▲ 374,872
施設管理費		950,000	684,200	265,800
	樹木剪定			0
	定期清掃等			0
	機械警備		231,000	▲ 231,000
	消防保守点検		129,800	▲ 129,800
	E V保守点検			0
	空調保守点検			0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検			0
	自家用電気工作物		175,560	▲ 175,560
	雑用水用給水設備			0
	建築設備点検		132,000	▲ 132,000
	空気環境測定等			0
	ゴミ廃棄料		15,840	▲ 15,840

事務費		450,000	888,427	▲ 438,427
印刷費			62,327	▲ 62,327
交通費			5,605	▲ 5,605
通信費			261,464	▲ 261,464
消耗品費			530,283	▲ 530,283
支払手数料			25,190	▲ 25,190
雑費			3,558	▲ 3,558
				0
				0
修繕費		200,000	13,200	186,800
エアコン修繕			13,200	▲ 13,200
〇〇修繕				0
				0
備品購入費（5万円以上の物品）		0		0
				0
				0
				0
租税公課		0	1,183,646	▲ 1,183,646
消費税			1,183,646	▲ 1,183,646
〇〇税				0
				0
その他		1,060,000	16,100	1,043,900
賠償責任保険保険料			6,100	▲ 6,100
諸会費			10,000	▲ 10,000
施設運營業務支出合計		12,352,090	11,741,882	610,208
市民活動支援・活性化事業費		3,270,000	3,274,769	▲ 4,769
多文化共生促進事業		1,160,000	1,155,000	5,000
廃材アートワークショップ事業		680,000	680,098	▲ 98
ベビー&キッズ用品交換会事業		660,000	655,000	5,000
まちづくりサポーター育成事業事業		770,000	784,671	▲ 14,671
〇〇事業				
サロン運営・活用事業費		1,480,000	1,479,506	494
サロン活性化サークル育成事業		860,000	863,111	▲ 3,111
地域に係わる展示事業		260,000	259,960	40
ふれあい食事会事業		360,000	356,435	3,565
その他 事業実施業務繰越				0
事業実施業務支出合計		4,750,000	4,754,275	▲ 4,275
当期支出合計		17,102,090	16,496,157	605,933
当期収支差額		0	420,183	420,183

令和6年度 事業報告書 中京いきいき市民活動センター

【指定管理者：特定非営利活動法人 あかしやふれあいネットワーク】

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 12 名（常勤 2 名非常勤 10 名）

【人材育成の取組】

・月に 1 度のミーティングは必ず行い、業務連絡や日々の業務での改善について意見交換をして、従事者全体が内容や状況を共有し、業務が円滑に進み、来館者からの疑問に対する回答が的確になる事や案内等にも話し合います。広報については、担当者とセンターの周知や事業・イベント広報についても細部まで話し合う事で、適切な広報に繋がっています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
136	143	152	173	140	151	161	151	148	133	156	134

(年間)

1,778 件（前年度比 107%）

イ 利用状況

○ 年間での利用状況について、傾向などを記載してください。

- ・前年度比は 107%と利用件数は増加し、利用料金が改定後、利用時間を短縮して利用されいた団体も時間を通常通りに戻して利用されるようになり、新規の団体や個人での利用も増加しています。
- ・傾向としては、仮予約の導入で月初に貸館申請を来館にて行っていた団体や個人の方もホームページや SNS を利用して仮予約の申請を行われるため、申請での混雑も避けられています。事業でのイベントを行う事で、中京いきいき市民活動センターを知ることができた団体や個人の方も増え、無料で貸出し可能な備品も増やして利用件数の増加に繋がっています。
- ・一度、仮予約を利用した方は継続され、初めて来館される方や連絡してくる方には、便利な予約の方法として伝えるようにしています。
- ・SNS を活用して広報を行う事で、中京いきいき市民活動センターの存在や活動内容を示し、仮予約可能なことや新たに無料で貸出せる備品の案内を館内に掲示して利用者に知っていただけたことは利用増加に繋がっていると思います。

○ 課題や改善が見られた部分があれば記載してください。

- ・建物が古い為、冬の暖房の効き始めが温まらない事を軽減するために電気暖房器具の購入や人気のある卓球台の増台と、調理道具を増やすなど、利用者の声を聞きながら、不足部分を補える取り組みもしました。
- ・エレベーターが無いことで、1 階を誘導するにも、利用者がある場合は、断念してもらうか代案を誘導しなければならないことは大きな課題です。ウ 利用促進に向けた取組

○ センターで取り組まれたことを記載してください。

- ・仮予約システムの導入は月初の申請時の混乱を避けるだけでなく、利用者にとって好評です。SNS での仮予約申請での返信等にも迅速に対応し、予約が入っている場合でも違う日にちや場所を案内しています。

- ・来館者には常に会話や声掛けを心掛けて、交流する事で利用の内容や活動内容を知ることができるので、新たな備品導入や利用しやすい環境づくりができています。多種多様な利用や活動をサポートする事で、利用促進に繋がっています。
- ・今年度から広報担当が「いきいき通信」の作成を行い、見やすい構成や楽しさが伝わり事業担当と情報を共有、相談し合い、分かりやすいデザインを心がけ、活動の魅力や楽しさが伝わるよう、写真選びにこだわったりしました。それぞれの具体的なエピソードを取り入れ、何をしているのか分かりやすくなるようにビジュアルを工夫し、問い合わせの情報についても分かりやすくまとめ、興味を持った人がすぐに連絡出来るように工夫しました。また、スタッフの写真も掲載し、親しみやすさや安心感を持ってもらい、相談しやすい雰囲気作りも行いました。

エ その他

- サロンについて、利用状況や前年度と比較した増減の分析等を記載してください。
- ・利用状況の前年度比は **105%**と増加しています。中京いきいき市民活動センターを知ってもらう事で、イベント情報や多世代交流事業に参加される方が増加しています。逆に多世代交流事業に参加された方が、中京いきいき市民活動センターを知り、友人と貸館利用されたこともあり、相乗効果が見られました。
- ・サロンでの活動状況を **SNS** 等で知り、協働して取り組みたい方の問い合わせもあり、活動のスタートアップとして多世代交流事業を活用して頂いています。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について記載してください。
- ・ホームページの改修のポイントとして見た目やコンテンツの改善をしました。視認性を高めるためにフォントや配色を調整し、見やすくスッキリとしたレイアウトに変更しました。スマホやタブレット対応を強化し、どのデバイスでも見やすくし、メニューの配置を分かりやすくすることで、目的のページへすぐにアクセスできるように改善しました。
- ・開催予定表が一目でわかるよう月間スケジュールを作成し情報をわかりやすさを強化しました。イベントのレポートも定期的に作成しコンテンツを増やすことで自然に検索されやすいサイトを目指しています。貸館情報の充実としては施設や会議室の特徴が伝わるように、写真多く掲載し、各会議室の用途や設備が分かるように、情報を整理し見やすくしました。
- ・団体の活動を広めたい発信したいという団体は取材の許可を得た上で、利用時にノックし、写真を撮らせてもらったり内容を聞いたりし **SNS** 等で団体紹介を行いました。
- ・毎年発行している「いきいき通信」は、広報担当が主になり、事業担当と内容を確認し合っており、関わる者の意見を取り入れ、前回よりも、センターの様々な部分が引出せるよう取り組みました。その結果、一段と良いパンフレットに仕上がりに、見られた方からも好評です。また、みんなの意見で作成したパンフレットに係る費用も削減することができました。

○ センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組があれば記載してください。

- ・当センター近隣にある三条商店街があり、商店街活性のために商店街関係者だけではなく、大学生団体や市民活動を行っている団体とも連携し、毎年七夕祭りを開催されており、その催しに今年度も参加し、当センターのPRを行うとともにオリジナルうちわやパンフレットを配布し、センターの周知を行いました。
- ・今年度も学生ボランティアを募集し、各大学の協力で電子掲示板やチラシを置いて頂き、様々な学校から参加してくれました。花園大学はゼミの時間にボランティアの理論と実践として説明に出向き、学生達を受け入れました。

イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例を記載してください（団体の立ち上げや事業の実施につながった など）。
- ・HPやSNS、いきいき通信をリニューアル、改善したことで、登録者数が増加したことや事業やイベントの申込み、事業と一緒にやりたい活動団体、活動を広めたい相談など、広報から当センターに興味や理解を持って繋がられることが増えています。
- ・繋がられた方や当センターの広報を見られた方の感想は見やすいし、様々な事されていて見るのが楽しみと好評です。
- ・パンフレットがより良く見やすくなったことで説明もしやすいし、わかりやすいと満足頂いています。月間スケジュールもわかりやすいと好評です。

(4) 管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について、代表的なものを記載し、最後に「等を実施」と記載してください。
- ・防火管理者の選定（中京消防署にも消防計画を提出済）、建築物の保守管理(日常点検等)、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務（日々・空調）、保安警備業務、植栽等保全業務等を実施しました。

(5) その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したものがあれば、その内容を記載してください。
- ・独自の意見箱を設置し、気軽に来館者の意見を取り入れられるよう努めています。その意見の中で、改善すべき点がある事項についてはミーティング等で話し合い、スタッフがその内容(備品の購入や不備の確認)を共有し少しでも改善できるように心掛けています。
- ・周辺学区や周辺で活動されている市民活動団体や福祉施設の方とは常に交流を持ち、イベントや交流会・学習会等に参加し、当センターと共催して事業やイベントを行ったり、お互いの活動内容を知ることによって今後に繋がるよう努めました。
- ・中京区社会福祉協議会や高齢サポート・西ノ京は、定期的な交流会や意見交換会には参加し、情報交換や連携を持っています。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs 事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：
①12/14 雑紙ワークショップ(京都大学)
②10/26・12/14・1/25 スマホの相談会ワークショップ(大学生)
③7/20 省エネのコツについて講演会
④8/2 研修会
8/7・8/8・8/9 アイディアを形にするワークショップ(ディーブピープル)
⑤4/20・7/6・10/5・12/7 食育ワークショップ(学生団体ボーノ)
⑥10/27 食物アレルギーと防災 講演会(LFA Japan)
⑦7/7・8/17・11/30 ものづくりイベント(京都工芸繊維大学の学生)
⑧5/11・5/18 食べ物の絵 ワorkshop キッズアワード京都へ出展
⑨5/22・5/29・7/26 金継ぎ体験
⑩9/14・3/8 いきセンフェスティバル
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室・料理室・サロン
- 3 参加人数： ①7名 ②11名 9名 12名 ③5名 ④学生5名 小学生7名
⑤7名 11名 8名 9名 ⑥12名 ⑦32名 11名 13名 ⑧8名
⑨8名 9名 夏休み企画(箸置き)27名 ⑩44名 57名 計312名
- 4 協力団体等：京都大学エコ〜るど京都学生・京都先端科学大学学生・花園大学学生・
NPO 法人ディーブピープル・学生団体ボーノ・LFA Japan
・京都工芸繊維大学の学生・学生ボランティア JVO
- 5 予算： 2,852,500 円 / 決算： 2,942,718 円
- 1 事業内容
○ 事業の内容を具体的に記載してください。
地域住民，市民活動団体，大学生と連携し取り組む SDGs プロジェクトに取り組みました。
いきいき市民活動センターから発信し，人々への SDGs 意識を高め，自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて，活動団体と協働で取り組みを企画し，地域の活動の支援と SDGs 参加者の意識を高める目的で開催しました。協働する団体は，独自の活動を活かし，得意なことやアイディアを引き出し，センターは，場所・広報・事業のまとめ役を主に行いました。
①京都大学の学生主体で，環境問題に関連するごみの分別をテーマとし，雑紙などを用いて子ども達の意見を聞きながら自分事して考えるワークショップを開催しました。
②現在社会を生きやすくするために，大学生主体で日々のちょっとした悩みを解決できるよう，「スマホのプチお悩み相談会」のワークショップを3回開催しました。
③京都市のエコ学区事業の「2050年 CO2 ゼロ『どこでもトーク』」に申込み，省エネ・節電についての情報や補助金情報など身近で活用できる講演会を開催し，質疑応答もありました。
④小・中学生向けのワークショップをサポートしてくれる大学生と ZOOM による研修会を開催し，アクティブラーニング方式で問題解決に向けたアイディアを企画提案するワークショップを開催し，出来上がった内容を当センター開催の「いきセンフェスティバル」で発表しました。
⑤学生団体ボーノの企画による，食についてのワークショップを4回開催し，子ども達に食について

- ⑤学生団体ボーノの企画による、食についてのワークショップを4回開催し、子ども達に食について、伝え、理解を深めました。
- ⑥災害時・緊急時こそ、みんなの力が必要で、アレルギーについて知識を深めることで、取り残さないという課題の解決に繋げる講演会を開催しました。当事者だけでなく参加があり、質疑応答もありました。
- ⑦京都工芸繊維大学の学生の企画による、科学に関連する内容のワークショップを3回開催しました。その中には当センターの学生ボランティアの企画と合同で企画も行いました。
- ⑧一社）オーガニックフォーラムジャパンの「キッズアワード京都～ぼくのわたしの大好きな食べ物の絵コンテスト」に参加するために、2日間にかけて子ども達が自由に描き、応募しました。
- ⑨家庭で欠けている食器を持参し、漆を使わない手法で、食器を生き返らせる金継ぎ体験を行いました。夏休みには、子どもや親子対象に、海のごみシーグラス、シー陶器を使って「箸置き」の金継ぎ体験を行いました。
- ⑩SDGs 事業に参加された団体や中京いきセンを行き交う団体で、いきセンフェスティバルを開催しました。上記のワークショップ等でできた作品の展示も行いました。

2 準備段階での工夫

- ・協働団体とは定期的に会議やオンライン会議、メールのやり取りを行い情報交換し、参加者が楽しめる準備や配慮を心がけ開催に向けました。
- ・市民に興味を持たせ参加してもらえるよう、それぞれの団体の特性を前面に打ち出せるよう、広報やチラシ等で示す工夫をしました。
- ・大学生ボランティアも学校に配布したり、学校のサイトに載せてもらったりして他方からの学生が協力してくれ、事前に研修会を行い、学生が気軽に参加できるようにしました。学生はLINEへ繋がってもらい、LINEグループで連絡や日程調整を行い、スムーズに取り組みました。
- ・事前に他の事業の参加者の会話や団体の情報をスタッフで共有しました。
- ・参加された方とは、アンケートだけでなく、気さくに話しかけ、興味や感想など、意見も聞くよう、スタッフが意識し、行いました。また、パンフレットや事業のチラシを置き、質問に随時答えられるよう担当者が張り付きました。来場者の中には、利用したい声も聞け、LINE登録などの誘導も心掛けました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
- ・幅広い層の方に、自分のため将来のためという重要なことを心に響かせて、参加団体との連携を図ります。
- ・協働する団体と情報共有、連携することで、開催する目的ができ、具体的に伝えることが見え、質の良い高い取り組みが期待できます。
- ・参加人数の増加や協働による活動、多種多様なアイディアの取り入れを目的とし、参加者団体が主体の事業となり、自主性を引き出します。
- ・それぞれの意見を取り入れ、地域住民に伝え人々の意識改革と自然にSDGs（環境）の達成に向けて一歩踏み出す取り組みとなり、あらゆるひとを巻き込むことで、将来性のあるまちづくりを目指します。

- ・いきセンフェスティバルでは、当センター利用団体だけでなく、他方面で興味のある方を募り、申込みがあった団体にも参加してもらえました。その1つに舞子をしている方が披露され、薄れつつある京都の文化「舞子」を広め、知ってもらいたいという思いをこの事業で協力することができました。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・子どもから高齢者まで幅広い層の方に参加してもらえる事業となりました。
- ・市民活動団体、大学生、学生団体、の日頃の活動を活かして **SDGs** に繋げる内容の事業となり参加者の満足へ繋がりました。参加者からの反応も良く、継続して行って欲しい声や要望などが聞けました。
- ・大学生は、それぞれの学生の考えや行動を活かすため、上手く誘導することで、徐々に意見や行動が芽生え、将来の担い手の支援ができました。参加者に寄り添う事で、多世代との交流や支援が経験でき、自信にも繋がり、社会貢献する良い機会になりました。その後も、他の事業に参加される学生もあり、回数を重ねるごとに成長が感じられました。
- ・参加者の主体性を引き出すために、協働団体と連携し計画・実行できました。
- ・イベントは、継続して欲しい声や参加したい声、年に1回を2回にして欲しい声が聞けています。様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。また参加者に団体を知ってもらえる機会になりました。

4 今後の抱負

○ 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。

- ・まだまだ **SDGs** へ関心と材料があると思うので、中京いきセンを拠点に活動団体と市民を繋げる内容を模索し **SDGs** の知識と課題解決に繋げる事業を計画します。そのために、常に情報を取り込み、活動団体と連携をもって進めていきます。
- ・繋がった団体や学生は、継続して連携し、協働で行う取り組む内容を計画していきます。
- ・近年繋がっている、当センターを理解してくれている大学とは、連携し、ボランティアを募っていきます。
- ・また、**SDGs** については、従事者が常に外部の情報にアンテナを張り、参加できるイベント等に自ら参加し、自身の知識や見聞をアップデートします。

【事業名】多世代交流事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①「いきいき憩いの場」 毎週水曜日 10:30～12:00
②「ふれあい基地」 毎週土曜日 10:30～12:00
③「ふれあい喫茶」 毎週土曜日 13:00～14:30
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： ①401名（45回） ②395名（40回） ③433名（46回）
- 4 協力団体等： 助産師によるみんなでヨガ・ひなぎくヨガ・ベビーマッサージ（きらきりりん）・書道サークル・フラワーアレンジメントサークル・水彩画サークル・スローエアロビクスサークル・金継ぎ体験・紙しばいと絵本で手遊び・折り紙サークル・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO 他
- 5 予算： 2,107,500 円 / 決算：2,246,783 円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

地域で抱える問題も多様化していることからお互いを理解していく交流「多世代交流」できる事業を行いました。孤立しがちな環境で暮らす子育て世帯や高齢者、核家族化や地方から来ている大学生など、家族構成や問題は様々で、外部のコミュニケーションを取ることでお互いを支え合う活動に結びました。リタイヤした高齢者の知恵や大学生の新しい発想や行動力を生かした事業に、より安心して子育てできる環境づくりを展開します。そこで感じる高齢者への生きるための目的要素や個人では得られない多世代から得る情報によって双方にメリットを起こす取り組みを狙いにします。3つの対象者に分け取り組みを実施します。どの取り組みも団体と協働で活動し、始めようとする団体のスタートアップのサポートや活動団体の活動の励み、活性化に繋がります。

- ①「中京いきいき憩いの場」 乳幼児と保護者×高齢者 協力は子育てサークル・助産師によるみんなでヨガ・ひなぎくヨガ・ベビーマッサージ（きらきりりん）など。

内容は昔の懐かしい歌や手遊び・紙しばいや読み聞かせ・ヨガ体験・ベビーマッサージ
ブリザーブドフラワー体験・レコード鑑賞など。

- ②「中京ふれあい基地」 小・中学生×大学生 協力は・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は科学体験や工作、体を動かすレクリエーション、料理体験、お祭りを模した季節のイベント・太鼓体験・金継ぎ体験など。

- ③「中京ふれあい喫茶」 高齢者×大学生 協力は・京都工芸大学ぼっけ・京都先端科学大学学生・花園大学学生・産業大学学生・光華女子大学学生・学生団体 JVO。

内容は麻雀やボードゲーム・カラオケ体験・スマホの触り方・健康体操・クイズで脳トレ・歌や音楽鑑賞・ものづくり体験・レコード鑑賞など

2 準備段階での工夫

- ・スタッフと協力団体が定期的に、会議をして、各年齢層が来て楽しめる内容や自然に打ち解ける向け方、学生が自然に入れるきっかけなど、それぞれに問題点を確認しながら事業に取り組みました。

- ・活動は写真と動画で、わかりやすくし、チラシ、HPやSNSに毎週、情報公開し、繋がりのある方からは、その情報を見て申込みや問い合わせがありました。また、興味のある方は繋がってもえたら詳しくわかりますと誘導し、そこから申込みされていました。
- ・大学生ボランティアは随時募集し、見学や体験も行い、年間で途中参加もありました。チラシ等は大学にお願いし、配布し、電子掲示板に載せて頂いたりしました。グループLINEをつくり、連絡や周知をやりとりしました。昨年に続き、スムーズにやり取りでき、学生の意見も取り入れ学生主体の企画も実施しました。事業の後は、大学生からも感想や思いを聞き、今後に繋げていきます。
- ・毎週あるので、外にはコルクボード、館内にはホワイトボードにスケジュールを示し、来場者にわかるように、予定表やチラシでわかるようにしていました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・多世代で関わる中でコミュニケーション力やふるまいの向上を図ります。地域の大人と一緒に子ども豊かな体験（人との関わりや伝統文化の行事体験など）を生み出し、活動することの価値に気づき、成長過程にある子どもたちにはとても大切な経験となり、地域で理解も深まり日常生活で欠けている部分を補うことを目標にします。
 - ・共働き家庭や少子化による兄弟の減少などの傾向のある小・中学生に必要なコミュニケーションと人の繋がりがもてる居場所づくりを目指します。大学生は次世代を担う人材の育成を目的とします。
 - ・高齢者の「孤立化」や「無縁化」、「貧困化」などが深刻化するなか、少しでも多くの高齢者が社会的なつながりを持ち、心豊かな生活を送れるよう支援することと、大学生に見られる、異世代間の交流が少なく、社会性や人間関係の乏しさなどの問題解決を目的とします。お互いの足りない部分が補われ、この取り組みでしか得られない機会となり交流の輪に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1)の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・乳幼児と保護者の間に高齢の方の温かい見守りや声の掛け合いが、子ども達も自然になじめる雰囲気となり、保護者も安心して参加され、経験豊かな話を興味深く聞かれ、まさに多世代交流となりました。
 - ・事業に参加した大学生は学生主体の企画でグループに分かれ、それぞれ企画の立案、当日の運営まで行い、料理体験やものづくり、子ども達へ熱心さも伝わり、学生にとっても自信に繋がり、以前よりも主体的に行動するよう見られ、スキルアップしていることを強く感じました。
 - ・大学生が主体となって進めることで、小・中学生と大学生の積極的なやり取りが増え、関係性を築きやすくなっていると考えます。センタースタッフともコミュニケーションの機会が増えたことから気軽に話せる関係性ができ、談笑や相談、報告などをフラットにできる環境を維持できています。大学生にとって、さらなる学びや地域との関わりにつなげてもらっています。

- ・どの取り組みも、市民活動団体が快く参加され、意欲をもって企画され、活発な動きが見られました。また、この事業をきっかけに活動を始めて団体は、その後、センター会議室を定期的に借りて活動されています。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
- ・様々な世代の方との交流で、それぞれの良さが入り交り、他では体験できない事業なので、協力団体・参加者・大学生、それぞれの意見を取り入れ、今後も企画します。また、新しく繋がる個人や団体も大切にし、人が交流し合える仕組みを継続します。広報では、HP と SNS は継続しつつ、新しい手段で取り組めるよう検討します。
- ・この事業に参加や協働できたことをきっかけに、新しい活動やより良い活動へ繋がられるよう、新しい情報を取り入れ企画・運営していきます。

※ パンフレットや事業周知チラシなどを添付しても構いませんが、1事業につき1～2枚程度としてください。

【事業名】市民活動応援事業（活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： ①9/19・10/17 18:00～20:00
②11/16 13:00～15:00 ・ 11/30 10:00～12:30
12/14 10:00～12:00 ・ 3/1 10:00～12:00
③3/21 18:00～20:00
- 2 開催場所： 中京いきいき市民活動センター 会議室
- 3 参加人数： ①17名 ②10名 ・ 13名 ・ 7名 ・ 19名, 9名 ③15名
- 4 協力団体等： 京都工芸繊維大学学生・水彩画サークル・ものづくりサークル・子育てサークル
・書道サークル・学生ボランティア
- 5 予算： 88,000円 ／ 決算：117,635円

1 事業内容

- 事業の内容を具体的に記載してください。

市民活動団体やこれから始めようとする人と、組織を構成し互いの活動を応援する事業を行いました。日常の不安や問題・成功例などを話しまとめ、そこから問題を解決できるワークショップやイベントを行いました。

①市民活動相談会として意見交換を行いました。

②意見交換から出た案やそれぞれ抱える問題の解決に繋げるイベントを企画、開催しました。

水彩画体験 ・ わくわく体験 ・ クリスマスフェス ・ 科学体験&ヘッドドレスづくり

③イベントで協働した団体同士で個々の活動の近況会を行い、双方の問題点や良いところを話し合いました。

2 準備段階での工夫

- ・①の相談会で、グループに分かれ、個々で自由に意見交換できるよう形式で進めました。お互いの問題を知ること、それぞれの活動を知る機会になりました。イベントに繋げるためにも双方の活動を知り、それぞれが意見を出し合い、協働で取り組める企画へ繋がられました。
- ・イベントでは、それぞれの得意分野を発揮できるよう企画、センターから助言しながら、進めました。
- ・ワークショップに参加される子育て世代の方が、子供を連れて参加できるように、サポートできる場所と子育てサークルの方にも協力頂き、サポートしました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 事業を実施することで期待される効果や、目標としたことなどを記載してください。
 - ・市民活動や個人の方で、身近な困りごとを話す機会を持つことで、他の人の考えを聞く機会ができ視野が広がり、活動や行動の問題解決につながります。
 - ・グループディスカッションすることで、それぞれの思いや考えを伝え、みんなの意見で企画に繋げることができます。
 - ・全く違う活動や環境の方の話を聞くことで、今まで気づかなかったことを発見し、見直す機会をもてます。
 - ・問題から企画に繋げ、それぞれが前向きな考えとなり、今後の活動意欲に繋がります。

(2) 事業実施による目標の達成度

- (1) の達成度について自己分析し、記載してください。
 - ・グループに分かれての交流会では、それぞれに困りごとを話し合い、問題解決に向け、自主的に意見を言い合えることができ、解決に向けた取り組みとして、イベントとワークショップを計画し実行できました。
 - ・このイベントにより、他団体が知っている補助金の話しや広報の方法、参加できるイベントなど知ることができました。
 - ・活動団体と他団体をマッチングさせることで、より良い活動にもなり、また活気づき、参加者が賑わうイベントを作ることができました。
 - ・参加団体の主体性を引き出すために、協働団体の得意分野を活かせるイベントに繋がりました。また企画・運営も団体に任せることで、活動意欲にも繋がられ、今後もイベント等行っていきたいとの声が聞けました。
 - ・様々な団体が自主性を持って交流し合え、センターとしてはサポート体制で取り組みました。

4 今後の抱負

- 事業実施後に、実施結果について振り返ったことなどを記載してください。
 - ・グループディスカッションは重ねるごとに、意見も言いやすく、活発になるので、その形式で行い、センターは団体間のつなぎ役で努めていきます。
 - ・参加された団体とは良い意見交換ができ、協働で取り組める機会が持て、問題解決に向け前進できる事業となりました。
 - ・団体のサポートができ、参加された方も喜んでおられ、気持ちが前向きになれた感想が聞け、この取り組みは意味のある事業になり、今後も、内容を変え、市民に寄り添い、応援、サポートできる取り組みを企画していきます。
 - ・イベントを行う事で、学生が意欲を発揮していたので、今後も学生の成長に向けた取組みは計画していきます。

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：2,884,800円（前年度比ー）

〔内訳 会議室等：2,884,800円
付属設備：〇〇〇,〇〇〇円 ※自主事業分を除く
スモールオフィス：〇〇〇,〇〇〇円〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

（1）全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

2 利用者満足度把握の結果

（1）全センター共通窓口サービス

項目①

たいへん満足 7.3%満足 86.5%不満 3.1%たいへん不満 0.0%無回答 3.1%アンケート回収数 100%

項目②

たいへん満足 18.8%満足 70.8%不満 6.3%たいへん不満 0.0%無回答 4.2%アンケート回収数 100%

項目③

たいへん満足 9.4%満足 82.3%不満 3.1%たいへん不満 0.0%無回答 5.2%アンケート回収数 100%

項目④

たいへん満足 9.4%満足 82.3%不満 4.2%たいへん不満 0.0%無回答 4.2%アンケート回収数 100%

項目⑤

たいへん満足 12.5%満足 79.2%不満 2.1%たいへん不満 0.0%無回答 6.3%アンケート回収数 100%

項目⑥

たいへん満足 6.3%満足 83.3%不満 4.2%たいへん不満 0.0%無回答 6.3%アンケート回収数 100%

項目⑦

たいへん満足 5.2%満足 86.5%不満 4.2%たいへん不満 3.1%無回答 1.0%アンケート回収数 100%

（2）センター独自アンケート

○結果の概要を可能な範囲で記載してください。（例：概ね満足 等）

- ・備品についてはすべて無料で貸出しを行っているが、とても満足していただき、アンケートを実施する事で利用者があったらいいなと思える備品の内容などを知ることが出来るため、少しずつではあるが備品の購入を増やしています。
- ・利用者の中に定期的に利用している団体で持ち物を置いて欲しい要望が数件あり、貸ロッカーの設置も検討すべきかと考えています。
- ・その他、挨拶や服装・清掃等については概ね満足との結果であります。

3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したものを記載してください。

- ・ SNS を利用されていない方から、事業やイベントの内容が分かりやすいように掲示等を行ってほしいとの意見があり、センター玄関すぐの掲示板へ今後のイベントのチラシを掲示する事で内容を知ってもらう事ができて、利用者にとっても分かりやすくなっています。
- ・ 建物が古い事で冬の暖房の効きが遅い事を改善するのに、電気暖房器具を購入し、無料貸出ししており、満足して頂いています。プロジェクター、スピーカー、ラジカセ、卓球台等無料貸し出しも喜んでいただいています。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

仮予約システムの導入は利用者にとって便利で有効なシステムで、広報や声掛け等の影響もあり、浸透しています。中京いきいき通信についても、当センターのスタッフが構成から行う事で、昨年度よりも細部まで情報や内容が伝わるようでき、利用者やセンターの紹介としてわかりやすく示すことができています。

・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

・ 事業やイベントを行う中で、より一層参加者や来場者の意見に耳を傾ける事で利用者が求めている思いを実現に近づけられると考え、今後も利用者への声掛けや、話しやすい環境づくりができるよう努めていきます。

・ 事業や取組みの中で、新しい団体や学校、市民団体と協働することで、発信の幅を広げていき、たくさんの方に利用価値を知ってもらえるよう努めていきます。

・ エレベーターは設置せれていない為、階段を利用できない方や団体については、利用できる会議室が制限されている状況が続いています。改善が早急に求められている中、設置が必要だと考えます。

・ 次年度に向けた対応について記載してください。

・ 施設運営を行う中で、日々スタッフ間での情報共有や、新しい事への取組みについて話し合う機会を増やし、運営だけではなく中京いきいき市民活動センターが進化し続けられるよう引き続き進めていきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例) 重大な事故やコンプライアンス違反等があった場合は、その概要、改善策等を記載

例) 年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業があった場合は、その事業の名称及び内容、実施できなかった理由、中止した事業の取扱い（翌年度（令和6年度）に実施するのか、しないのか。）等を簡潔に記載

【締め切り】 4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

京都市 中京いきいき市民活動センター
指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 特定非営利活動法人
あかしやふれあいネットワーク
代表者名 理事長 岡本 賢治

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		15,658,990	15,658,990	0
利用料金収入		3,000,000	2,884,800	▲ 115,200
	会議室等	3,000,000	2,884,800	▲ 115,200
	付属設備	0	0	0
その他収入	光熱水費分担金			0
	個別事業参加費	403,000	208,000	▲ 195,000
当期収入合計		19,061,990	18,751,790	▲ 310,200
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		9,271,990	9,154,315	117,675
	常勤職員	7,821,990	7,597,013	224,977
	非常勤職員	1,450,000	1,557,302	▲ 107,302
光熱水費		1,500,000	1,602,304	▲ 102,304
	電気代	800,000	853,365	▲ 53,365
	ガス代	600,000	663,740	▲ 63,740
	水道代	100,000	85,199	14,801
施設管理費		1,580,000	1,552,384	27,616
	樹木剪定	65,000	68,600	▲ 3,600
	定期清掃等	500,000	485,340	14,660
	建築・空調・受水槽・高架水槽及び点検	520,000	500,000	20,000
	一般廃棄物処理費	50,000	40,668	9,332
	家用電気工作物	270,000	266,376	3,624
	警備保守	175,000	191,400	▲ 16,400
事務費		595,000	414,836	180,164
	電話代	150,000	48,711	101,289
	通信費（インターネット・郵便切手代）	190,000	177,395	12,605
	交通費	5,000	1,100	3,900
	消耗品費	250,000	115,110	134,890
	印刷費		61,970	▲ 61,970
	手数料		10,550	▲ 10,550
修繕費		200,000	23,117	176,883
	建築修繕	200,000	23,117	176,883
備品購入費（5万円以上の物品）			0	0
				0
租税公課		850,000	652,400	197,600
	消費税	850,000	652,400	197,600
その他		17,000	15,440	1,560
	賠償責任保険保険料	17,000	15,440	1,560
施設運営業務支出合計		14,013,990	13,414,796	599,194
2. 事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		2,940,500	3,060,353	▲ 119,853
	SDGs事業	2,852,500	2,942,718	▲ 90,218
	市民活動応援事業	88,000	117,635	▲ 29,635
サロン運営・活用事業費		2,107,500	2,246,783	▲ 139,283
	多世代交流事業	2,107,500	2,246,783	▲ 139,283
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		5,048,000	5,307,136	▲ 259,136
当期支出合計		19,061,990	18,721,932	340,058
当期収支差額		0	29,858	29,858

令和6年度 事業報告書 東山いきいき市民活動センター

【指定管理者:有限責任事業組合まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 9 名（常勤 3、非常勤 7）

【人材育成の取組】

- ・各スタッフの専門性に合わせた OJT の実施
- ・窓口応対向上のための全体及び個別レクチャーの実施
- ・定期的な個人面談の実施
- ・より専門性を高めるための外部研修の奨励

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
642	577	570	569	499	604	637	563	558	510	552	594

(年間)

6,875 件（前年度比 98%）

イ 利用状況

利用総数は微減しているが、月単位でいくと半数近くの月で増加している。長期休みなどでの利用件数が下がっていることが理由として挙げられます。

ウ 利用促進に向けた取組

昨年度末に鏡を入れて利用件数の増加に勤めましたが、まだ効果は見られず、今年度では鏡の部屋を増やし、より一層新規利用団体の獲得に努めていくつもりです。

エ その他

サロンは今年度で廃止されることもあり、利用件数としては昨年度同様な形になりました。来年度では本館の方で引き継げるように備品などの移動を進めました。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

Facebook を活用した情報発信に力を入れてまいりました。投稿内容としては、センター認知度につながる情報に加え、センター事業に関する投稿や東山区にまつわる人や場所やものやイベントなどの発信だけでなく、センタースタッフの人となりを知っていただき、気軽に窓口にご相談いただけるよう工夫を行いました。

イ 取組の効果

各事業の報告を発信し続けたことで、それぞれの事業への参加者の数も徐々に増加していきました。

(4) 管理運営

今年度も通常通り建築物の保守管理、保安警備業務、清掃業務、植栽保全、エレベーター保守点検等を実施しました。

(5) その他

POS レジの導入及びウェブ予約の周知を進めた結果、徐々に窓口ではなくウェブからの申し込みをされる団体も増えてきました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】 市民の「やりたい」を形にする対話型ワークショップ創出事業～東山しゃべくり大作戦～

事業の概要

- 開催日時：令和6年8月25日（日）10時～12時
令和6年11月24日（日）10時～12時
令和7年2月22日（土）10時～12時
- 開催場所：東山いきいき市民活動センター集会室／霊明神社／東山図書館
- 参加人数： 延べ30名
- 協力団体等：東山くらしよし／東山図書館／霊明神社
- 予算： 670,000 円 / 決算： 656,779 円

1 事業内容

東山区内において、地域やまちづくりなどを含めた公益的な取り組みを行っている・または行いたい方々のつながりの場があまり存在しません。東山区の盛り上げ・新たな活動の担い手・既存の活動の担い手とのつながりの機会創出を目的とした「東山しゃべくり大作戦」を実施しました。

2 準備段階での工夫

昨年度までは当日参加者よりトークテーマを募っていく形式で実施しましたが、今年度は各回テーマを予め設け、またテーマに沿った会場にて実施する形式に変更しました。8月は東山図書館との連携により、「図書館の新たな利活用」をテーマに、11月は「防災食」をテーマに、2月は「東山の歴史」をテーマに霊明神社と連携して実施しました。それぞれ関心のある方々が集まり、通常回と比べて中身の濃い話し合いが行われていました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

元々は区役所で実施されていた「まちカフェ」を継承し、年間4回程度、各回15名程度の参加者を見込みながら、センターの存在を知らない層にセンターの存在の周知と新たな担い手の発掘とネットワークづくりを目標に掲げていました。

（2）事業実施による目標の達成度

センターを飛び出して会場を変えて行ったことで、これまでセンターで開催していた時と比べて参加者層が若干変わってきました。テーマに興味ある方々が来場したということもありますが、これまでセンターと関係性のなかった方々の参加も見られ、他との連携の意義を感じました。

4 今後の抱負

このしゃべくり大作戦からスピンオフ企画として有志の方々と「東山で企画会」という催しを今年度複数回実施することができました。こちらは招待制で、東山で何らかの活動をスタートさせている活動者を対象に実施したこともあり、しゃべくりとは全く違う話し合いが行われ、実際に参加者同士の事業連携なども生み出すことができました。今後はこのように通常回と企画会の両輪で実施していきたいと考えています。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域の学び直しの場づくり事業「みんなの学校ごっこ」

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年9月23日（土）24日（日）10時～17時
令和7年3月10日（日）10時～18時
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター全館、多目的ホール
- 3 参加人数： 延べ680名
- 4 協力団体等：みんなの学校ごっこ実行委員会
- 5 予算： 1,050,000円 / 決算： 1,118,384円

1 事業内容

みんなの学校ごっこは、まちの方々の知識やスキルを学びに変え市民活動への参加を促すとともに新たな活動の一助となることを目的に実施しています。

まちのみなさんがスキルをセンセイとして教え、まちのみなさんが生徒になって学び合い教え合う場として開催しています。今年も2回9月と3月に開催しました。

2 準備段階での工夫

今年度も実行委員会を組織し、公募で集まった市民の方たちと事業を構築していきました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

多様な市民の方々がご自身のスキルや知識や経験を出し合える町にしていきたいという想いから、多様な「センセイ」の発掘と市民の有志による実行委員会の自主的運営を目標としていました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度も多くの方が「センセイ」となりました、9月では70名、3月では15名の方が参加しました。事業を担うプレイヤー達が自身で考え実行していく取り組みも増えていき規模も昨年を上回るものとなり一定の事業効果をあげることができました。実行委員会も大学生から50代までの多様な世代の方が集まる場にもなりました。

4 今後の抱負

実行委員会の拡大により人数や動き方など、運営を再構築していく必要があると考えています。開催までのロードマップを作成や実行委員の役割の明確化などを実施し、円滑に運営を行いたいと考えています。広報活動についてSNSやチラシのみに注力していたがそれ以外の広報も開拓していきます。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域課題・社会課題受発信事業(メディアセンター事業)

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年4月～令和7年3月（月1回程度）
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①各回5名～10名程度②市民ライター3名③各5名
- 4 予算：1,450,000円／決算：1,421,086円

1 事業内容

①動画製作集団の組織化「Social Echoes」

ソーシャルグッドな動画を制作し発信することで新たな地域活動やトレンドの表出と動画の発信の担い手の創出による新たな市民活動の担い手創出とを同時に実施しました。月に1回程度の定例会議でメンバー同士の交流・技術の向上・動画企画の立案などを行っていきました。

②WEBメディア「iINA」の発行

『あなたのいいなが、まちのいいねに…』をテーマに、WEBメディア「iINA」は京都市東山区を中心に、市民の方に「それイイな、やってみよう」と思えるような、地域で活動する人の考え方や取り組みを発信しました。今年度は3名の市民ライターとともに、記事作成をしてまいりました。

③動画スクールの開校

初めて動画制作をおこなう方向けに動画スクールを開講しました。スマートフォンのみで完結するよう講座を構築し、卒業制作としてソーシャルグッドな動画を作成することで社会問題の発信にも寄与しました。四半期に1回の実施予定でしたが、台風や大雪の影響で実施が2回となってしまいました。

2 準備段階での工夫

多様な方々が参加できるよう、SNSや広報ツールを使用し、メンバー獲得に注力し、また定着していただけるよう、コミュニケーションの機会もなるべく多く持てるように工夫しました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

より多くの方々に発信の担い手になっていただけるよう、チームづくりと発信機会の創出を目指していきました。

（2）事業実施による目標の達成度

①については制作する動画のテーマを固定化し会議、撮影、編集のサイクルを短い期間で回すことで制作のペースを上げることにつながりました。②については市民ライターが執筆しました。③については卒業制作として動画を発信していただきました。

4 今後の抱負

昨年度より制作の頻度が上がり参加者が集まる機会も増えました、次年度以降も活発に活動していけるように体制を整えていきたい。③については①への接続が少なかったので増やしていく仕組みづくりを再構築していきたい。

事業風景の写真



動画制作の基礎を
一気に学ぶ3日間

超入門 動画スクール

会場 東山いそいそ市民活動センター
3階ワークショップルームA

2024年 5/11(土) 5/18(土) 5/25(土)
各回 13時~15時



Social Echoes
@socialechoes3716・チャンネル登録者数 172人・54 件の動画
「Social Goodを世の中に発信」をテーマに動画を発信しております。...さらに表示

登録済み

ホーム 動画 再生リスト

新しい動画 人気の動画 古い動画

SDGsなモノ紹介
nuts link〜SDGsなモノ紹介〜
18 (15) 視聴・4 (1) 投稿

働きづらかった人が働きやすい環境
をつくる「WORK RULE SHEET...」
42 (14) 視聴・8 (1) 投稿

みつるうらップ〜SDGsなモノ
紹介〜
64 (14) 視聴・5 (1) 投稿

my mizu アプリ〜SDGsなモノ
紹介〜
20 (14) 視聴・5 (1) 投稿

認知げカルタ〜SDGsなモノ紹介〜
8 (14) 視聴・5 (1) 投稿

【ショートフィルム】ふたたび、こ
4 (14) 視聴・5 (1) 投稿

【ショートフィルム】オレンジ色の
3 (14) 視聴・5 (1) 投稿

「超入門動画スクール卒業作品」
1 (14) 視聴・5 (1) 投稿



note

lina

あなたのいいながまちのいいなに

「あなたのいいなが、まちのいいなに」をテーマに、地域メディア「lina」は、あなたの地域とつながるきっかけを、京都府山科区を中心に、右側のまち「オレイジ」を、やってみよう」と思ふように、地域で活動する人の考え方を発信し、交流を促しています。

運営：東山いそいそ市民活動センター

プロフィール：27 フォロワー・1 記事・2023年5月

フォロー 投稿 検索

投稿

投稿がないからこその誰かとつながれることがある〜学生がひらく、くつろぎの場とは〜

学生と地域がつながれる場所を、自分たちの手でつくる

小さな成功体験を積み重ね、次第に一歩を踏み出している

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】e スポーツ・アナログゲームを通じた世代間交流事業

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年4月～令和7年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センターふれあいサロン／東山区役所／東山図書館
- 3 参加人数： 延べ120名
- 4 予算： 620,000円 / 決算： 623,814円

1 事業内容

e スポーツを通して、多世代の交流をおこなうことを目的に事業を行いました。会場はふれあいサロンを使用しe スポーツチーム『おいなり』を組織化し、月1回程度、活動を実施しました。

また、東山図書館との連携により、図書館の新たな利活用を考える「さわげる図書館プロジェクト」としてアナログゲームパーティを2ヶ月に1回開催しました。

2 準備段階での工夫

SNSなどを活用し、活動の周知などを行なっていました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

近年市民権を得てきているe スポーツを活用し、多世代交流事業を行うことで多様な人々のつながり・連携を生み出していきたいと考えていました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度も引き続きボランティアと協力しe スポーツの経験がなくとも参加しやすいように工夫して実施しました。前年度より、チームおいなりとして活動し公式サイトを作成やSNSなどにも力を入れ、広報活動も拡大していきました。小学生や大学生、高齢の参加者など様々な世代が参画し交流したことで目標が達成に繋がりました。e スポーツの利活用として今年度は東山区が開催している区民祭りに出展し、普段e スポーツとは縁遠い方たちにも楽しんで取り組めるものであると感じていただけることができました。

また、さわげる図書館プロジェクトでは、毎回約30名ほどの来場があり、これまで図書館に縁のなかった市民の方々の参加にも繋がり、図書館の新たな価値づくりに貢献できたのではないかと考えています。

4 今後の抱負

次年度より、サロン除却のため本館でも引き続き活動を行っていききたいと考えています。また参加者が固定化しているので新たに参加者を増やす取り組みとして広報活動を強化するとともに、チームとして目標を設定し大会の参加や開催なども積極的に行っていきます。また、図書館の企画では、運営側に回っていただける方を募っていき、一緒に図書館などの公共空間の価値を見直していく市民の方々の輩出に繋げていききたいと考えています。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】“地域の縁側”としての居場所づくり事業 「装いのアトリエ」

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年4月～令和7年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター ふれあいサロン
- 3 参加人数：10名（上半期5名、下半期5名）＋サロン利用者
- 4 予算： 430,000円 / 決算： 464,048円

1 事業内容

多世代交流拠点（旧高齢者ふれあいサロン）にて、ものづくりワークショップを通じた多世代の交流や居場所づくりを月に一度行いました。ワークショップに参加することで、異なる世代の人々が集い、交流やコミュニケーションが生まれたり、手作りの楽しさや喜びを共有することができる場をつくりました。

2 準備段階での工夫

普段サロンをご利用されている地域の方々にも積極的に声かけを行い、一緒にものづくりが行えるように工夫していきました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

参加者が異なる世代の人々と交流し、新たなつながりを作り出すことを目指し、参加者や地域の人々が交流し、地域とのつながりを深めたり、世代を超えた交流を行うことを狙いました。

（2）事業実施による目標の達成度

今年度は上半期と下半期、どちらも半年かけてひと作品を製作する形で実施しました。作品づくりが進むにつれて参加者同士の関係性が深まり、作品づくりだけでなくこのコミュニティがあることも、日々の活力となり、実施日が来るのを楽しみにされる要因の1つとなったようです。

4 今後の抱負

半年間のワークショップという性質上、参加者同士の交流やコミュニティづくりに注力できる一方で、参加受け入れ人数を多くできずメンバーの固定化点が課題として挙げられる。

世代によってもコミュニティへ馴染む時間の掛かり方は様々なので、こういった場にしたのか、多世代が循環しながら交流するためにはどんな方法が取れるのかを引き続き模索し、進めていきたい。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】地域課題・社会課題受発信事業（メディアセンター事業）

「インターネットラジオ番組：ちょっとご縁がありまして」

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年4月～令和7年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター
- 3 放送回数：6回・総再生回数 432回
- 4 予算： 0円 / 決算： 0円

1 事業内容

東山いきいき市民活動センターでご縁が繋がった「ちょっと面白いヒト」をお呼びして、その方の活動だけではなく、活動を始めたきっかけや背景を深掘りしてお聞きする音声配信番組を運営しました。

<https://stand.fm/channels/613ef65e7de6f0a0e09cbbce>

2 準備段階での工夫

前もって利用団体さまや活動団体にお話を伺い、活動の PR や発表会などの告知、メンバー募集を効果的にできるようなタイミングを設定しました。また、聞き手となるナビゲーターを公募でも募集し、実際に活動を行っているゲストとお話することで市民活動を間近で感じられる機会を設けました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

配信媒体は、現在のところ stand.fm と Facebook を使い、このラジオを聞いた人が活動の第一歩や新しいご縁に繋がる 機会の創出を目的としています。

（2）事業実施による目標の達成度

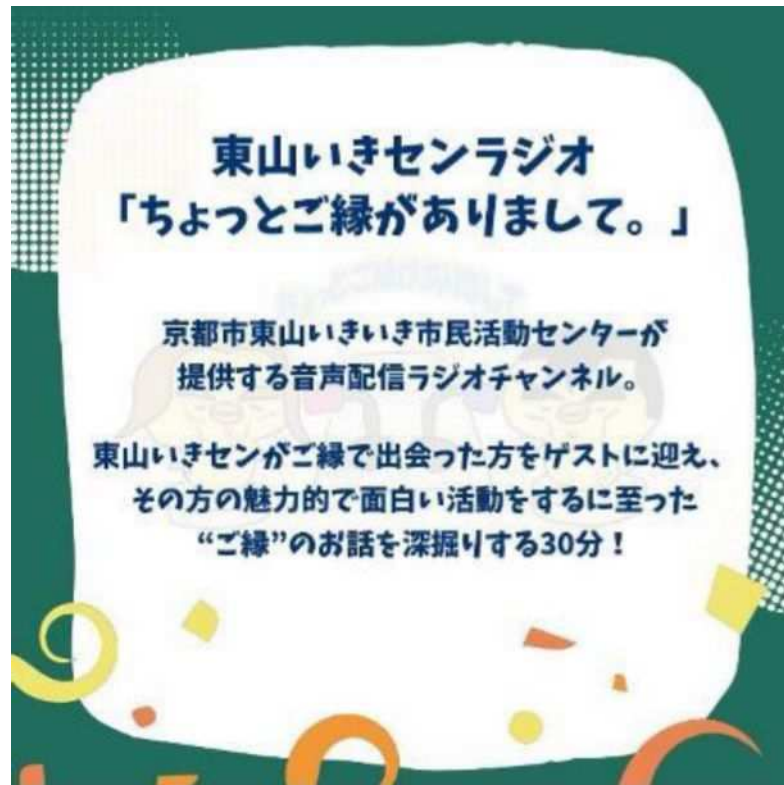
今年度も様々な活動者のお話をお聞きし、発信することができました。他の事業で出会った方々にもお声かけすることにより、継続した関わりを生み出す一助になっている他、活動を始めたばかりの方をゲストにお迎えすることで活動の PR に繋がったりと、市民活動のサポートとして一定の事業成果を上げることができました。また、別センターへ音声配信のノウハウ伝授も行うことができました。

4 今後の抱負

今年度は昨年度に比べてゲスト登壇者が少なく、ボランティアナビゲーターとの日程調整の難しさや、ゲストへのお声かけの回数が減ってしまったことが課題に挙げられます。

活動者にとっても貴重な PR の場の 1 つであるため、月 1～2 名の収録を目指し、またボランティアナビゲーターの育成も力を入れていきたい。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】アーバンファームで多世代交流事業

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年4月～令和7年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター 中庭
- 3 参加人数：各回約15名
- 4 予算： 0円 / 決算： 0円

1 事業内容

東山いきセンの中庭を有効活用できないかと考え、お庭作りや土いじり・作物栽培などに関心のある方々を募り、アーバンファーム「東山オープンガーデン」として生まれ変わらせ、多様な人々が中庭を理由に集い活動する事業を行いました。

2 準備段階での工夫

興味ある方々にやってもらうのではなく、センター職員と一緒に汗をかき楽しむところから始めていきました。SNSでグループを作り、常に情報発信と共有を行い、誰もが参加しやすいように工夫していきました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

中庭の利活用を通じて多様な方々が集うきっかけを提供することを目的として始めました。

（2）事業実施による目標の達成度

次第に人も増えてきており、最近では入れ替わり立ち替わりにはなりますが、常時15名近くの参加があるくらいになりました。みんなで物品などを持ち寄ることで、現状では特に費用もかからずに運営することができています。

4 今後の抱負

今年度である程度中庭を整えることができました。今後については利活用を参加者と一緒に考え、より柔軟に多様なことが行える市民に開かれたスペースとして活用していきたいと考えています。

事業風景の写真



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】交流スペースリノベーションワークショップ

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年11月～令和7年3月
- 2 開催場所：東山いきいき市民活動センター 交流スペース
- 3 参加人数：15名
- 4 予算： 650,000 円 / 決算： 601,440 円

1 事業内容

当センターのサロンが令和6年度で閉鎖となるので、そこに集まってこられている方々の居場所を本館の方に確保したい。単に高齢者の居場所とするのではなく、多様な世代の方々が滞留し、交流・連携できる機能も持たせたいと考えており、この機にリノベーションを行いたいと考えています。学生たちと協働で、開かれたワークショップのような形式でリノベーションを一般市民・利用者にも呼びかけながら進めていく事業として実施しました。

2 準備段階での工夫

リノベーションについては、我々だけで行うのではなく、東山区で活躍している大学生サークル「KYOBI 建築研究会」の大学生たちに協力を仰ぎ、一緒に実施していきました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

地域の方々の意見も聞きながら交流スペースのリノベーションを大学生たちと一緒にやり、ワークショップを通じて交流を生み出していきたいと考えていました。

（2）事業実施による目標の達成度

2月～3月にかけて、大学生たちとワークショップによる話し合いを重ねながらデザインの擦り合わせを行い、リノベーションにまで漕ぎ着けることができました。リノベーションの基本的な部分は大学生たちに行なっていただきつつ、カーテンや椅子などの作成についてはワークショップ形式をとり、利用者を交えて作成していきました。

4 今後の抱負

無事リノベーションを終えることができ、今後はサロンに変わる拠点として交流スペースの利活用を進めていきたいと考えています。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績 令和 6 年度実績：12,040,220 円（前年度比 98%） 内訳 会議室等：11,072,970 円 付属設備：266,430 円 ※自主事業分を除く スモールオフィス：700,820 円
2	管理運営に係る経費の収支決算 別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 11 月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

① 案内表示は分かりやすかったですか。

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
52%	46%	1%	0%	1%

② あいさつやお声がけはきちんとできていましたか

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
56%	39%	4%	0%	1%

③ 身だしなみは業務にふさわしいものでしたか

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
56%	43%	0%	0%	1%

④ 表情や態度は感じが良かったですか。

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
52%	43%	3%	0%	2%

⑤ 言葉づかいや説明は、親切で、ていねいでしたか。

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
54%	41%	2%	0%	3%

⑥ 説明は的確で分かりやすかったですか。

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
57%	40%	1%	0%	2%

⑦ 整理、整頓は行き届いていましたか

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
55%	38%	3%	1%	3%

3 意見等への主な対応状況

○ 利用者からの意見で対応したものを記載してください。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。
- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。
- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

今年度も多様な方々とのコミュニケーションのうえ、それぞれの事業を進めてまいりました。その中から、「アーバンファーム」「さわげる図書館プロジェクト」「東山で企む会」など、新たな事業のタネも生まれてきており、少しずつ進化・発展させていくことができたと感じています。

次年度については、今年度少しずつ実施することができたセンターを飛び越えての東山区内各所で事業実施をより一層広げていくことで東山区全体の市民活動を盛り上げていきたいと考えています。その例として、学校ごっこの横展開なども進めていきたいと考えています。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

今年度、台風や大雪の影響により、動画スクールの実施回数が少なくなっていました。天候が理由のため、なかなか難しいところではありますが、次年度では、開催時期についての見直しを図りつつ、予定通り開催できるように進めてまいりたいと思っています。

【締め切り】

4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

京都市東山いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和６年度分）

有限責任事業組合まちとしごと総合研究所

代表者名 岡本卓也

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入				
		19,923,050	19,923,050	0
利用料金収入				
		10,571,840	12,040,220	1,468,380
	会議室等	9,500,000	11,072,970	1,572,970
	スモールオフィス	1,071,840	700,820	▲ 371,020
	付属設備（自主事業を除く）		266,430	266,430
その他 収入	光熱水費分担金		309,718	309,718
	個別事業参加費	60,000	30,000	▲ 30,000
				0
				0
				0
当期収入合計		30,554,890	32,302,988	1,748,098
人件費				
		13,000,000	12,768,758	231,242
	職員１０名		10,750,050	▲ 10,750,050
	賞与		908,000	▲ 908,000
	法定福利費		1,095,570	▲ 1,095,570
	福利厚生費		15,138	▲ 15,138
光熱水費		5,300,000	6,528,480	▲ 1,228,480
	電気代	4,000,000	4,523,738	▲ 523,738
	ガス代	1,000,000	1,609,736	▲ 609,736
	水道代	300,000	395,006	▲ 95,006
施設管理費		5,000,000	2,390,992	2,609,008
	樹木剪定		63,036	▲ 63,036
	定期清掃等		955,592	▲ 955,592
	機械警備		229,680	▲ 229,680
	消防保守点検		126,500	▲ 126,500
	E V 保守点検		205,700	▲ 205,700
	空調保守点検		92,019	▲ 92,019
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検		49,500	▲ 49,500
	自家用電気工作物		248,160	▲ 248,160
	雑用水用給水設備		0	0
	建築設備点検		79,200	▲ 79,200
	空気環境測定等		118,800	▲ 118,800
	塵芥処理費		222,805	▲ 222,805

事務費		1, 882, 250	2, 625, 592	▲ 743, 342
	旅費交通費		854, 620	▲ 854, 620
	通信費		492, 061	▲ 492, 061
	消耗品費		743, 979	▲ 743, 979
	新聞図書費		6, 500	▲ 6, 500
	会議費		1, 000	▲ 1, 000
	リース料		286, 396	▲ 286, 396
	支払手数料		114, 036	▲ 114, 036
	支払報酬		127, 000	▲ 127, 000
			0	0
			0	0
修繕費		500, 000	707, 300	▲ 207, 300
	302修繕		451, 000	▲ 451, 000
	アンプ修繕		4, 400	▲ 4, 400
	消防設備修繕		251, 900	▲ 251, 900
備品購入費（5万円以上の物品）		0	275, 000	▲ 275, 000
	サイネージ		275, 000	▲ 275, 000
				0
				0
租税公課			1, 543, 681	▲ 1, 543, 681
	消費税		1, 543, 681	▲ 1, 543, 681
				0
				0
その他			32, 250	▲ 32, 250
	賠償責任保険保険料		32, 250	▲ 32, 250
				0
施設運営業務支出合計		25, 682, 250	26, 872, 053	▲ 1, 189, 803
市民活動支援・活性化事業費		3, 170, 000	3, 196, 249	▲ 26, 249
	地域の学び直しの場づくりと地域活動の担い手創出事業	1, 720, 000	1, 775, 163	▲ 55, 163
	地域課題・社会課題受発信事業（メディアセンター事業）	1, 450, 000	1, 421, 086	28, 914
				0
				0
				0
サロン運営・活用事業費		1, 700, 000	1, 689, 302	10, 698
	地域の多世代交流拠点としてのサロン運営事業	1, 700, 000	1, 689, 302	10, 698
				0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		4, 870, 000	4, 885, 551	▲ 15, 551
当期支出合計		30, 552, 250	31, 757, 604	▲ 1, 205, 354
当期収支差額		2, 640	545, 384	542, 744

令和6年度 事業報告書 下京いきいき市民活動センター

【指定管理者：有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 8 名（常勤：1 名、非常勤：7 名）

【人材育成の取組】

- ・新採職員に対する研修（窓口対応・貸館業務等に関する OJT）
- ・センター運営に関する全体研修（年 1 回）
- ・定例スタッフミーティング（月 1 回）
- ・スタッフ一人ひとりとの面談（年 2 回）

(2) 貸館等

ア 利用件数

（月別）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
332	362	451	360	403	295	304	307	286	289	307	353

（年間）

4,049 件（前年度比 111%）

9,666 時間（前年度比 101%）

イ 利用状況

昨年度に引き続き、利用件数が前年度を 1 割程度上回り、利用は順調に増えていると言えます。毎月 10 団体以上の新規登録もあり、今後も利用増加が見込めます。

ウ 利用促進に向けた取組

楽器練習ができる「音楽室」・「集会室」の土日の利用率が 90%に達している状況を鑑み、同じ 3 階のフロアにある「会議室 3」・「和室」でも一部の楽器を使用できるよう、ルールを改めました。それにより、今まで予約が取れなかった音楽団体も使用できるようになりました。

また、通勤や通学でセンターの周辺を歩く人に向けてセンターの外部掲示板の情報を見やすく改めたり、ホームページで SEO を改善したり、事業者向けにインボイス対応できること周知するなど、認知の向上に努めました。

エ その他

サロンの年間来訪者数は 361 名でした。昨年度（840 名）からは大きく減少しましたが、概ね一昨年度と同程度の利用がありました。減少の大きな理由は、昨年度行われた京都市立芸術大学の授業での利用がなかったことに依ります。

一方で、個人的に利用を継続している芸大生や、今までは利用しなかった近隣の子どもたちも訪れるなど、幅広い年代の利用が広がった 1 年でした。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

貸会場の紹介や事業の取組など、Facebook や Instagram 等の SNS で発信しました。また、最寄り駅からセンターまでの道順がわかりにくいという声を受けて、スタッフが駅からセンターまでを歩いて紹介する動画を作成しました。

またセンターの取組だけでなく、下京区域ともかかわりの深い活動を行う活動者 3 名（「エビバデ京ほっぷ・橋本さん」／「祇園祭ごみゼロ大作戦・太田さん」／「笑いヨガ・上田さん」）に学生スタッフがインタビューを行い、WEB 記事にまとめて発信しました。

イ 取組の効果

発信媒体	ビュー数 リーチ数	ユーザー フォロワー	投稿数	いいね数
ホームページ	63,446 回 (190%)	13,470 名 (115%)	-	-
Facebook	61,831 回 (※)	576 名 (42 名増)	127 回 (※)	1,804 回 (※)
Twitter	—	—	—	—
公式 LINE	-	58 名 (7 名増)	14 回 (36%)	-
Instagram	36,523 回 (※)	367 名 (207 名増)	108 回 (※)	626 回 (※)

・昨年度と比較できるものは（）内に表記。

・※は、Meta 社のシステム事情により 4 月 1 日～9 月 22 日までの数値が計測できなかったため、前年度比ができなかった。

(4) 管理運営

消防用設備点検、建築設備点検等、施設保守に必要な点検を実施しました。空調機器に不具合が起こることが頻繁にあり室外機の修繕を行いました。

(5) その他

センター近隣の他機関との連携が盛んに行われるようになりました。これまでも「崇仁デイサービスセンター」と消防訓練の共同実施などはありませんでしたが、「下京・東部地域包括支援センター」と崇仁地域の買い物困難の課題を解決するための移動販売の実施や、「崇仁児童館」とセンターの花壇を通じた食育プログラムの実施、また大学生を巻き込んだプログラムでは「下京青少年活動センター」「京都市立芸術大学」と様々なシーンで協働できました。地域の自治会や、下京区役所や市の関係部局との意思疎通を図りながら、京都駅東部エリアのまちづくりの中心を担えるセンターを目指していきます。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】SDGs コミュニティ オーガナイザー (SCO) の育成・支援事業 (市民活動支援・活性化事業)

- 1 開催日時：①令和5年4月～令和6年3月（随時）
②令和7年3月2日 10:00～17:00
- 2 開催場所：下京いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：①延べ6団体／②延べ198名（対面参加58名・オンライン参加140名）
- 4 協力団体等：京都市立芸術大学・崇仁自治連合会・七条中央サービス会等
- 5 予算： 1,705,000円 / 決算： 1,711,528円

1 事業内容

①若者による持続可能な地域社会を構築するための活動の相談・伴走支援

主に京都市立芸術大学の学生・卒業生のアート活動と地域課題を連結するための相談・伴走支援を行いました。【きょうげい B-LABO】【あつめやさん】【崇仁すすくセンター】【ナナメディアプロジェクト】【京都市立芸術大学 油画専攻】【一般社団法人ヴァリアスコネクションズ】の6団体の支援を通じて、ものづくり・フリーペーパー・絵画・写真を切り口に地域住民にアプローチできる取組を生み出すことができました。

②地域活動に必要なスキル・ノウハウを学ぶ公開講座の実施

センターで行ってきた取組の考え方やノウハウを分かち合うイベント、『しもいきトークライブ ～下京いきセンはどこへむかうのか～』を開催しました。

- ◇【セッション1「アートと地域文化の融合」】
- ◇【セッション2「多世代が交流できる公共空間が生む価値」】
- ◇【セッション3「大学生がまちにもたらすもの&まちから学ぶもの」】
- ◇【セッション4「ともすごツアーと Well-being なまち」】
- ◇【交流企画「子どもたちのお手製ガチャ・シニアの手芸作品展示」】

2 準備段階での工夫

②では多様な方の参加を促すために、対面・Youtube 配信を同時に実施しました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

若者による地域活動を生み出し・活性化すること（5プロジェクト）を目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

①では目標以上の相談があり、活動を具体化することができました。活動者からは「いきセンが地域との関係性を深める大きな支えになっていた。」とお声をいただきました。

②では想定以上の参加があり、アンケートの満足度も非常に高いものになりました。

4 今後の抱負

活動伴走やイベントを通じて、改めて地域全体で子どもや若者のチャレンジを育もうとする意思を実感します。今後もより多くの地域活動を生み出していけるよう努めていきます。

事業風景の写真

【①きょうげい B-LABO による取組 “革靴” をつくった学生と地元のおばあちゃん】



【②『しもいきトークライブ ～下京いきせんはどこへむかうのか～』セッション3の様子】



【事業名】副業型研究員 EK KYO による事業者×市民活動の連携をもとにした魅力発信・持続化支援事業（市民活動支援・活性化事業）

- 1 開催日時：①令和 6 年 10 月～令和 7 年 3 月（計 10 回）
②令和 6 年 9 月 25 日／10 月 27 日／11 月 24 日（計 3 回）
- 2 開催場所：京都市内各所
- 3 参加人数：①ツアー延べ 45 名／②研究会延べ 42 名／③コミュニティ登録者 31 名
- 4 協力団体等：フリーペーパー「ハンケイ 500m」など
- 5 予算： 1,665,000 円 / 決算：1,666,457 円

1 事業内容

①地域活動者の日常を体験する「ともにすごすツアー」

地域で活動する個人に焦点をあてたワークショップを計 10 回実施しました。

『食べておいしい 喋ってあったかい 商店街の表裏』（2 回）／『SUJIN CRAFT TOUR』／『まちの豆腐屋さんの門出をキッチンカーで祝う旅』／『ローカルに必要なメディアを考えるツアー』／『職人さんの日常に浸かろう～京小紋・兼松染色～』／『市立芸大の学生と一緒につくる商店街 POP ツアー』（2 回）／『町工場の跡地で行われるリ・オブジェクトツアー』／『まちの音に耳をすませば ～西陣のサウンドスケープで出会った人々～』

②他地域の実践例をもとに学ぶ「ともすご研究会」

商店街や工芸をテーマに他地域の事例を学ぶオンラインイベントを 3 回実施しました。

『ともすごツアープロジェクト大構想』／『ともすご研究会 Vol.1～商店街の日常をひらく～』／『ともすご研究会 Vol.2～工芸の世界をひらく～』

③事業参加者が自由に意見交換できるコミュニティ「ともすごコミュニティ」

事業参加者が任意で参加するオンラインコミュニティをつくりました。

2 準備段階での工夫

中小企業の課題解決や観光プログラム開発にノウハウをもった副業型研究員 EK KYO の強みを活かした事業運営体制を整えました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

下京の住民・事業者と市民による協働型コミュニティの形成（30 名）を目標としました。

（2）事業実施による目標の達成度

当初予定していたより多くのツアーを実施することができ、最終的にコミュニティ登録者も 30 名を超えることができました。事業参加者からは「ナビゲーターのフィルターを通した価値共有が新たな発見と関係性を深める機会になる取り組み」とお声をいただきました。

4 今後の抱負

ツアーや研究会に参加し、一人ひとりの価値観や地域に対する想いが大事にされる社会に共感した方が、コミュニティに登録されています。今後は、この共感コミュニティの中から、新たにツアーをやってみたいという方を生み出せるように仕掛けていきたいと思っています。

事業風景の写真

【④「食べておいしい 喋ってあったかい 商店街の表裏」ツアーの様子】



【④「職人さんの日常に浸かろう～京小紋・兼松染色～」ツアーの様子】



【事業名】ダイバーシティを学び・表現するための多世代交流拠点化事業
(サロン運営・活用事業)

- 1 開催日時：①令和6年4月～令和7年3月
②令和6年12月21日、令和7年3月26日 など
- 2 開催場所：ふれあいサロン・下京いきいき市民活動センター1階ロビー
- 3 参加人数：サロン来館者数延べ361名
- 4 協力団体等：崇仁児童館・崇仁デイサービス・下京東部地域包括支援センター など
- 5 予算： 1,380,000円 / 決算：1,383,387円

1 事業内容

①誰もが気軽に立ち寄れる空間づくり

多様な方が気軽に集まれる場にできるよう、地域の高齢女性たちが手作りで作った折り紙作品を入口に展示したり、高齢男性ボランティアの力を借りて樹木を伐採するなど、部屋の内外ともに明るい雰囲気づくりに努めました。

②地域課題解決に関心のある市民が挑戦できる場づくり

サロンに集う多様な市民が、地域課題を解決する新たなプロジェクトを生み出しました。

◇ ”音楽 “を通じた多世代交流『みんなで音楽カフェ』

毎月サロンでウクレレの演奏を行っているメンバーが、下京東部地域包括支援センターが行っている移動販売に合わせて、いきセンの1階ロビーで実施した音楽会です。

◇ ”地元の小学生” 同士のつながりをつくる『学年いろいろ交流会』

地域の小学生から、「学校で不登校になってるような子も来れるようなイベントをしたい」という相談を受けて、子どもたち自身が企画・実施したイベントです。当日は地域のお店でもらった端材を使った工作や、防災時に役立つ料理などをして楽しみました。

◇ ”芸大生” の孤食をふせぐ『脱・孤独のグルメ』（不定期）

京都市立芸術大学の学生から、「学食がなくてお昼ご飯を食べる場所に困っている」という相談を受けて一緒に企画した、サロンでお昼ご飯を一緒に作って食べるイベントです。

2 準備段階での工夫

年齢や所属に関わらず、訪れた人たちの“やりたいこと”に寄り添う姿勢を心がけました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

多様な世代の来訪者が訪れ、地域に還元できる取組を生み出すことを目標にしました。

(2) 事業実施による目標の達成度

シニア・主婦層・芸大生以外にも、地元の子どもたちが訪れるようになるなど多様な年代の利用が進みました。

4 今後の抱負

どの取組も少人数ゆえの温かさ・居心地の良さを感じる一方で、サロンの年間来訪者数は大きく減少してしまいました。改めて、サロンに人を呼び込む工夫を検討していきます。

事業風景の写真

【②”音楽“を通じた多世代交流『みんなで音楽カフェ』の様子】



【②”地元の小学生” 同士のつながりをつくる『学年いろいろ交流会』の様子】



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：6,348,120 円（前年度比 101%）

内訳 会議室等：6,278,400 円
付属設備：69,720 円 ※自主事業分を除く

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

特になし

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
45.3% (39)	49.6% (58)	0.8% (0.3)	0% (0)	4.3% (1.9)

※質問7項目の平均点を記載しています。

※（ ）内は前年度の数値です。

(2) センター独自アンケート

特になし

3 意見等への主な対応状況

全項目において【たいへん満足】【満足】の回答が90%を超える良い結果となりました。

その中では、相対的に「あいさつや声かけ」「表情や態度」についての評価が低く、具体的な意見としては「少し声をかけにくい雰囲気がある」という意見がありました。

そこで、スタッフ全員で協議して、以下の対応策をとることにしました。

①窓口に来られた方だけでなく館内ですれ違う方にも挨拶や声かけを行っていくこと

②窓口に来た方にすぐ対応ができるようスタッフが使用する机の向きを変えること

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

【事業等の総括】

・（センター運営）

貸館の利用状況・窓口アンケートの結果ともに非常に順調です。下京区だけでなく、京都市内外全域からの利用がありニーズの高さを感じます。また地元自治会や近隣他機関との関係も年々良化してきており、スムーズな協力・連携が取れるようになってきています。

・（市民活動支援・活性化事業）

大学生や社会人などの若者が中心になって、自分たちの“やりたいこと”が、地域課題の解決につながる事例を生み出すことができています。『しもいきトークライブ』では、これまでのセンターの取組をより多くの方に知っていただくことができ、センターのコンセプトである“ダイバーシティズン”の具体的なビジョンを分かち合うことができました。

・（サロン運営）

サロンを中心に多様な年代のコミュニティが徐々に生まれてきています。特に、今年度は、地元の小学生がサロンを使ってイベントを企画・実施するなど、高齢者のための施設から地域の誰もが使える施設に進歩できた1年だったと感じます。

【今後の課題】

・（センター運営）

繰り返しになりますが、設備の経年劣化が大きな課題です。昨年の報告でも記載した、火災報知器や非常時の誘導灯のバッテリー交換などは、費用が高額のためなかなか改修が進捗していません。施設の新しさやアクセスの良さ、近隣の開発状況を鑑みると、今後ますます市民・事業者からのニーズが増えることが想定されます。大きな改修は行わない基本方針があるとはいえ、改めて相談・検討させていただきたい課題です。

・（市民活動支援・活性化事業）

センターが伴走する取組の多くは、「地域で何かしたいと思った個人」と「地域の〇〇さん」という個人単位のつながりから始まっています。そのつながりを生み出すために、スタッフは、何かしたい個人に粘り強く向き合い、地域の様々な人を知っている必要があります。そうした熱意と能力をもった人材の確保が課題です。

・（サロン運営）

サロンの場所がわかりづらいため、なかなか認知をしてもらうことができません。周辺の開発が進む中で、改めてサロンのブランディングを明確にし、まちの余白的な価値を求めている人に訴求していく必要があります。

【次年度に向けた対応】

センター周辺の開発スピードは早く、京都駅東西のまちの変化は著しいものがあります。住民の高齢化もあいまって地域独特の歴史や文化は失われつつある一方で、新たな視野や考え方をもちた芸大生や若手アーティストの活動も盛んになってきています。貸会場の利用団体、市民活動相談の件数も増えてきています。地域住民や学生・事業者も含めた利用団体、それぞれの“ニーズ”や“課題”に一つ一つ丁寧に応えていけるセンター運営を目指したいと思います。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特になし。

【締め切り】

4月30日（水）までに地域自治推進室へデータ1部＋紙1部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17部又は18部）を提出

※ 収支決算書も4月30日（水）までに提出してください。

京都市下京いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 有限責任事業組合 まちとしごと総合研究所

代表者名 代表組合員 岡本 卓也

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		18,734,540	18,734,540	0
利用料金収入		6,379,680	6,348,120	▲ 31,560
	会議室等	6,300,000	6,278,400	▲ 21,600
	スモールオフィス	0	0	0
	付属設備（自主事業を除く）	79,680	69,720	▲ 9,960
その他収入	光熱水費分担金	2,800,000	2,832,410	32,410
				0
当期収入合計		27,914,220	27,915,070	850
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		12,294,400	12,262,743	31,657
	職員9名	9,934,400	9,946,361	▲ 11,961
	法定福利費	1,660,000	1,677,031	▲ 17,031
	福利厚生費	0	17,811	
	旅費交通費	700,000	621,540	78,460
光熱水費		6,000,000	5,773,753	226,247
	電気代	3,200,000	2,720,155	479,845
	ガス代	800,000	1,097,799	▲ 297,799
	水道代	2,000,000	1,955,799	44,201
施設管理費		1,750,000	1,622,423	127,577
	樹木剪定	0	0	0
	定期清掃等	400,000	386,375	13,625
	機械警備	280,000	253,880	26,120
	消防保守点検	100,000	49,500	50,500
	E V保守点検	290,000	264,000	26,000
	空調保守点検	290,000	264,000	26,000
	自家用電気工作物	200,000	171,468	28,532
	雑用水用給水設備	0	0	0
	建築設備点検	90,000	154,000	▲ 64,000
	特殊建築物定期点検	0	0	0
	一般廃棄物	100,000	79,200	20,800

事務費		900,000	856,459	43,541
消耗品費		150,000	155,572	▲ 5,572
リース料		200,000	171,336	28,664
通信費		400,000	462,092	▲ 62,092
新聞図書費		30,000	22,800	7,200
印刷費		0	11,094	▲ 11,094
保険料		20,000	15,120	4,880
支払報酬		70,000	1,650	68,350
支払手数料		20,000	16,795	3,205
利用料還付金		10,000	0	10,000
修繕費		300,000	652,300	▲ 352,300
GHP室外機修繕			176,000	▲ 176,000
GHP室外機修繕			157,300	▲ 157,300
消防設備修繕			319,000	▲ 319,000
備品購入費（5万円以上の物品）		0	0	0
なし		0	0	0
租税公課		1,600,000	1,611,637	▲ 11,637
消費税等		1,600,000	1,611,637	▲ 11,637
その他		0	0	0
なし		0	0	0
施設運営業務支出合計		22,844,400	22,779,315	65,085
2. 事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		3,370,000	3,377,985	▲ 7,985
SDGsコミュニティ オーガナイザー（SCO）の育成・支援事業		1,705,000	1,711,528	▲ 6,528
副業型研究員EKKYOによる事業者×市民活動の連携をもとにした魅力発信・持続化支援事業		1,665,000	1,666,457	▲ 1,457
サロン運営・活用事業費		1,380,000	1,383,387	▲ 3,387
ダイバーシティを学び・表現するための多世代交流拠点化事業		1,380,000	1,383,387	▲ 3,387
その他	事業実施業務繰越	0	0	0
事業実施業務支出合計		4,750,000	4,761,372	▲ 11,372
当期支出合計		27,594,400	27,540,687	53,713
当期収支差額		319,820	374,383	▲ 52,863

令和6年度 事業報告書 吉祥院いきいき市民活動センター

【指定管理者：NPO 法人ふれあい吉祥院ネットワーク】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 6 名（常勤 4 名、非常勤 3 名）

【人材育成の取組】

・取組の具体例を記載してください。

公共施設の管理・運営を担う職員としての自覚を持ち、各種マニュアルや規定を作成して、設備の操作や利用者への受け答えが十分行えるよう、センター長が中心となつて必要に応じ指導や研修を行う。また、主催する事業に関わる知識や技術などについて、職員全員が興味関心を持ち「市民活動のサポーター」としての責任感と資質を高めていけるように指導する。

「報・連・相」の徹底を第一に、月に 1 回の職員ミーティングで事業や施設の進捗状況を共有する。お互いの作業をチェックしながらミスがないように、気軽にフォローし合える人間関係、人道的なコミュニケーションの構築を目指しています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
103	116	135	139	122	121	125	121	94	96	101	108

(年間)

1381 件（前年度比 115%）

イ 利用状況

○ 年間での利用状況について、傾向などを記載してください。

新規で単発の利用者と定期利用者が増加している。

鏡が無かった会議室に、新たに移動式の鏡を設置したことで、ダンスやバレエなどの鏡を使用する利用者が増加した。

○ 課題や改善が見られた部分があれば記載してください。

料理室の水道を単水栓から混合水栓へ工事、オーブンを買替えた。会議室 2 部屋に空気清浄機を設置して、和室にもホットカーペットと空気清浄機を設置。より快適に安心してご利用いただけることで更なる新規利用者増加を目指す。

ウ 利用促進に向けた取組

○ センターで取り組まれたことを記載してください。

SNS（Instagram・Facebook・公式 LINE・公式サイト）で直近の情報を更新。近隣の施設や商業施設にチラシ設置など協力を依頼、ポスティングを行った。

地域の回覧板や、市民しんぶんなどにチラシの折り込みを入れたり（無償）、地域の団体や学校との連携も積極的に行い、センターのアピールを行った。

イベントの申込に 2 次元コードや Google フォームを活用、公式サイトにも SNS のリンクを貼って情報発信をしている。

エ その他

○ サロンについて、利用状況や前年度と比較した増減の分析等を記載してください。

事業来館 1297 名（うち自由来館 357 名）

前年対比 110%（事業来館 1175 名（うち自由来館 360 名））

サロンで開催した事業への参加者がサロンの利点を知ること、利用希望の方が増え、来館者も増加したことが大きい。

ママ友同士の集まりや、保育園の茶話会、共通の趣味を持つ仲間の活動など（ストレッチ・カルタ・運動・着付け等）様々な目的で活用されている。

（３）情報発信等

ア 取組実績

○ SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について記載してください。

公式サイト情報を常に最新にし、SNS も日々チェックして情報の更新を行う。

Instagram についてはアカウントを分け、facebook も同様、利用者様にわかりやすく発信し、LINE の公式アカウントも利用し普段から利用されている方に向けて情報発信を行った。

○ センターの認知度向上だけでなく市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組があれば記載してください。

SNS や掲示板などで積極的に市民活動支援をしている内容を発信、地域で市民活動をしている方に、活動の内容や情報発信していただく機会を設けた。

実際に貸館を利用されている方など来館者がチラシや掲示板を見られている際に、声かけを行った。

イ 取組の効果

○ アの取組により効果が見られた事例を記載してください（団体の立ち上げや事業の実施につながった など）。

各サークル団体への参加者が増えた。

（４）管理運営

○ 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について、代表的なものを記載し、最後に「等を実施」と記載してください。

防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務等を実施。

(5) その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したものがあれば、その内容を記載してください。

来館者が気持ちよく利用できるよう、施設の掃除を徹底した。

具体的には「お掃除表」を作成し、どこをどのように掃除したかチェックを入れるようにして、見落としがないようにした。

会議室1・2、和室、サロンそれぞれにスティック掃除機を設置し職員はもちろんのこと、利用者の方にもいつでも使用してもらえるようにした。

ガーデン事業で1年を通して、施設の周囲や別館サロンの庭などに四季折々の植物を植え、来館者だけではなく周辺の住民の方にも喜んでいただけた。「このお花の育て方のコツは?」「きれいですね」などのお声をいただき、市民のかたとの会話も増えた。

また、来館者のみではなく、様々な施設の方との繋がりや地域住民の方々とのコミュニケーションにより、皆様の考えや将来のイメージを共有できるように心掛けている。

特にサロンは「自由来館利用」なので、まだまだ可能性を秘めており、これからの時代に新しいサークル活動や新規事業を開始して、利用者を増やしていきたいと思う。

今後も、地域の皆様に親しみをもって楽しんでご利用いただける施設になるように、コミュニケーションを大切にしていきたい。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】吉祥院六斎念仏保存活動支援事業（サロン運営・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 4 月～2025 年 3 月（毎月 2 回～4 回） 等
- 2 開催場所： 吉祥院いきいき市民活動センター 別館サロン 等
- 3 参加人数： 3 名～100 名程度
- 4 協力団体等： 吉祥院六斎保存会・吉祥院小学校 等
- 5 予算： 852,000 円 / 決算： 808,819 円

2 準備段階での工夫

六斎保存会と事務局は頻繁に連携を行いながら、運営委員支援を通して、事業全体の内容と実施時期を吉祥院六斎保存会と確認、今後の計画を立てながら優先順位を決めて取り組んだ。

- 他センターにはない独自の広報の工夫などがあれば記載してください。

地元団体のイベントで子ども六斎の演目を発表する場を設け、吉祥院六斎の Instagram の二次元コードを掲示して PR を行いフォローを促した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

吉祥院六斎保存会に所属している大人が減り、指導者不足や成長と共に離れてしまう子ども六斎の現状を解消することが目標。日々の活動の成果もあり、友達の活動を見て影響を受けて参加する子どもが増えた。

六斎総合学習に参加した子どもたちからのお手紙より抜粋

「私にとって六斎念仏は大切な存在です」

「獅子や土蜘蛛に興味を持ったのは、みなさんが六斎のことを教えてくれたからです」

「やってみたいと思った」「太鼓を打ったのが楽しかったです」

4 今後の抱負

- ① 教材づくりでは、演目毎に動画を編集し、練習に活かせるように増やしていく。
- ② 引き続き定期的な運営委員会を行い、事業の方向性や必要な支援についての情報交換を行っていく。
- ③ 地域子どもたちへ自分たちの住んでいる場所にある伝統を知ってもらうため、吉祥院小学校の総合学習への協力と、工作教室を継続して続けていく。六斎伝えようプロジェクトでは、指導者不足解消の為に地域の中学校に総合学習の提案をしていく。
- ④ 様々な動画を SNS にアップして、後継者や支援者の発掘につなげていきたい。
- ⑤ いきセンや体育館の利用者の方が興味を持ってくれるきっかけとなるように、資料コーナーを充実させていく。

六斎伝えようプロジェクト：洛南中学校教員



六斎念仏練習風景



六斎総合学習：吉祥院小学校



六斎工作教室



六斎鑑賞会：青い空保育園



【事業名】地域課題及び人材育成事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 4 月～2025 年 3 月 随時
- 2 開催場所： 吉祥院小学校 / 吉祥院いきいき市民活動センター 等
- 3 参加人数： 5 名～500 名（事業内容により変わる）
- 4 協力団体等： 吉祥院小学校・洛南中学校・市政協力委員会・吉祥院社会福祉協議会・自主防災会・上鳥羽南部いきいき市民活動センター
- 5 予算： 945,000 円 / 決算： 854,779 円

1 事業内容

① ふれあいジャンボリー実行委員会自立に向けた支援

実行委員会：2024 年 3/28 5/27 7/8 9/9 10/7 2025 年 2/10 全 6 回 19:00～20:30

ジャンボリー実施日：2024 年 10 月 19 日(土) 9:45～14:00

吉祥院ふれあいジャンボリーを自走化させるため、昨年につき、運営体制や運営資金、ジャンボリー実行委員会に今後の支援について理解してもらえよう、ジャンボリー実行委員会の支援を行う。

② 吉祥院トーク：2024 年 5/10 9:00～20:30 9/7 13:30～15:00

2024 年 6/1 8/24 2025 年 3/8 10:30～12:30

キッズぼうさい教室実施日：2024 年 9 月 7 日(土) 13:30～15:00

吉祥院に住んでいる方々の「やりたいこと」を形にしていく事業。今回は、淀川管内河川レンジャー石津知子氏が、水害についてご自身で調査されたことをゲーム・紙芝居・模型を使って、実際に洪水の起る仕組みを地域の子どもたちに伝えた。

③ いきセン講座：南青少年活動センターと共催

南青少年活動センターと共催し、様々なテーマの社会課題を学ぶオンライン事業。

吉祥院いきいき市民活動センター別館サロンでパブリックビューイングを開催。

・「生きづらいこども・若者たち」～発達障害と非行との関係～

2024 年 6 月 10 日(月) 13:00～15:00

・SNS とオンライングルーミング

2024 年 8 月 2 日(金) 13:00～15:00

・LGBT と若者

2024 年 10 月 11 日(金) 13:00～15:00

・人とつながれること、自分らしくいられる場所を選んでいけること

2025 年 2 月 17 日(月) 13:00～15:00

・

2 準備段階での工夫

- ① 実行までに、ジャンボリー実行委員の方々と定期的に実行委員会を設けて、意見を出し合い、各団体が各々の役割を果たせるようにしていった。
2026 年度からのジャンボリーをどうしていくのか、各団体が意識して取り組めるように働きかけた。
- ② 吉祥院トークでは、それぞれのセンターで水害の体験者を捜し、ぼうさい教室の開催日までに SNS 発信・チラシを掲示や回覧し情報発信し、近隣の児童館に声をかけ参加者を募った。
- ③ 南青少年活動センターの方と連携を図り、参加される人数等共有する。

地域の団体さんと連携し、近隣に配布する市民しんぶんチラシを折り込んで広報を行っている。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ① 自走化に向けて実行委員会では、各団体・吉祥院いきセンの役割を確認し、どの団体がどの役割を担うのかなどを話し合い確認した。
残り 1 年間は各団体が主となって、ジャンボリー開催に向け準備等を進めてもらう。
その上で自走化に向けて支援していく。
- ② まちづくりに興味ある人の発掘、地域課題の解決を目的にしており、地元吉祥院の魅力を発掘したいという方が、少しずつではあるが増えてきた。そして、市民の方々がやりたいことを自主的に決めて形にしていくことができるようになってきた。
- ③ 引き続き南青少年活動センターと連携し、市民の方々に社会課題を学んでもらう場を提供していく。

(2) 事業実施による目標の達成度

ジャンボリーの自走化について、前年度までとは違い、実行委員会でも自発的に意見を出したり、子どもたちに喜んでもらえるように続けていきたいという思いが原動力となり、意識向上に繋がった。

実行委員会の中で各団体の得意とするところを共有したことでより明確に、開催に至るまでの各団体の取り組み方が変わった。

吉祥院トークでは、水害をテーマに座談会を重ね、発表の場をもってもらうことで吉祥院地域の方に知ってもらいたいことを形にして達成できた。

4 今後の抱負

ジャンボリーの自走化について、今行っている取り組みを基に各団体が主体となり開催するにあたりサポートしていく。

吉祥院トークについては、積極的な集まりになってきているので、引き続き市民のやりたいことを形にしていく事業として確立させていく。



ジャンボリー実行委員会 会議



ジャンボリー前日準備



ジャンボリー当日



吉祥院トーク



いきセン講座

【事業名】市民活動スタートアップ・活性化支援事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：2024年4月 ～ 2025年3月
- 2 開催場所：吉祥院いきいき市民活動センター本館・別館・吉祥院地域体育館 等
- 3 参加人数： 10名～300名（事業内容により異なる）
- 4 協力団体等：吉祥院消防団 等
- 5 予算： 887,000円 / 決算： 750,713円

1 事業内容

市民活動と地域との繋がりを構築し、市民団体・組織への参加を増やし、市民セクターや個人の活動を活性化する。

① サークル活動立ち上げ支援

- ・音楽サークル 2024年4月～2025年3月（全10回）13：00～14：00
- ・フラダンスサークル 2024年4月～2025年3月（全24回）14：00～16：00
- ・ストレッチ同好会 2024年4月～2025年3月（全20回）13:30～14:30
- ・イラストクラブ 2024年7月20日 14：00～16：00
- ・沖縄空手 2025年2月7日・3月7日（全2回）19:00～20:30

② ふれあいひろば

2024年12月22日(日) 11：00～15：00

交流会 Meets：2024年7月28日 10：30～12：30

2024年9月21日 10：30～12：30

③ いきセン講座

2024年12月22日(日) 11：00～15：00

市民活動をされている淀川管内河川レンジャーの方に「ふれあいひろば」で市民活動やボランティア活動の楽しさについて発表してもらった。

2 準備段階での工夫

全ての事業に共通し円滑に進むように、参加される団体とはSNSや対面、また電話等で密にコミュニケーションを取った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

「ふれあいひろば」では、センターと地域住民との繋がりや、利用者さん同士の交流、また市民活動されている方の活動の場を提供し、市民活動支援に大きく寄与できた。サークル活動立ち上げ支援では、個人で活動していたフラダンス同好会やリトミックは、当初同じ趣味を持った人同士の同好会から始まったが、6年度からは、各自で活動方針等を決めて、当センターの部屋を借りて自立に至った。このような成功例が続くように取り組んでいく。

(2) 事業実施による目標の達成度

全項目の報告と重複するが、市民セクターの活性化や、個人の活動の自立や活性化が出来たことは達成度としては非常に高い。

ふれあいひろばといきセン講座で、アンケートを実施した結果、「満足であった」が過半数を超えた。

(ふれあいひろばアンケートより抜粋)

「和気あいあいとした雰囲気と伝統文化の継承、吉祥院の地域力を感じ大変よい時間でした。」「コロナ前の活気が戻り、ステージの演目がイベント終了までバランスよく組まれていることで、出店ブースにも沢山の方が立ち寄ってくれた。」

4 今後の抱負

市民活動のサポートという点で、今後この事業には特に力を入れていきたい。

次回のふれあいひろばは、今回の良かったところを継続しつつ、更に市民セクター活動を広めていけるように取り組んでいくことと、これまで以上に利用者との交流会を増やしていく。

常日頃から利用者の方々に気軽に相談してもらえる環境と人間関係を大事にし、市民活動の活性化と自立化に向け取り組んでいく。



サークル活動立ち上げ支援

- ・ストレッチ
- ・イラストクラブ
- ・フラダンス同好会
- ・音楽サークル
- ・沖縄空手



ふれあいひろば



いきセン講座

- ・淀川管内河川レンジャー

【事業名】地域交流拠点事業（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 2024 年 4 月 ～ 2025 年 3 月 （通年）
- 2 開催場所： 吉祥院いきいき市民活動センター ・別館サロン
- 3 参加人数： 10 名～35 名
- 4 協力団体等： 吉祥院児童館等
- 5 予算： 1,880,000 円 ／ 決算： 1,847,051 円

1 事業内容

多世代間や子育て世代など様々な目的や趣向で人々が集まる場所を提供する。資格や知識技術を持っている方が活動出来る事業を実施し、市民の方の健康づくりや友達仲間作り、新しい楽しみや学びを見つけていただき、サロンの利用促進に繋げる。

① 子育てサロン

・児童館コラボ事業

スクラップブッキング 2024 年 6 月 27 日(木) 10：00～12：00

ベビーマッサージ 2024 年 5/22(水)10/2(水) 2025 年 2/5(水) 10：00～12：00

親子ヨガ 2024 年 6 月 29 日(木) 10：00～12：00

・親子で楽しむキラキラぬり絵：2024 年 4/14 5/12 6/9 7/14

10：30～12：00 全 4 回 実施

・放課後学習会：月 2 回 17：00～20：00 全 21 回 実施

② 今日は何の日？

・筋力トレーニング：2024 年 4 月～2025 年 3 月 毎月 1 回 13：30～14：30 全 11 回

・ららら♪うたの日：2024 年 4 月～2025 年 3 月 毎月第 2・4 金曜日

13：30～14：30 全 23 回 実施

・いきいき食生活： 2024 年 4 月 26 日(金) 14：30～15：30

・秋のハロウィンリース作り：2024 年 9 月 28 日(日)実施 14：00～16：00

・アートクラフト： 2025 年 1 月 26 日(日) 実施 10：30～12：00

・いきいき作品展

児童館作品展：2024 年 9 月 2 日(月)～9 月 14 日(土)来館者数：約 50 名

合同作品展：2024 年 2 月 12 日(水)～3 月 12 日(水) 来館者数：約 65 名

③ 施設設備

・みんなのサロンプロジェクト：2024 年 4 月～2025 年 3 月 サロン利用者が気持ちよく利用できるようにスティック掃除機を設置し、児童館の寄付による玩具、絵本の補充

・いきいきガーデン：2024 年 4 月～2025 年 3 月（随時）四季折々の花を植栽。

2 準備段階での工夫

- ① 絵本やおもちゃは購入せず、利用者さんや児童館から譲り受けたものを再利用した為、安全面と衛生面を意識して、小さい子が使うアイテムなどは特に注意して管理した。
- ② 開催事業集客のため、SNS と地域の回覧板や市民新聞への折り込み、各施設へのチラシ配架手配、近隣宅へのポスティングなど幅広い告知を行った。
- ③ 花壇は土壌改良をして苗や種から育てた。サロンの庭の手入れも定期的に行い、四季折々の花壇にして、来館者や近隣の方々に楽しんでいただいた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

サロンの事業で集客を行ったことで、その後「自由来館」でサロンを使う方が増えてきた。子育てママの集まりや、趣味の着付け、ダンスの練習等にも利用するなど、若い世代が増えてきたのも嬉しい。

(2) 事業実施による目標の達成度

地域内外から定期的に来られる方が増えている。当初目標にしていた「自由来館でのサロン利用」が増えていることが非常に嬉しい。

(アンケートより抜粋)

「大人も子どもも夢中で楽しめた」「家ではできない体験ができてうれしい」「専門の方に相談できて不安や疑問が軽くなった」「他の方のお話を聞くことで学ぶことができ、自分が気づかなかったことも、こういった場だからこそ共有できた」「こんな場所があるので嬉しい」「いろんな事業があるので楽しみ」

など、概ね好評をいただいた。

4 今後の抱負

地域の内外、多世代間、同じ趣味や立場の方の積極的な交流の場を提供していく。

また、新たな内容や流行しているものなどを事業として実施していく。

市民の方々に楽しんで参加していただけるサロン利用を促進していきたい。



スクラップブッキング



ラララ歌の日



いきいき合同作品展



キラキラぬり絵



児童館作品展



放課後学習会



筋力トレーニング



ハロウィンリース作り



いきいき食生活



いきいきガーデニング

1 利用料金の収入実績

〔 令和 6 年度実績：1,838,800 円（前年度比 116.8%）
内訳 会議室等：1,838,800 円 〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 1 1 月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
52%	48%	0%	0%	0%

(2) センター独自アンケート

いつも親切にしてもらっている。楽しい事業が多い。笑顔で対応してくれる。

3 意見等への主な対応状況

○人気のある事業は引き続き継続していくと同時に、利用者のご意見を参考にして満足度を上げていきたい。

どのようなことでも相談していただけるように、コミュニケーションを大切にする。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

- ・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館については、利用者件数と時間も前年よりさらに増えている。会議室 2 に鏡を設置し好評だったので、会議室 1 にも移動式のスポーツミラーを使っていただけるようにし、各部屋に空気清浄機を置くなどサービス向上に取り組んだ。

前年から引き続き利用者件数と共に利用時間も増えてきている。

サロン活用事業では、事業を通じてサロンを知り、若い世代が友達同士の集まりでサロンを利用するケースや、趣味を通じて集まる場所に繋がってきている。児童館との協働事業により、子育て世代のママさんサークルなどにも広く利用していただけた。

地域住民の人材発掘及び育成事業では、南青少年活動センターのオンラインセミナーを共催したことで内容が充実した。また、事業を通じて様々な方と交流が増えたことで市民セクターの活動の活性化に繋がってきている。

- ・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

会議室の利用は増加していて、和室も少しずつであるが利用の需要がありますが、料理室の利用増がまだまだ課題。料理室の設備（オーブン）を新しくし、蛇口の交換工事も行い、使いやすくなった。今後は SNS 等で情報発信し利用の促進に繋げていく。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

事業に関しては、引き続き、ジャンボリーの自立に向けた支援と、六斎保存会活動支援を地域の取組として各団体と協力しつつ、市民活動スタートアップ支援に一層力を入れ、自立していくまでサポート行い、貸館利用に繋げていく。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

例) 重大な事故やコンプライアンス違反等があった場合は、その概要、改善策等を記載

例) 年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業があった場合は、その事業の名称及び内容、実施できなかった理由、中止した事業の取扱い（翌年度（令和 7 年度）に実施するのか、しないのか。）等を簡潔に記載

→ 特になし

【締め切り】

4 月 21 日(月)までに地域自治推進室へデータ 1 部＋紙 1 部を提出

※ 地域自治推進室の確認後、紙の残部（17 部又は 18 部）を提出

※ 収支決算書は、4 月 12 日(月)までに提出してください。

京都市吉祥院 いきいき市民活動センター
指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 NPO法人ふれあい吉祥院ネットワーク
代表者名 野村 良博

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		18,771,360	18,771,360	0
利用料金収入		1,500,000	1,838,800	338,800
	会議室等	1,500,000	1,838,800	338,800
				0
				0
その他収入	地域体育館負担分管理費収入	2,400,000	2,359,660	▲ 40,340
	吉祥院診療所負担分管理費収入	350,000	262,411	▲ 87,589
	明日香デイサービス負担分管理費収入	640,000	510,967	▲ 129,033
	預金利息	100	2,904	2,804
当期収入合計		23,661,460	23,746,102	84,642
人件費		8,598,600	7,816,427	782,173
	職員7名	8,598,600	7,816,427	782,173
				0
				0
				0
光熱水費		5,190,000	4,940,292	249,708
	電気代（本館）	3,300,000	3,237,867	62,133
	電気代（別館）	1,000,000	819,999	180,001
	ガス代（本館）	80,000	85,507	▲ 5,507
	ガス代（別館）	10,000	9,108	892
	水道代（本館）	500,000	550,688	▲ 50,688
	水道代（別館）	300,000	237,123	62,877
施設管理費		1,245,000	865,888	379,112
	受水槽・高架水槽清掃（別館）	40,000	38,500	1,500
	消防設備点検(本館)	45,000	44,000	1,000
	消防設備点検(別館)	45,000	44,000	1,000
	自家用電気工作物点検（別館）	150,000	146,520	3,480
	防火設備点検（別館）	40,000	38,500	1,500
	特定建築物定期調査	70,000	0	70,000
	樹木剪定（本館・別館）	350,000	319,000	31,000
	機械警備（本館）	55,000	58,080	▲ 3,080
	機械警備(別館)	85,000	87,120	▲ 2,120
	定期清掃(本館・別館)	300,000	49,500	250,500
	一般、産業廃棄物収集(本館・別館)	35,000	40,668	▲ 5,668
	その他施設管理費	30,000	0	30,000
				0
事務費		431,000	610,222	▲ 179,222
	電話代（本館・別館）	155,000	168,403	▲ 13,403
	ネット接続等	240,000	217,690	22,310
	E B サービス	14,000	13,200	800
	NHK	22,000	16,962	5,038
	パーティション1台		33,980	▲ 33,980
	椅子用台車1台		18,260	▲ 18,260
	あぐら座椅子4台		23,996	▲ 23,996
	ワイヤレスマイクセット		49,500	▲ 49,500
	掃除機スタンド4台		6,796	▲ 6,796
	ホットカーペット2台		31,980	▲ 31,980
	FAX		29,455	▲ 29,455
修繕費		750,000	729,410	20,590
	修繕：消防設備 別館	750,000	44,000	706,000
	修繕：換気扇 本館		73,700	▲ 73,700
	料理室蛇口取替え工事 本館		107,800	▲ 107,800
	駐車場入口剪定		177,210	▲ 177,210
	駐車場照明設備工事		161,700	▲ 161,700
	修繕：給水設備 別館		165,000	▲ 165,000

備品購入費（５万円以上の物品）		1,310,742	▲ 1,310,742	
	オープンレンジ１台	60,480	▲ 60,480	
	移動式鏡３台	190,829	▲ 190,829	
	掃除機５台	97,000	▲ 97,000	
	音響セット	290,100	▲ 290,100	
	空気清浄機エアドック４台	609,800	▲ 609,800	
	プリンター	62,533	▲ 62,533	
租税公課	1,706,000	1,686,400	19,600	
その他	法人税	60,000	178,100	▲ 118,100
	地方法人税	3,000	18,300	▲ 15,300
	法人市民税	60,000	60,600	▲ 600
	法人府民税	35,000	21,700	13,300
	法人事業税	15,000	41,500	▲ 26,500
	特別法人税	20,000	15,300	4,700
	消費税	1,500,000	1,350,900	149,100
	印紙税	3,000	0	3,000
	その他税	10,000	0	10,000
		1,176,860	593,427	583,433
	会議費	5,000	0	5,000
	広告宣伝費	10,000	0	10,000
	事務用品消耗品費	30,000	51,584	▲ 21,584
	備品消耗品費	150,000	99,286	50,714
	コピー使用料	140,000	87,568	52,432
	旅費交通費	5,000	0	5,000
福利厚生費	350,000	241,532	108,468	
支払手数料	5,000	3,410	1,590	
新聞図書費	0	0	0	
雑費	5,000	0	5,000	
研究研修費	10,000	0	10,000	
印刷製本費(トナー・ドラム)	50,000	100,687	▲ 50,687	
保険料	10,000	9,360	640	
予備費	406,860	0	406,860	
施設運営業務支出合計	19,097,460	18,552,808	544,652	
市民活動支援・活性化事業費	1,832,000	1,605,492	226,508	
地域課題及び人材育成事業	945,000	854,779	90,221	
①ふれあいジャンボリー 実行委員会自立に向けた支援	398,000	322,779	75,221	
②地域住民の人材発掘及び育成事業	547,000	532,000	15,000	
市民活動スタートアップ・活性化支援事業	887,000	750,713	136,287	
①サークル活動立ち上げ支援	343,000	313,792	29,208	
②ふれあいひろば	353,000	262,921	90,079	
③講座	191,000	174,000	17,000	
サロン運営・活用事業費	2,732,000	2,655,870	76,130	
吉祥院六斎念仏保存活動支援事業	852,000	808,819	43,181	
①指導者の育成事業	278,000	240,000	38,000	
②運営委員会支援	83,000	76,000	7,000	
③後継者育成支援	329,000	329,820	▲ 820	
④情報発信・広報支援	81,000	76,000	5,000	
⑤施設設備	81,000	86,999	▲ 5,999	
地域交流拠点事業	1,880,000	1,847,051	32,949	
①子育て世代支援	548,000	535,307	12,693	
②多世代地域間交流	578,000	560,995	17,005	
②施設設備	754,000	750,749	3,251	
その他	事業実施業務繰越	0	0	
事業実施業務支出合計	4,564,000	4,261,362	302,638	
当期支出合計	23,661,460	22,814,170	847,290	
当期収支差額	0	931,932	931,932	

令和6年度 事業報告書
上鳥羽北部いきいき市民活動センター

【指定管理者：一般社団法人 上鳥羽絆会】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 6 名（非常勤 7 名）

【人材育成の取組】

- ・職員定例全体会議：全員出席 1 回／月（毎月第 1 火曜日 午前 9 時～）

当法人絆会会長も出席して、その月の事業予定の確認、意見交換などを行います。
月替わりで議長役を交代して会議進行の技術を身に付けられるようにしています。

- ・事業会議：随時 各事業の担当者が必要と判断した時にメンバーを集めて進捗状況の確認や意見交換を行います。議事録を職員内で回覧して、センター長が確認します。

- ・職員研修

「絆会合同研修会」 1 月：いきいきセンターと中唐戸児童館の両職員が全員出席して互いの施設の事業内容の確認や更なる進歩についての研修を行いました。

「上鳥羽地区基幹ステーション研修会」 2 月：希望者のみ参加。より良い人間関係を築くための研修。

「救命講習会」 10 月：センター長、副センター長が参加。AED の使用方法などを学びました。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4 6	6 7	6 0	6 4	5 3	5 4	5 2	4 5	5 1	5 0	5 5	5 7

(年間)

6 5 4 件（前年度比 1 2 3 %）

イ 利用状況

前年度と比較すると月毎に安定して増えました。

その理由として、コロナ禍を経て、以前からの継続利用団体の復活と定着がみられました。また、継続団体が利用時間や回数を増やされることもありました。

新規の利用者としては、子育て世代グループの活動の不定期利用や地元団体の定期的な利用、また、吉祥院いきセンの事業でつながった団体が定期利用を開始された、ということ等が挙げられます。

課題としては、継続利用を考えておられる方の希望の曜日や時間が既に継続利用されている団体と重なるケースが数回あったことです。貸館は水曜日～金曜日の午前中か午後一番を希望される場合が多い傾向です。比較的予約が取りやすい日時をご案内するようにしますが、新規の予約につながらないこともあり、もったいなく感じました。逆に土日祝日は空きが目立ち、特に日曜日は利用者が少ないです。そこを何か PR して利用の促進につなげていければと考えます。

ウ 利用促進に向けた取組

6月に第2会議室に大型鏡を設置しました。それを広報誌や SNS で情報発信しました。ダンス系の団体や個人はもちろん、コーラスサークルが歌っている時の表情や姿勢のチェックに使われたりと、喜ばれています。また、通信カラオケ装置は毎月レンタル費用がかかるのでとり止めることが度々会議であがるのですが、当センターの利用促進のポイントとして設置を続けてきました。6年度から地域の末広会がカラオケサークルを立ち上げられたり、センターのいきいき上鳥羽プロジェクト事業での活用がはじまったりと、利用頻度があがりました。また、そこに参加された方が個人的に利用しに来られることにもつながっている実績もみられます。音漏れなど近隣のご迷惑とならないように充分留意しながら、今後も利用促進のツールとして PR していきます。

エ その他

サロンについて、平常時の自由使用は少なく、事業実施日には一定の参加者があります。サロンを多世代の交流の場とするために、視点を変えた内容の事業を組み入れました。それでも、同じ個人が複数の事業に何度も来てくださるということもあるので、今後も広報に力を入れる、ニーズを探って更に視点を変えた事業を考えるなど新たな参加者の呼び込みを考えていきたいです。

(3) 情報発信など

ア 取組実績

情報発信については、センター独自のものとして、今年度も年間3回「いきセンニュースレターつなぐ」を発行しました。学区全戸に配付しており、手元に残せる情報源として地域の方々に親しまれています。昨年頂いた助言も活かして、貸館利用の促進となるようなセンターの情報はもちろん、地域の緒団体の取組なども掲載することで、読者が地域への理解と愛着を深めるきっかけとなっているのではないかと思います。

事業の広報は SNS や紙媒体のチラシで行いました。SNS 上で事業の申し込みをされる方も一定数おられます。それでもやはり内容の説明やその場で申し込みが受けられる、「チラシの手渡しによる発信」も当センターでは大切にしています。

イ 取組の効果

「いきセンニュースレターつなぐ」に上鳥羽小学校内の“郷土資料館”の記事を写真とともに掲載しました。それを見た地域の方が「うちにはこんな民具がある」と連絡をくださったたり、「第2回上鳥羽伝承座談会」の出席と語り部を申し出て下さる方が現れたりしました。

(4) 管理運営

- ・センター長を防火管理者に選定
- ・同法人の中唐戸児童館の避難訓練（火災）に参加
- ・「救命講習会」に参加
- ・日常の点検として各部屋、建物外周などを勤務職員が清掃時などに点検：毎日2回
- ・建物安全点検チェックシートにて点検→自治推進室に報告：毎月1回
- ・壁、雨水排水、屋上(太陽光パネル)を点検：年2回

- ・建物総合点検：年1回
- ・消防点検：年2回
- ・館内清掃：年2回
- ・樹木剪定：年1回
- ・施錠後保安警備：毎日

外部業者に委託

等を実施

(5) その他

「施設運営の質を高めるための取組」「将来に向かって地域と共に進化するための取組」

○ 世代間交流や地域間交流に着目

・新型コロナウイルス感染症の影響で休止が続いていた学区のイベント「上鳥羽夏の夜市」が5年ぶりに自治連合会と地域の各種団体の主催で実施されました。センターは事業実施のノウハウを自治連合会と共有し、学区全体の交流事業となるように運営の補助役として地域の方々と協働しました。センターの出展ブースとして、ボランティアさんと共にまつりごみの分別回収コーナー、エコ学区サポートセンターの協力のもとエコ体験ブースを担当したことで、世代間、地域間の交流に貢献する取組ができたのでは、と感じています。

・「上鳥羽エコまちくらぶ」の活動や夏のシェアエアコン事業では、子どもたちが学校の先生や家族以外の大人と関わる経験をする機会となりました。歴史継承事業は学区の歴史を探ることを軸に、世代を超えての交流がうまれました。

○ 地域課題や社会課題への取組

・自治連合会によると、町内活動に入らない家庭が増えてきていることが地域課題になってきている、ということがあるそうです。その理由は様々のようですが、そこでのセンターの役割としては、“地域(町内)活動の様子を発信し続ける”ことではないかと考えました。そこで、センター発行の「ニュースレター」に自治連合会活動の記事を毎号載せて、活動への理解と関心を持ってもらう取組をしています。

このように昨年に引き続き、「なくてはならないいきいき市民活動センター」として地域に寄り添いながら並走するいちばん身近な公共施設を目指して取り組みました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】エコ活動事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 4月 ～ 令和7年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター、中唐戸児童館、学区内公園
立誠学区と川岡学区の地域イベント会場 梅小路公園 東寺 吉祥院いきセン
- 3 参加人数： 396名（団体）
- 4 協力団体等： 認定NPO法人きょうとグリーンファンド、エコ学区サポートセンター、中唐戸児童館、
南エコまちステーション、上鳥羽自治連合会、吉祥院いきセン
- 5 予算： 1,090,000円 / 決算： 1,247,175円

1 事業内容

- 関係団体や地域の有志がメンバーとなり設立した任意団体「上鳥羽エコまちくらぶ」と連携して様々な環境活動を全世代に向け年間を通して展開し、2030年環境問題やSDGsについて関心が深まるような実践や活動参加招致、啓発を行いました。
- ・エコ体験(8月)：環境について学ぶ体験型のイベントを実施。京都市エコイベント登録有。
- ・自然観察会(6月)：東寺と梅小路公園にて講師の指導のもと植物や昆虫などの生態に触れて自然の尊さを知る、小学生やその親子対象の事業。京都市エコイベント登録有。
- ・おでかけエコマルシェ(6,8,10,12,2月)：学区内5か所公園にて資源物6品目を回収。持参者に「エコなお話」としてエコグッズの展示や紹介。京都市エコイベント登録有。
- ・ロケットストーブの製作と展示(通年)：学区内希望者と学区外自治会に製作指導実施。また、中唐戸児童館や吉祥院いきセンのイベント内で展示とデモンストレーションを実施。
- ・中唐戸児童館との取組(通年)：児童館との連携を一層深め学童世代からのエコの担い手づくりを進めました。エコメイトと共に児童館エコアクションの協働、打合せなど年間を通して実施しました。

2 準備段階での工夫

- 令和5年度に発足した「上鳥羽エコまちくらぶ」が実質的に活動を開始しました。特に“自然観察会”は参加児童50名ほどの初めての学区外活動ということもあり、準備段階から児童館職員とともに「子どもたちを楽しく安全に引率する」ための会議をもちました。その結果、学区の交通対策協議会にも誘導等の協力を得ることができました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 「上鳥羽エコまちクラブ」との連携を軸に“地球温暖化防止”に向けた活動を全世代目線で展開し、活動の担い手育成や自走化を目指すことが目標。

(2) 事業実施による目標の達成度

- 全ての事業において、一人でも「上鳥羽エコまちくらぶ」メンバー(エコメイト)が関わることができ、協力体制がとれたことに達成感があります。また、エコ学区サポートセンターとの連携も活発にとることで、JICAの事業※にも参加できたことは、更なる励みとなりました。また、3事業を京都市認定エコイベントに申請登録して事業のエコ化にも積極的に取り組みました。

※JICA事業：JICA 草の根技術協力事業でマレーシア、インドネシア、タイ、ベトナムの自治体からの参加者が小学校や地域コミュニティを訪問し活動視察を行う事業。

研修訪問先のひとつとして当センターに依頼があり、日頃の環境活動について発表しました。研修後、マレーシアにおいても地域を巻き込んだ取組を展開すべく、センターの事例が活用されています、との報告を受けています。

4 今後の抱負

- 環境問題については、同じことを何度も繰り返し伝えることが重要ではありますが、やはりマンネリ化してしまうことは否めません。新しい手法や観点などの情報を常に意識することが必要です。活動スタッフ内での勉強会や外部研修への積極的な参加や新しい関係団体との出会いなどにも努めていきたいです。



【自然観察会】

東寺・梅小路公園にて



【エコ体験】

リサイクル工作

ワークショップ

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】コミュニティガーデン「ohana」支援事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 4月 ～ 令和7年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室 コミュニティガーデン「ohana」
- 3 参加人数： 延べ273名（団体）
- 4 協力団体等： いきいき上鳥羽プロジェクト、あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会、上鳥羽向上委員会
- 5 予算： 325,000円 ／ 決算： 334,548円

1 事業内容

- 地域の声から生まれたコミュニティガーデン「ohana」を拠点として、子どもから高齢者まで多世代の交流をすすめ、地域の活性化、緑化、防犯、自然環境保全に努める任意団体「ohana会」の活動を年間を通して支援しました。
- ・花の町づくり事業(通年)：地域団体(あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会・上鳥羽向上委員会)と協力体制をとり、河川遊歩道へのプランター設置をすすめました。
- ・ローズガーデンウィーク開催(5月)：バラの開花に合わせて他団体と協力しながら2週間にわたりイベントを実施。広報や連携などをサポートしました。
- ・ガーデン勉強会(6月)：専門店から講師を迎え、「バラと仲良く」をテーマに講演会を実施。広報や当日の環境設定などをサポートしました。
- ・助成金申請情報、書類作成サポート(通年)：センターに送られてくる配架物やメールなどの情報を会員と共有、内容確認など実施。結果、今年度は該当要項ありませんでした。

2 準備段階での工夫

- 「花の町づくり事業」を中心に事業には地域の協力は欠かせないので、会員は普段から積極的に地域の清掃活動などの行事に参加して、そこで活動のPRをするなど地道に動いています。
- ローズガーデンウィークが近くなると、バラの状態を頻繁にSNSに挙げるなどしてPRしました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 会員と共に活動の拠点となるコミュニティガーデン「ohana」から多角的な取組を発信して、地元だけでなく地域全体が社会活動の良さを実感し、その賛同者や軸となり活動する人材を増やすことが目標。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ガーデンの植物は主にバラ科のもので、年間を通しての手入れが必須です。それには知識も必要です。それを担ってくださる方、またそれ以外の活動の協力者が増えて、お任せできることが多くなってきたことは事業の自走化へむけて心強いです。

4 今後の抱負

- 経費節減を考えて花を種から育てる事を試みましたが、発芽から育苗までの管理がうまく出来ず、夏季の高温もあり成功しませんでした。簡単に考えていたことが成功しなかったという経験の共有と、次はどうしようか？という「トライアンドエラー」が

今後の活動の励みと強みになると考えます。

今のところ、令和7年度が支援の最終年度と考えているので、残りの一年を充実させるために沢山の声と力を集めてすすめていきます。



【花の町づくり事業】

河川敷遊歩道に

プランター設置



【ガーデン勉強会】テーマ：バラと仲良く

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】いきいき上鳥羽プロジェクト（市民活動支援・活性化事業、サロン運営）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 4月 ～ 令和7年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室 学区内公園3か所 上鳥羽小学校
- 3 参加人数： 2336名（団体）
- 4 協力団体等：上鳥羽ネットワーク ohana 会 上鳥羽小学校 上鳥羽自治連合会 南エコまちステーション
- 5 予算： 1,240,000円 / 決算： 1,388,406円

1 事業内容

- 地域の声から立ち上がった団体「いきいき上鳥羽プロジェクト」のサポートと協働を通して地域課題の解決、個人や団体同士の出会いの場づくりの支援などを行いました。
- ・ふらっとスペース（5月、12月）：上鳥羽ネットワークを軸に個人や団体が参加するマルシェ形式のイベントの実施を支援。12月は恒例となっているミニしめ縄作りを実施。
- ・いきいき健康づくり事業(通年)：学区内3公園で週1回ラジオ体操を実施。
- ・ニュースレター「つなぐ」発行（8月、12月、3月）：取材と編集をして発行。学区全戸に配付。
- ・上鳥羽の歴史を語る(通年)：地域の高齢者が伝承者として活躍。上鳥羽小学校と連携して付属施設（郷土資料館）の充実に協力。
- ・みまもりプランターづくり：地域団体との連携事業。今年は準備作業のみ。
- ・地域コミュニティ回収(通年)：家庭内ごみの分別の啓発と月1回の回収事業を南エコまちステーションの協力で実施。

2 準備段階での工夫

- ラジオ体操事業は各公園の活動ボランティアさんに運営を任せています。半年に一度合同ボランティア会議を持ち、情報交換等行っています。歴史を語る事業は、小学校が多くの文献を含む資料を保管されているので、互いに協力体制を取りました。
- ニュースレター「つなぐ」の編集作業を若い世代に少しずつ任せるとしています。記事の取材はミドル世代のメンバー、最終チェックはセンター職員、というふうに役割分担して作り上げることを目標にすすめました。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- 地域の課題、声やニーズを知って事業を計画実施するなかで、市民の自主的な活動と同じ目線で支えながら一部ずつでも自立したものとなるようにすすめることが目標。地域の歴史・文化・伝統を次世代につなげる事業のなかで多世代間交流や地元を更に大切に思える心の基盤をつくります。

（2）事業実施による目標の達成度

- プロジェクトメンバーは現役就労世代がほとんどで、活動時間に制限があるなかでも役割を分担して活動を継続されてます。メンバー内での「この活動を持続していきたい」という思いの深まりを感じる場面が増えてきたことを実感します。また、各事業への参加者や協力団体が増えてきていることやそれをきっかけにセンターの他事業へ参加されたり、貸館につながったり、という嬉しい循環があることには達成度は高いです。

4 今後の抱負

○ 近年、近隣の事業所や公園でマルシェなどの市民参加型の事業が多く開かれています。そこにできるだけ足を運んで新たなつながりを作ったり、運営の参考になるアイデアを得たいです。また、歴史継承事業は全世代をつなぐ事業になると思うので、事業をすすめる担い手を見つけていくことに力をいれていきます。いずれも事業の柱は参加してくれる市民という考えのもと、次年度もすすめていきます。



【ミニしめ縄作り】



【上鳥羽伝承座談会②】



【健康づくり事業】

「いきいきフレッシュ」

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】おひさまカフェ（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 4月 ～ 令和7年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室
- 3 参加人数： 延べ 246名（団体）
- 4 協力団体等： 京都シニア大学朗読愛好会 らくらくピアノグループ等センター利用団体
- 5 予算： 555,000円 / 決算： 499,285円

1 事業内容

- 月に一度、決まった時間に誰もが気軽に足を運んで催しや交流を楽しめる場所づくり
年齢や性別を問わず、互いを尊重しあえる場所であることを基本に毎月の事業を展開。
同時に活動の企画運営の担い手を探すことも行いました。
- ・利用者交流会(毎月1回)：センター利用者や事業参加者からのニーズや市民活動をされている方の申し出を活かすなどして、月毎のテーマを実施。
- ・大人のヨルカイ（毎月1回）：昨年試験的に実施した事業で、参加者からの要望により今年度も継続。

2 準備段階での工夫

- 2月に実施した「流木 DE ワークショップ」は他事業でつながりを持てた、淀川管内河川レンジャーの活動をされている方が講師を申し出て下さり実現しました。吉祥院いきセンでも同ワークショップを開催されるとのことで見学に行きました。また、センター窓口に作品見本を展示することで参加希望者が予想を超えて多数となり、講師本人も驚かされていました。当日は河川保護の話もされて、皆が満足度の高い事業となりました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 参加者同士の交流のなかで、自ら楽しみを見つけ共有しあうことで自身だけでなく、地域の活性化にもつながっていくことが期待する効果。同時に事業内で「何かやってみたい」の思いを持つ人を支援すること、また、協力者を増やすことが目標。

(2) 事業実施による目標の達成度

- 以前にも行っていた“うたごえカフェ”を再開してほしい、という参加者の声とそれの講師をされている方の思いが重なり、年間3回そのテーマが実施できました。主にシニア世代の参加で、「発声することと交流することが活力につながっています」との感想が多くいただくので、目標のひとつは達成できていると感じます。
- 昨年の“クリスマス会”に出演された複数の団体がまた発表の機会を作ってほしいと申し出られたので、今年も“クリスマス会”を実施しました。昨年と同様に参加団体とボランティアスタッフが中心となり当日の運営をお任せしました。貸館利用や事業参加で普段から頻繁に来館されている方たちも多く、当日までの準備や情報の共有も自主的にすすめてもらえることが多かったことも良かった点です。また、夜間事業の「大人のヨルカイ」は参加者のなかの有志が4月からはサークル活動として、貸館を取って活動されることとなりました。

4 今後の抱負

○ 「おひさまカフェ」が出会いと交流の場であることが広く認知されることが、参加者同士の積極的な交流が自立した活動につながることへの支援を続けます。また、SNS での広報も継続して、広い範囲からの参加者を募ります。コロナ禍以降実施してきたオンライン配信は事業の内容により判断して必要であれば取り入れていきます。



【流木 DE ワークショップ】



【母の日のプレゼント】

「牛乳パックアレンジ
ワークショップ」

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】なごみスペース～ようこそ～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和6年 4月 ～ 令和7年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数： 延べ 379名
- 4 協力団体等： いきいき絵本クラブ 中唐戸児童館
- 5 予算： 540,000円 / 決算： 498,157円

1 事業内容

- “個と社会をつなぐ拠点”としてお互いを尊重しあい、多様な年齢層の市民が交流できる“なごみのスペースづくり”に参加者とともに行いました。

「毎週水曜日は集いの日」として、観点が違う事業を展開しました。

- ・いきいき Wednesday～ようこそ～（通年）：第2.4週目は講師を招き軽いストレッチ体操の講座を開催。第1週目は「ことしよの活用と本を通した交流」をテーマに活動スタッフがミーティング。第3週目は「やってみたい」の声を反映した事業を実施。
- ・シェアエアコン(8月)：サロン開館時は誰もが涼めるスポットとして開放。中唐戸児童館の大学生ボランティアの協力で小中学生対象の学習会等も実施。
- ・講師を招き講習会、講演会(3月)：事業参加者の声を反映し「伝わる話し方講座」として開催。30才代～80才代の方が参加されました。

2 準備段階での工夫

- 講演会の講師はボランティアスタッフの知人をお願いしました。講師との連絡の橋渡し役やチラシ作成、当日の設営や講師対応などそのスタッフが中心に行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- 誰もが気軽に立ち寄れ、サロンが多世代間交流の拠点となる場所とすることが目標

(2) 事業実施による目標の達成度

- 毎週第3週目(水)の事業は地域の方が申し出てくださり、「折り紙の会」を年間を通して実施しました。参加者がその友達に声をかけて、またその友達に…というふうに仲間が増えました。12月には近くの銀行のロビー展に作品を展示する機会もあり、参加者から「やりがいや楽しみも大きくなっています」との声を聞くと達成感を感じます。

アンケート結果：2月講演会「伝わる話し方講座」

- ・先生の話し方が素敵で朗読もしてもらえて感動しました。
- ・コロナ以降、人との会話が少なくなっていて声が出しにくくなってきたけれど、また音読や会話を沢山したくなりました。

等の感想がありました。

今後どのような事業を希望されますか？の質問には

- ・子どもたちと地域の人に関われるようなイベント
- ・以前はお茶や浴衣着付けの講座があった。今後もしあればやってみたい。

等の意見がありました。

4 今後の抱負

○ 今年は活動スタッフの事業への積極的な関りを目指して事業をすすめてきました。日頃のミーティング等でしっかりと話を聞くことや持ちあがった企画をどうすれば実現できるのか？などを丁寧に対応することに努めました。新しい事業も増えて、サロンにやってくる人たちの人数や年齢層も広がってきたと思うので、今後も職員・活動スタッフ・参加者がサロンを拠点として“自分たちがやってみたいこと”をどんどん発信して、より魅力的な事業にしていきたいです。



【シェアエアコン】

「学習会」

「みんなで折り紙」



【ことしよの活用と本を通じた交流】 児童館がやってきた に出演

3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績 : 466,100円 (前年度比433,600円)

{	内訳 会議室等 : 466,100円	}
	0円 ※自主事業分を除く	
	スモールオフィス 0円	

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和6年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
57.5%	42.2%	0.2%	0%	0.1%

(2) センター独自アンケート

- ・クリスマス笑ショー(おひさまカフェ) : 概ね満足
- ・流木DEワークショップ(おひさまカフェ) : 概ね満足
- ・自然観察会(エコ活動) : 概ね満足
- ・伝わる話し方講座(サロン事業) : 概ね満足

3 意見等への主な対応状況

○ アンケートではほぼ毎回「場所がわかりにくい」の意見をいただきます。昨年度からホームページや案内リーフレットに付けた二次元コードを読み込むことで最寄りの駅からのルートが詳しく分かるようにしたので、それをしっかりとお伝えしています。外観の分かりにくさ(気がつきにくい)については、外壁の工事などを含めて法人との協議が必要になると思います。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

取り組んだ事業等の総括

貸館事業については、昨年より20%ほど増加しました。以前、月間4回利用されていた団体が利用を再開されたり、活性化事業から立ち上がって貸館利用をされるようになったサークルが複数あったりということが重なった結果だと思います。また、昼間に近隣を通る市バスの系統がひとつ増えて交通の足が増えたことも要因かもしれません。

昨年度の評価報告において“センターが日々丁寧かつ柔軟な姿勢で接している様子がうかがえる”という意見をいただいたことと、利用者の方から「気持ちよく利用してます」と声かけしていただくことが増えたことが私たちの励みになりました。これからも「信頼されるセンター」を目指して、次年度は件数700件を目標に取り組んでいきます。

市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業については、助言いただいたことを念頭に、すべての事業を通して、引き続き参加者の中から運営側に回れる担い手の発掘と育成に注力しました。そのよい例としてサロン運営事業を挙げます。事業は令和4年から私たち職員も何をすればよいか分からない状態でスタートしたのですが、今では活動スタッフも固定化して、活発な意見交換もできるようになりました。昨年、活動スタッフも所属するサークル「いきいき絵本クラブ」が南区役所保健福祉センター子どもはぐくみ室主催《児童館がやってきた》というイベントに依頼されて出演する機会がありました。そこでのお母さんとの会話から「短時間でもお茶を飲みならほっこりできる場所があれば…」の声を活かして「淹れたてのコーヒーを飲みながら交流できる事業を試みては？」とのアイデアができました。それを尊重し、どうすれば実現できるか？など時間をかけて話し合い、次年度からのサロン新事業として、活動スタッフが中心となりスタートすることになりました。他事業でも自立化に向けたよい傾向がみられるようになってきています。

今後解決すべき課題

・体制面では“人員の補強”という点です。開所当時から継続して勤務している職員も数名おり、近隣の方との信頼関係も築けているのはよいことですが、今までのことに囚われずに市民活動支援を共にすすめていけるような人材がこれからのセンターに加われば一層前進できるはずと考えます。それには“職場としても魅力的なセンター”である必要があります。法人とも協議しながら解決方法を探りたいです。

次年度に向けた対応

・従前からの強みである「エコ活動事業」をより範囲を広げて展開する計画をたてており、活動のひとつである「ロケットストーブの有用性を広げることと制作」を他のいきセンの事業内で発信させていただけることを年度の終わりに岡崎いきセンさんと醍醐いきセンさんとで承諾いただきました。次年度は準備段階からしっかりと話し合いにも参加して、本来の目的の他にも事業展開の手法なども学びたいです。

・個人情報保護やコンプライアンスなど、細心の注意を払い今後も事業をすすめていきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 特記すべき管理運営に関する重要又は異例な事項はありませんでした。

京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター
指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 一般社団法人上鳥羽絆
代表者名 代表理事 前川 勝六

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		14,024,460	14,024,460	0
利用料金収入		810,000	466,100	▲ 343,900
	会議室等	800,000	466,100	▲ 333,900
	その他の収入	10,000	0	▲ 10,000
その他収入	受取利息		7,143	7,143
				0
				0
当期収入合計		14,834,460	14,497,703	▲ 336,757
人件費		7,900,000	6,694,703	1,205,297
	非常勤職員7名	7,900,000	6,694,703	1,205,297
				0
光熱水費		500,000	494,162	5,838
	電気代	380,000	389,953	▲ 9,953
	ガス代	60,000	51,145	8,855
	水道代	60,000	53,064	6,936
施設管理費		827,280	811,096	16,184
	樹木剪定	80,000	92,400	▲ 12,400
	定期清掃等	135,000	114,400	20,600
	消防保守点検	30,000	24,200	5,800
	建築設備点検	55,000	55,000	0
	警備費	110,880	101,640	9,240
	カラオケリース料	224,400	224,400	0
	事業所ゴミ回収	60,000	54,780	5,220
	HP更新・施設案内他	132,000	144,276	▲ 12,276
				0
事務費		1,298,980	1,243,191	55,789
	電話代	190,000	188,577	1,423
	税理士顧問料	130,000	112,200	17,800
	事務費他	840,000	859,919	▲ 19,919
	社内教育費	50,000	0	50,000
	その他事業・雑費	88,980	82,495	6,485
				0
修繕費		550,000	364,000	186,000
	設備（ガラス鏡）	250,000	364,000	▲ 114,000
	修繕費	300,000		300,000
				0

備品購入費（５万円以上の物品）			0
		0	0
租税公課			0
			0
その他	8,200	8,200	0
賠償責任保険料	5,000	5,000	0
諸会費	3,200	3,200	0
施設運營業務支出合計	11,084,460	9,615,352	1,469,108
市民活動支援・活性化事業費	3,210,000	3,469,414	▲ 259,414
エコ活動	1,090,000	1,247,175	▲ 157,175
いきいき上鳥羽プロジェクト	1,240,000	1,388,406	▲ 148,406
おひさまカフェ	555,000	499,285	55,715
コミュニティガーデンohana支援	325,000	334,548	▲ 9,548
			0
サロン運営・活用事業費	540,000	498,157	41,843
なごみスペース～ようこそ～	540,000	498,157	41,843
			0
			0
その他	事業実施業務繰越		0
事業実施業務支出合計	3,750,000	3,967,571	▲ 217,571
当期支出合計	14,834,460	13,582,923	1,251,537
当期収支差額	0	914,780	914,780

令和6年度 事業報告書
上鳥羽南部いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社丸起】

目次

1. 管理運営の状況	1
1 施設運営業務	1
(1) 職員体制	1
(2) 貸館等	1
(3) 情報発信等	2
(4) 管理運営	3
(5) その他	3
2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業	4
1. 市民活動支援・活性化事業	4
1. 上鳥羽六斎念仏 発表会 (6/30)	4
2. 上鳥羽六斎念仏 勉強会 (9/29,11/17)	6
3. 歌声サロン (第1,3 金曜日)	9
4. 健康体操 (第1,4 木曜日)	11
5. 卓球交流会 (9/28)	13
6. 鯉のぼりによるまちづくり (10/26, R7/3/1)	15
7. 水害学習 (5/10, 9/7)	18
2. サロン運営・活用事業	20
1. マージャン交流 (第1,3 月曜日, 第3 木曜日)	20
2. 造形教室 (第4 日曜日)	22
3. フラワー教室 (第2 土曜日)	24
4. スマホ・パソコン交流 (第1,4 木曜日)	26
3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算	28
4. 施設の利用者満足度の把握	28
5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価	31
6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項	32

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 3 名（常勤 3 名、非常勤 0 名）

【人材育成の取組】

貸館業務や SNS への投稿などを全職員が同じレベルで行えるよう、実務をとおしてスキルアップに努めている。また、月 1 回に会議を開き本社職員を交えて意見交換やスタッフの力量アップに努めている。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
66	72	74	77	73	73	79	73	59	74	72	92

(年間) 884 件（前年度比 121%）

（参考：令和 5 年度 726 件 令和 4 年度 642 件、令和 3 年度 552 件）

イ 利用状況

○年間での利用状況について

利用件数の内訳は、第一会議室約 75%、第二会議室約 10%、第三会議室約 15%。利用時間は、第一会議室 71%、第二会議室第 10%、第三会議室 19%であった。

第一会議室の利用の 80%は卓球が占めており、平日と土曜日の午前・午後でシルバー世代が利用されており、日曜日は家族での利用が増えている。日・祝日の利用が増え、卓球での利用の他に楽器練習や武術での利用が増えている。逆に夜間の利用は減少しており、ダンスや定期利用の楽器練習が減ったためである。

第二会議室は、前年度とほぼ変わりはない。ヨガやアームレスリング、楽器練習で利用されている。

第三会議室は利用が増え、前年度の倍になっている。楽器練習や、事業とは別のマーチャンでの利用が平日と土日祝で増えたためである。

事業者利用は、警備業の新任研修での利用があった。

○課題や改善が見られた部分

- ・利用されるのは第一会議室に偏っており、第二、第三会議室の利用が少ない。また、全体的に夜間の利用が少ない。
- ・日曜日の利用が増えてきている。
- ・緊急で日曜日に 40 人以上で会議ができる場所を探している、と問い合わせがあり利用申請をされたところがあった。しかし利用日の直前になって、より交通の便がよいところが見つかった、ということで利用されなかったことがあった。アクセスが困難なことが影響したと思われる。

ウ 利用促進に向けた取組

○センターで取り組まれたこと

利用者が過ごしやすい環境づくりに力を入れている。来館時や退館時の声かけやちょっとした相談事への対応などで、職員に親しみやすさをいただけてもらえるようにした。

昨年度からの取り組みで、来館者向けに1ヵ月間の会議室の空き状況の一覧を作成掲示しており、これをFacebookなどに投稿するようにした。また、わかりやすいので、利用申請の際の資料としても活用している。

センターまで行き方がわからないという問合せが以前から寄せられていることがあり、主要な鉄道の駅からの経路（Google マップ）を、HPのアクセスのページに追加した。また、センター内にも、主なバスや駅までの地図や時刻表を掲示するようにした。

センターの周りには、センターを囲むようにめぐらされている外柵がある。そこに事業のチラシや施設の案内などを掲示した。給水スポットの掲示を行ったところ、夏のある日に自転車がパンクして押し歩いていた方がそれを見て来館されたことがあった。狭い範囲での広報になるが、より充実させていきたい。

エ その他

○サロンについて

令和元年度～6年度の利用状況

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
件数	119	19	47	219	330	313
人数	1010	127	247	994	1739	1678

令和5年度に比べて、件数と人数が減少した。令和4年度に事業として活動されていたサークルは活動を継続されているも、一部のサークルや、5年度に引き続いて行っているサロン運営・活用事業の一部で参加人数が減ったことが影響している。

年度途中から、事業とは別のマージャンサークルの方が利用されるようになり、利用を増やすために作成しているサロンの利用状況一覧を活用して、空き時間を楽しまれている。

その他、会議やちょっとした作業（洋裁）での利用があった。散歩途中に立ち寄って休憩をする、といった利用はなかった。

（3）情報発信等

ア 取組実績

○SNSをはじめとする広報媒体により、情報発信に積極的に取り組んだ事例について

センターのHPに、実施事業の実施風景の写真などを一覧表示で掲載し、わかりやすいようにした。

Facebookには年間172件投稿した。事業の実施予告や実施風景を写真や動画で投稿し、どのような人が参加し、どのようなことをしているのかをわかるようにして親しみを感じるようにし、初めてセンターを利用しに来る方が来館しやすくなるような紙面を心掛けた。

ジモティには、継続してセンターの情報を掲載した。楽器練習での利用を促進するため、掲載ページを増やした。音楽での新たな利用者は現れていないものの、Google の検索ではヒットするので、掲載を継続していこうと考えている。

事業の参加者募集では、チラシを地域回覧板で回覧し、各いきセンへの配架依頼をするほか、一部の事業については参加予定者に SNS へ投稿していただけるよう協力を仰いだ。

- センターの認知度向上だけでなく、市民活動に関わる様々な情報を工夫して周知された取組
センターに持ち込まれたチラシは、了解を得て Facebook へ投稿した。また、上鳥羽地域のことであれば実際に赴いて取材し、写真や動画をアップした（上鳥羽六斎念仏や、地域の寺院のイベントなど）。

イ 取組の効果

- アの取組により効果が見られた事例

初めて来館される利用者には、どのようにしてセンターのことを知ったのかヒアリングを行っている。多くは知り合いに教えてもらったということで、情報発信による効果は実感できていない。また、団体の立ち上げや、事業の実施などにつながることはなかった。

（４）管理運営

- 防火管理者の選定、建築物の保守管理、建築設備の保守管理、備品等の保守管理、清掃業務、保安警備業務、植栽等保全業務の実績について

- ・センター本館 1，2 階の窓ガラスを中心とした清掃業務、建築設備と消防設備の定期点検等を実施。備品は、老朽化した備品の卓球台を 1 台廃棄した。

（５）その他

- 「施設運営の質を高めるための取組」や「将来に向かって地域と共に進化するための取組」で実施したもの

- ・「施設運営の質を高めるための取組」として、月 1 回センター職員と指定管理者による会議（センター会議）を実施している。定期開催することで課題を共有することができ、管理運営で行った点検や保守などを計画的に行った。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

1. 市民活動支援・活性化事業

【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組① 発表会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和6年6月30日（土）13時～15時30分
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 29名
- 4 協力団体等：上鳥羽橋上鉦講中
- 5 予算： 54,000円 / 決算： 54,000円

1 事業内容

上鳥羽地区に伝わる上鳥羽六斎念仏の継承と発展を目指し、六斎念仏の担い手の育成と地域の人材の発掘を進めるため、センターと上鳥羽橋上鉦講中が共催で行った。

第1部 「民俗芸能と地域社会 ～創造的発展をめざす子ども六斎教室事業からの関わり～」

講師：藤田加代氏（こども六斎教室連絡会代表）

第2部 ①上鳥羽六斎ジュニアによる「四つ太鼓」「祇園囃子」の実演

②「こども六斎教室について聞いてみる」

講師や上鳥羽橋上鉦講中、実演した上鳥羽六斎ジュニアの方々への質疑応答。

③ワークショップ「四つ太鼓」「祇園囃子」の練習の体験

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・参加者同士の交流や関わりが希薄。

2 準備段階での工夫

- ・事業の内容について上鳥羽橋上鉦講中と相談をし、希望を汲み取るようにした。その中で、上鳥羽六斎ジュニアの子ども達がどのような思いで六斎念仏をしているのか知りたい、という意見があった。事業のテーマである後継者を育成する上で、当事者たちがどのような思いを持っているのかは重要であると考え、聞く機会を設けられるよう内容を組み立てた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・六斎念仏の担い手の育成と地域の人材の発掘を目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

○（1）の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・講話の内容は、上鳥羽六斎ジュニアを含めた京都市内で実施されている子ども達の六斎教室についてのことで、子どもが六斎念仏をするということについての理解が深まった。

- ・発表会ということで出演者の保護者も来られており、地域住民や父兄に練習の成果を披露することができた。また、アンケート結果からは子どもの成長を見ることができたとの感想があった。
- ・事業の後、上鳥羽橋上鉦講中からは上鳥羽六斎ジュニアへの加入者が増えているとの声が聞こえている。地域から六斎念仏の担い手を発掘することの一助になったと思われる。
- ・演者である子ども達の声聞くことができ、上鳥羽橋上鉦講中の方も喜ばれており、後継者の育成の参考にすると聞いている。

4 今後の抱負

- ・ワークショップ形式を取り入れたが、どのように進めていくかの打ち合わせが不足していた。後日、練習の体験をしたかったができなかったとの声があり、改善が必要である。
- ・上鳥羽六斎念仏を地域をあげて伝承、保存、支援していくために、方法について講中とも話し合い、他の団体と連携できることがあるかも検討していきたい。

事業風景の写真



【事業名】上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～ 取組② 勉強会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第1回 令和6年9月29日（日）13時～16時
第2回 令和6年11月17日（土）13時～16時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数： 第1回：9名 第2回：19名
- 4 協力団体等：京の風流踊振興会
- 5 予算： 104,000円 / 決算： 104,000円

1 事業内容

ユネスコの無形文化遺産に登録された京都の風流踊の普及啓発のため、「京の風流踊振興会」と連携し、勉強会を2回実施した。

- ・第1回「もういちど問いなおしたい六斎念仏のはなし」（山中崇裕氏 佛教大学大学院修了、天台宗典編纂所勤務）
六斎念仏についての最新の知見を紹介し、参加者からの疑問・質問に答える。
- ・第2回「ちょっと昔の久多の花笠踊りと全国各地の灯籠踊りの諸相 ー特に、火の宗教性と灯籠の風流化を中心にしてー」（大森恵子氏 民俗芸能学会評議員、元佛教大学歴史学部非常勤講師）
風流踊りの”久多の花笠踊り”に関する講演。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。

2 準備段階での工夫

- ・勉強会の内容についてセンターと講師と振興会とで相談し、プレゼンや資料の内容については上鳥羽橋上鉦講中に協力を仰ぎ校正作業を行っていただいた。
- ・勉強会の告知については振興会とセンターでそれぞれ行うことにした。センターではチラシや Facebook の他、事業に出席予定の方に呼びかけて、事業の予定を SNS で発信していただいたりした。
- ・第1回の打ち合わせ段階で、講師から一般の人が六斎念仏についてどのような疑問を持っているのかを知りたいという希望が上がった。そこで、より多くの質問を得るためにチラシやセンター内の掲示、SNS を使って募集し、質疑応答も主になるように組み入れた。
- ・会場の準備はセンターが行ったが、講師との連絡や調整、事業当日の進行に関しては上鳥羽橋上鉦講中が行うことにした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・地域住民に六斎念仏を知っていただくこと。振興会と連携し、地域以外にも広く普及活動

を行うこと。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析し、記載してください。

- ・参加者は京都市内から広く来られていたように見受けられた。普及活動の一助となったと言える。
- ・第1回、第2回ともに、内容が難しかったとの感想が多く見受けられたが、アンケートからは大勢が内容に満足されていることが見て取れた
- ・参加者からの関与と交流を促すために事前質問を募集する形式にしたところ、講師からは勉強になったとの感想があった。

4 今後の抱負

- ・事業の目標が普及啓発にあるため講座型となったが、双方向の講座となるべく質疑応答が充実するように工夫した。参加者や講師からも好評であったので、今後も参加者との交流を深めるための手立てについて考えていきたい。
- ・第1回、第2回のいずれも内容が難しかったとの感想があり、また予定時間を超過してしまった。内容については、参加者から改善方法についての提案があり、改善していきたい。
- ・第1回は参加者が少なく、同日に六斎念仏の公演があったことが影響したと思われる。他所の行事の予定を意識して日程を調整していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組① 歌声サロン（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 金曜日 14 時 30 分～16 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：146 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 384,000 円 / 決算： 384,000 円

1 事業内容

高齢者の認知症予防と住民の健康づくりを目指す。

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②講師は坂下正幸氏（音楽療法士）。認知症予防の講話と音楽、ボイストレーニング体操等の実技トレーニングに取り組む。楽器等は講師が用意する。
- ③センターは連絡調整や会場設営などを行う。

○評価委員会から指摘された事項と改善点

- ・指導者が固定されている。

2 準備段階での工夫

- ・参加者の募集について、参加されている上鳥羽自治連合会の老人会の方や地域の町内会の方に、参加者募集の呼びかけをしていただいた。
- ・歌声サロンで使用する楽器の準備、片づけは参加者がこなすよう協力を仰いだ。

3 事業実施による効果・達成度

（１）当初の事業効果，目標等

- ・高齢者の認知症予防と住民の健康づくり、参加者が継続して参加することを重点とした。

（２）事業実施による目標の達成度

- ・各回の参加人数は平均 6 人で、継続して参加される方が多い。
- ・アンケートはしていないが、「毎回楽しく活動させてもらっている」、「健康のためや社会への参加のため来ている」、「家で何もしないでいるよりも、出かけなければと思い」などの声があり、参加する事に意欲的になっておられた。

4 今後の抱負

- ・前年度（210 人）に比べて総人数が減少している。継続参加されていた方が体調不良で参加できないなどが続いたためであったが、新規の参加者が少ないこともある。活性化のためにも、参加者の募集を続けていく。
- ・歌声サロンの実技体験、参加者の意欲的な参加意識、講師と参加者との良好な人間関係な

ど、好ましいつながりが形成されている。講師が固定化されていることについては指導者・参加者とも相談していきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組② 健康体操（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 14 時～15 時 年 24 回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン、本館 2 階旧図書室
- 3 参加人数：118 人/年
- 4 協力団体等：京都市南区地域介護予防推進センター
- 5 予算： 145,000 円 / 決算： 144,000 円

1 事業内容

- ①参加者は、HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②京都市南区地域介護予防推進センター（推進センター）と連携する。講師は健康運動指導士で第 1 木曜日に参加し、もう一回は参加者のみで行う。
- ③体操の内容は推進センターが推薦するメニューで、ラジオ体操や筋力トレーニング、整理体操を行う。
- ④活動場所は本館 2 階旧図書室だが、空調がないため夏季はサロンを利用する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルに留まっている。
- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・実施日について、参加者の希望をヒアリングし推進センターと調整した。
- ・昨年度実施した健康体操は、講師が主体となって体操を指導するスタイルであったが、今年度は推進センターが推薦するラジオ体操等の曲に合わせて行う体操を行うことになった。曲は mp3 で提供されたが、参加者がラジカセで操作しやすいように CD を作成した。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・月 2 回の体操を継続することで、生活リズムの改善や体調不良の改善、よりよい健康生活を獲得すること。
- ・健康体操の成果を地域に広げ、住民の健康志向を高めること。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・前年度(176 人)と比べ参加人数が減った。原因は、講師による指導が好評であったが、講師による指導が減ったことが考えられる。しかし、講師の指導回数は減ったが、熱心に参加されている方が多い。
- ・新規参加者があり、地域に広げることの効果があったと思われる。

4 今後の抱負

- ・推進センターの方針で、講師を必要としない自主的なサークル活動への転換が求められている。そのため、参加者のより自主的な活動が必要となり、センターはそれをサポートしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組③ 卓球交流会（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：令和 6 年 9 月 28 日（土）13 時～16 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
- 3 参加人数：22 名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 9,000 円／決算： 6,000 円

1 事業内容

- ①広く参加者を募集するため、地域回覧だけでなく各いきセンや南青少年活動センターや南老人福祉センターなどにチラシを配布する。
- ②当センターを利用している卓球サークルに協力を呼びかけ実行委員会を作る。
- ③実施内容やルールは実行委員会で相談し決めていく（交流を重視し時間を決めたラリー形式とする。相手が打ちやすいように心がける、など）。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・実行委員会を作り、事前に話し合いでルールや進行を確認し、当日の進行がスムーズに進むようにした。
- ・昨年のアンケートに対戦形式を取り入れてはという提案があり、取り入れた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・卓球交流会を通じて、地域住民の交流を促進し、地域の社会貢献の担い手育成を図る。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・アンケートからは、「交流会はたまには良いと思う。」「いろんな人との交流ができて良かったです。」とあり、交流会は好評であった。
- ・交流会の後、卓球の他のグループに参加される方が現われ、交流の輪が広がっている。
- ・実行委員会で進めたが、自主的に次回の交流会の実施を進めるまでには至らず、担い手の発掘、育成という点での達成はできていない。

4 今後の抱負

- ・事業についてはアンケートからは高い評価を得ており、継続して実施したい。
- ・参加者で事業の実施が行えるようになるよう、支援していきたい。
- ・参加者の大半が普段からのセンターの利用者であったが、地域外の方が 2 名参加された。5 年度の交流会に参加された方とその友人であり、もっと増やしていきたい。

事業風景の写真



【事業名】地域課題事業 取組④ 鯉のぼりによるまちづくり（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：①令和6年10月26日（土）9時～17時
②令和7年3月1日（土）13時～16時
- 2 開催場所：①ひと・まち交流館 京都
②上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室、本館2階旧図書室
- 3 参加人数：①4名 ②28名
- 4 協力団体等：鯉のぼり保存会 青仁会
- 5 予算：決算 ①8,000円／8,000円 ②124,000円／107,735円

1 事業内容

鯉のぼり保存会青仁会の活動を広く知らせることを目標に実施した。

①ひと・まち交流館で開催され、市民活動センターと各いきセンが主催となる「みんなの文化祭」に参加し、展示や活動内容の発表を行った。

- ・作品展示会場にブースを出し、パネルや動画、活動の一部である修理した鯉のぼりの展示を行った。また、会員が常駐し、来場者に活動内容の説明を行った。
- ・上演会場では、鯉のぼり保存会の活動の発表を行った。

②センター内で活動内容の展示や活動の報告会を行った。報告会は三部構成で行った。

- ・センター全体を使い、活動についての展示を行った（第一会議室…みんなの文化祭で使ったパネルや会員が制作中の鯉のぼりなどを展示。2階…手描き鯉のぼりの展示。屋外…修理した鯉のぼりを揚げた展示や、荒野麟太郎氏が持参されたミニ鯉のぼりを揚げる体験を実施。）
- ・報告会は、第一部では、鯉のぼり保存会の会員や活動に係わっている方々が、これまでの活動について語った。第二部では、鯉のぼり保存会の活動を応援されている荒野麟太郎氏によるワークショップ（鯉のぼりに筆を使って彩色をする手描き体験）を行った。第三部では、第一部、第二部の登壇者それぞれに、これからの思いを語っていただいた。

これらの他に、鯉のぼり保存会の活動の一つである使われなくなった鯉のぼりの収集活動について、センターも協力して収集の受付を行った。また、資料の作成や活動の広報を年間を通じて行った。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性が求められる。

2 準備段階での工夫

- ・鯉のぼり保存会は数年前から上鳥羽地区で活動をされているが、活動についてあまり知られておらず、もっと活動を知っていただきたいと相談を受けたことがきっかけで事業を実施した。
- ・鯉のぼり保存会には、パソコンやインターネットに強い方がおらず、広報や資料作成をセ

ンターがサポートした。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果, 目標等

- ・鯉のぼり保存会の活動を広く知らせることを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ (1) の達成度について自己分析

- ・みんなの文化祭の来場者やしみセン、いきセンのスタッフなど、上鳥羽地区以外にも活動を知ってもらう機会を得ることができた。
鯉のぼり保存会の方からは、「作品を展示することができてよかった」「もっと交流を深めたい」という感想があった。
- ・事業を実施することで、鯉のぼり保存会の活動を地域に知らせることができた。参加者の中から、活動に参加したいという方が現れたことは、成果の一つと言える。
また、子ども達の参加があり、「子どもの日に揚げられなかったので、揚げられて楽しかった」「鯉のぼりを作りたい」などの感想がり、鯉のぼりを通じて世代を超えた交流ができる可能性が見て取れた。
- ・事業内容をセンターの Facebook で発信するなどしたが、特に反響はなかった。

4 今後の抱負

- ・当センターが外部施設で展示を行うことは初めての取り組みであったので、展示方法や搬送方法など手探りの状態で行った。この経験を今後に生かしていきたい。
- ・鯉のぼり保存会は年間を通じて活動をされており、会から相談や資料作成の依頼などが多く寄せられた。意欲的な活動を支援するための体制作りが必要である。

事業風景の写真

①みんなの文化祭



②センターでの事業



【事業名】地域課題事業 取組⑤ 水害学習（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第1回 令和6年5月10日（土）19時～20時30分
第2回 9月7日（土）13時30分～15時
- 2 開催場所：第1回 上鳥羽南部いきいき市民活動センター 第一会議室
第2回 吉祥院いきいき市民活動センター
- 3 参加人数： 第1回 7名、第2回 27名
- 4 協力団体等：吉祥院いきいき市民活動センター
- 5 予算： 4,000円 / 決算： 3,000円

1 事業内容

吉祥院いきいき市民活動センターと協働で、夏に水害の体験者を交えた座談会を開催することを目標に実施した。第一段階として、上鳥羽南部いきいき市民活動センターで体験者へのヒアリングを行い、次に吉祥院いきいき市民活動センターでヒアリングの内容を踏まえた座談会を予定して実施した。

ヒアリングは、河川レンジャーの石津知子氏が行った。第1回のヒアリングの内容を踏まえた結果、座談会の予定は変更になり、「キッズ防災教室」を実施した。

2 準備段階での工夫

第1回では、それぞれのセンターで水害の体験者を探し、参加者を募った。第2回は、当センターは参加者を募った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・ヒアリングの参加者を集め、石津氏によるヒアリングと座談会が成功することを目標とした。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・第1回のヒアリングでは、水害の体験者3名に参加していただくことができた。また、水害に興味のある方も参加され、交流を図ることができた。
- ・第1回、第2回とで多くの参加者が参加し、水害についての理解を深めることができた。
- ・第2回は当初予定した内容と異なるものになったが、多くの参加者があり、成功したと考えられる。

4 今後の抱負

- ・吉祥院いきいき市民活動センターとの協働で実施することで、センター同士の交流を深めることができた。今後も機会があれば水害がテーマのこと以外でも協働事業を実施していきたい。

事業風景の写真

・第1回



・第2回



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

2. サロン運営・活用事業

※サロン運営・活用事業はアンケートをしていない。

【事業名】ふれあい事業 取組① マージャン交流（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第 1,3 月曜日、第 3 木曜日 10 時～16 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：404 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 216,000 円 / 決算： 210,000 円

1 事業内容

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシ等を活用して募集する。
- ②毎月 3 回、第 1,3 月曜日・第 3 木曜日、10 時～16 時に実施。
- ③参加者の中から世話役（代表者）を選び実行委員会を組織して進める。ルールや活動内容は世話役を中心にして決める。
- ④講師はなく、初心者にはゲームのルールを熟知している方が教える。

○評価委員会から指摘された事項

- ・企画運営における双方向性、利用者・団体側の自発性。

2 準備段階での工夫

- ・参加人数によってはゲームをすることができないので、継続して参加者の募集を行うこととした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・男女や年齢を問わず、マージャンに興味、関心のある方が集まり、親睦と交流を深める。
- ・講師に頼らず、世話役を中心とした自主的な運営を目指す。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・昼休みをはさむ午前と午後の 2 部制としており、午前午後を通して参加される方が多く、熱心に参加されている。
- ・参加者は、ルールの設定や初心者への指導の他に、大会を開くなどの企画運営も自主的に実践されている。

4 今後の抱負

- ・3 台の麻雀卓を使用しているが、サロンでは手狭になってきている。さらに参加人数が増え

た場合のことを参加者と検討していきたい。

- ・参加人数によっては、ゲームの人数が足りなかったり、順番待ちが出たりすることがある。
参加者数の調整が問題になっており、検討していきたい。

- ・出欠票や名簿などをセンターが作成しているが、これを参加者が担うように促していきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組② 造形教室（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第4日曜日 10時～正午 年12回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：74人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 156,000円 / 決算： 165,000円

1 事業内容

俳句創作を通じて創造力、俳句の技能アップを目指し、伝統文化である俳句を若い世代に伝える。

①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。

②創作活動は次のように進める。

- 1.参加者は実施日が来るまでに各自俳句の構想を考え、メモやノートに書いて参加する。
- 2.講師と俳句の表現方法について相談し、推敲する。
- 3.詠んだ句を色紙に墨で表現する。
- 4.ちぎり絵や水彩画など絵を添えて完成させる。1回につき1作品の完成を目指す。

③作品は、センター内や Facebook などて発表する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・高齢者に偏っている。

2 準備段階での工夫

- ・センターで画材（色紙、筆、墨、ちぎり紙など）を準備し、必要があれば参加者が利用できるようにしておく。
- ・センターは講師との日程の調整や連絡、活動のサポートにあたる。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・参加者は俳句を詠むこと、絵を描くことの技能アップ、時間内で作品の完成を目指す。
- ・新しい参加者を増やすこと。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・どの参加者も1回に1作品を完成させることを目標に取り組まれている。新しい参加者も、完成させることができるようになった。
- ・参加者は、未完成の作品は持ち帰って完成させたり、他の参加者の俳句の推敲に参加したりするなど、意欲的に参加されている。
- ・作品はセンター内だけでなく、ひと・まち交流館で実施された「みんなの文化祭」やすこ

やかクラブ京都作品展などに出品されるなど、活動の範囲が広がっている。

- ・参加者数は増えるも、高齢者のみの参加にとどまっている。

4 今後の抱負

- ・参加者が増えたことでサロンでは狭くなってきた。また、俳句の推敲を一人ずつ順番に行っているため時間がかかり、色紙に完成させるための時間が短くなる参加者もあり、手立てについて検討していく。
- ・参加者が高齢者のみとなっている。講師と参加者と相談し、若年層の参加について考えていきたい。また、講師に頼らない創作の場として活動していくことができるか、参加者と考えていきたい。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組③ フラワー教室～花アトリエ講師育成実技講習会～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時：第2土曜日 10時～正午 年11回
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：67人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 286,000円 / 決算： 280,000円

1 事業内容

地域在住のフラワーデザイナーが後継者育成に向けて講習会を開催。受講者が講習会の成果を地域に広げていく。

- ①4年度と5年度の講習会を修了した参加者を対象とする。
- ②指導は講師が行う。センターは連絡調整や運営をサポートする。
- ③カリキュラムは第1ステップ（基礎）、第2ステップ（研究）、第3ステップ（師範）の3段階で、全33回の講習で師範資格の取得を目指す。6年度は第3ステップを行う。
- ④参加費は材料代（花代、花器含む）として1回3,300円を徴収する。
- ⑤参加者の作品をフラワーデザインコンテストに出展する。

○評価委員会から指摘された事項

- ・講座型のスタイルにとどまっており、市民活動支援の取組が求められる。
- ・講師が固定化されている。

事業の目的をフラワーアレンジメントの技能者育成としており、専門性を必要としていることから、講師による講座型の事業になった。6年度も講座型となったが、参加者がフラワーアレンジメントのコンテストに出品し入賞するなど講習会の成果が現れ、広く発信して事業の目標となる「成果を地域に広げる」ことを行いつつある。

2 準備段階での工夫

- ・センターは講師との連絡調整や相談、会場設営をサポートする。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・地域にフラワーデザイナーが少なく、フラワーアレンジメント制作に係われる人材の育成を図り、師範資格を取得することを目的として取り組む。
- ・参加者も事業の目的があるため、目標に向かって努力をされる効果が期待される。
- ・修了後、フラワーデザイナーの師範取得者が数名排出されることが予想され、地域にフラワー文化が広がっていくことが期待される。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・コンテスト（日本フラワーデザイナー協会京都支部主催「第25回京都府立植物園フラワーデザインコンテスト」）に5名出展し、5名ともが入賞された。成果の一つと言える。
- ・参加者全員が3年間の講座を修了された。しかし、6年度の途中で複数回に参加できなかった方があり、別途補習という形で受講される予定になっている。

4 今後の抱負

- ・3年間の講習が終了となり、参加者も技術を習得された。センターを、フラワーデザイナーとして活躍する場として利用していただければと思う。
- ・募集人数の都合で、講習会に参加したいが参加できなかった方があったと聞く。別のやり方で講習会を実施できればと思う。

事業風景の写真



【事業名】ふれあい事業 取組④ スマホ・パソコン交流（サロン運営・活用事業）

7 事業の概要

- 1 開催日時：第 1,4 木曜日 15 時～17 時
- 2 開催場所：上鳥羽南部いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：3 人/年
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 224,000 円 / 決算： 144,000 円

1 事業内容

- ①HP、Facebook、地域回覧板、ポスター、チラシで参加者を募集する。
- ②講師に頼らず、参加者同士で解決方法を話し合い、解決していく。
- ③使用するスマートフォンやパソコンは、参加者が用意する。
- ④センターは支援、サポート役として参加する。

2 準備段階での工夫

- ・センターの利用者の中に、散発的ではあるが繰り返しスマートフォンやパソコンの使い方を相談される方があり、参加を呼び掛けた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- ・参加者が、少しずつでもスマートフォンやパソコンを使いこなせるようになっていくこと。
- ・スマートフォンやパソコンの使い方を自ら学ぼうとする自立生を育み、生涯学習に役立てること。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・参加人数及び継続して参加される方が無く、目標の達成はできなかった。
- ・その場で解決できなかったこともあったが、いくつもの問題を解決することができ、参加者の方は充分そうであった。
(例・チラシに書かれている LINE の二次元コードを読み取り、友達登録する方法。
 - ・インターネット接続していないノートパソコンで、画面に“更新が必要です”と頻繁に表示される。
 - ・ノートパソコンとスマートフォンを接続してインターネットに接続したい。
 - ・自宅の複合機でスキャナー機能を使いたい。)
- ・事業の時間以外にスマートフォンなどの使い方を質問される方に参加を促したが、参加されるには至らなかった。

4 今後の抱負

- ・継続して参加される方はなかったが、問題を解消することができた。問題を解決すること

が望まれており、ニーズの把握ができていなかった。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績
	令和6年度実績：627,300円（前年度比118% 令和5年度実績：532,500円）
	{ 内訳 会議室等： 627,300円 附属設備： 0円 ※自主事業分を除く スモールオフィス：0円
2	管理運営に係る経費の収支決算
	別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和6年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

5事業（上鳥羽六斎念仏発表会、勉強会1,2、卓球交流会、鯉のぼりによるまちづくり）について、下記の設問にてアンケートを実施した。値は5事業の平均値（設問3,4,5については、3段階で評価）。

設問1 年代

設問2 どうやって知りましたか

設問3 実施したことについて

設問4 内容について

設問5 センターの対応

設問6 自由記載

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
61.8%	37.7%	0.05%	0%	0%

(2) センター独自アンケート

設問1 年代

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
平均	0%	2.5%	7%	10.7%	11.9%	8.2%	45.1%	14.6%

設問2 どうやって知りましたか

	センター	チラシ	知人	新聞	ネット	その他	未記入
平均	35.4%	17.6%	35.9%	1.2%	0%	8.9%	1%

設問3 実施したことについて

	満足	普通	不満	未記入
平均	95.2%	3.8%	0%	1%

設問4 内容について

	満足	普通	不満	未記入
平均	95.2%	3.8%	0%	1%

設問5 センターの対応

	満足	普通	不満
平均	96.6%	3.4%	0%

設問6 自由記載

○上島羽橋上鉦講中（上島羽六斎念仏）～継承と発展～

（発表会）

- ・講演、映像、上演（発表）、インタビュー、ワークショップ、盛りたくさんでしたが、一般的な上演の機会にはあまりないので、とても貴重でした。インタビューの対応がシャイなのがかわいかったです。
- ・今まで積み上げてきた技術が、次へ次へと受け継がれている様子を子どもたちの演奏をみて感じました。ありがとうございました。
- ・子供達の成長がみれてよかった。

（勉強会）

- ・専門用語がたくさんあり、内容の半分ぐらいしか理解できませんでした。（講師が）みなさんの質問にこたえるところが一番興味深かったので、論文や考察が中心ではなく、こちらからスタートして沢山の時間を使ってもらえたら、もっと楽しい時間になったと思います。
- ・仏教史の側面を知ることができ、よかった。
- ・大森先生のお話がとても分かりやすく、おもしろかったです。
- ・自分達の身近なところに、地域の人の思いが詰まった知恵・工夫一杯の行事が行われている事に改めて気付かされました。

○卓球交流会

- ・いろいろな人の技術を見られて良かった。
- ・今後もこのような催しがあれば参加します。楽しかったです。

○鯉のぼりによるまちづくり

- ・昔のことを思い出しました。こいのぼりを上げると息子たちが喜んでいました。
- ・こいのぼりを通したまちづくりに貢献したいです。
- ・お子さんから年配の方まで楽しめる機会で、とても良かったです。

3 意見等への主な対応状況

利用者からの要望や希望に対して次のように対応した。

・卓球交流会

Q. トイレをきれいにしたい

A. 古びた感によるものもあるが、ゴミや汚れに早く対処できるよう、見回りの回数を増やした。

・全センター共通窓口サービス調査より

Q. げた箱で、下足とスリッパの置き場の区別をして欲しい

A. 下足とスリッパを同じ段に置いていたところを、上段と下段への置き分けがわかるようにイラストを掲示し、置き分けに協力していただけるよう利用者に声掛けをした。

Q. 掃除機でほこりを取ることに。

A. 会議室の入れ替わり時など、掃除の回数を増やした。

Q. イベントなどのお知らせがホームページ上で遅い。

A. 事業の内容をぎりぎりまで検討しているためでもあるが、なるべく早くお知らせするように検討する。

Q. センターへ来た時、少し戸惑った。

A. センターの周囲にセンターの周辺地図や方向がわかるものを掲示した。また、遠くからでもわかり易くするようにセンター2階の窓際に貸し会議室の情報を掲示した。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

○取り組んだ事業等の総括

- ・貸館の件数及び料金収入は増加してきている。コロナ以前からの利用者による利用が戻り、新しく利用される方も増えている。また、定期利用者による利用回数も増えており、利用者が過ごしやすい環境づくりが上手くいっていると感じている。
- ・市民活動支援・活性化事業において、吉祥院いきいき市民活動センターと連携して事業を実施した。現体制になってから他のセンターとの協働は初めてであったが、このような取り組みをしていきたい。
地域で活動されているグループ（鯉のぼり保存会）の支援に力を入れた。どのようにすれば目標を達成できるかを検討しながらであり、年間を通じた活動になった。また他の事業でも、参加者の関与を高めるための工夫を行うなど、新しい試みを行っていった。
- ・サロン運営活用事業については、昨年度のようにサークル活動に移行したものは無かった。継続している事業については、引き続き参加者の交流の場としつつ自走化へ向けていきたいと考えている。
- ・情報発信については、不足していると感じている。発信したことへのフォローが不十分で、双方向性を活用できていない。各職員のスキルアップや情報発信の技術を学ぶなどして、より効果的に利用していきたい。

○今後、解決すべき課題等

- ・依然、評価委員会からの主に三点の指摘事項（講座制の事業を減らす事、参加者との双方向の取組を考える事、講師の固定化を減らしていく事）について、取り組みは足りていないと感じており、今後も改善していく。
- ・貸館に関して、利用率の高い第一会議室の日中の空き時間が少なくなっている。日曜日においても、卓球での利用と他での利用の競合が発生してきている。

○次年度に向けた対応

- ・6年度と同様に事業によってはサークル活動に移行できるように支援し、また、参加者が主体となる事業の取り組みを進めていく。取り組みを進めるにあたってはセンターだけでは力不足であるため、まちづくりアドバイザーとも相談していきたい。
- ・貸館事業に関して、新規利用者の増加が予想される。現時点では定期利用者どうしによる利用時間の競合は発生していないが、競合が発生した場合の事を検討しておきたい。
- ・市民活動を支援する上で力量不足を感じてきている。各職員のスキルアップに努めていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項
特になし。

○年間事業計画にある事業の中で、実施できなかった事業

- ・事業① 上鳥羽橋上鉦講中（上鳥羽六斎念仏）～継承と発展～「取組③ ワークショップ」（予算：48,000 円）

上鳥羽橋上鉦講中様と連携して年度内に行う予定であった。しかし、ワークショップの講師役となる講員が多忙となり、事業を実施する時間を確保することが困難となった。また、会員の方が持っている技術の継承を目標としており、代わる人がいないため、実施を見送ることとした。

京都市上鳥羽南部 いきいき市民活動センター
指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 株式会社丸起

代表者名 藤木輝幸

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		11,234,000	11,234,600	600
利用料金収入		412,020	627,300	215,280
	会議室等	412,020	627,300	215,280
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）			0
その他 収入	光熱水費分担金			0
	個別事業参加費			0
				0
				0
				0
当期収入合計		11,646,020	11,861,900	215,880
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		7,500,000	7,348,179	151,821
	職員4名		6,151,417	▲ 6,151,417
	非常勤職員2名		0	0
	法定福利費		865,922	▲ 865,922
	福利厚生費		330,840	▲ 330,840
光熱水費		800,000	915,804	▲ 115,804
	電気代		779,114	▲ 779,114
	ガス代		23,091	▲ 23,091
	水道代		113,599	▲ 113,599
施設管理費		500,000	359,000	141,000
	樹木剪定		0	0
	定期清掃等		150,000	▲ 150,000
	機械警備		105,600	▲ 105,600
	消防保守点検		48,400	▲ 48,400
	E V保守点検		0	0
	空調保守点検		0	0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検		0	0
	自家用電気工作物		0	0
	雑用水用給水設備		0	0
	建築設備点検		55,000	▲ 55,000
	空気環境測定等		0	0
				0

事務費		900,000	1,099,768	▲ 199,768
電話代			163,131	▲ 163,131
事務用品			146,711	▲ 146,711
雑費			0	0
センター運営費			144,446	▲ 144,446
ホームページ費			151,800	▲ 151,800
カラオケリース費			198,000	▲ 198,000
空調機器リース費			295,680	▲ 295,680
修繕費		0	42,900	▲ 42,900
LEDランプ取替及び配線改修			42,900	▲ 42,900
				0
備品購入費（5万円以上の物品）				0
				0
				0
租税公課				0
〇〇税				0
〇〇税				0
				0
その他		14,400	24,400	▲ 10,000
賠償責任保険保険料		0	14,400	▲ 14,400
諸会費		0	10,000	▲ 10,000
施設運営業務支出合計		9,714,400	9,790,051	▲ 75,651
2. 事業実施業務				
市民活動支援・活性化事業費		903,000	810,735	92,265
上鳥羽橋上鉦講中「上鳥羽六斎念仏」～継承と発展～		229,000	158,000	71,000
歌声サロン		384,000	384,000	0
健康体操		145,000	144,000	1,000
卓球交流会		9,000	6,000	3,000
鯉のぼりによるまちづくり		132,000	115,735	16,265
水害学習		4,000	3,000	1,000
サロン運営・活用事業費		882,000	799,000	83,000
マージャン交流		216,000	210,000	6,000
造形教室		156,000	165,000	▲ 9,000
フラワー教室		286,000	280,000	6,000
スマホ・パソコン活用交流		224,000	144,000	80,000
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		1,785,000	1,609,735	175,265
当期支出合計		11,499,400	11,399,786	99,614
当期収支差額		146,620	462,114	315,494

令和6年度 事業報告書 久世いきいき市民活動センター

【指定管理者：地域環境整備みどりの会】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 4 名（常勤 2 名 非常勤 3 名）

【人材育成の取組】

- ・月に 1 回全体ミーティングを行う。窓口アンケートを調査し、分析するなど運営の質を向上できるように努める

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
28	27	29	28	36	38	31	34	35	23	38	36

(年間)

383 件（前年度比 107.6%）

イ 利用状況

- ・前年度に比べると件数は少し増えた。
- ・毎週利用していただいていた団体が無くなったのもあるが、新規利用も増えた。
- ・3 か月ほど前から、楽器演奏の利用もあるので、増加に繋げたい。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・全身鏡の部屋が人気なので、もう一部屋増やした。
 - ・自主事業ではないが、ペーパーフラワー教室を実施した。
- 来年は自主事業としてできるよう努める。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・SNS は X（旧 Twitter）での発信を主に行った。
- ・来年度からは HP 等を新しくし、いろいろな SNS 発信を行う。

イ 取組の効果

- ・前年度も指摘をいただいたが、あまり効果はみられなかった。

(4) 管理運営

- ・年に 2 回メンテナンス（消防・建物管理）を行っている。
- ・毎日の清掃、周辺の管理は従業員全員で行う。

(5) その他

- ・音楽関係の新規利用が多くなってきたので、防音設備等を設置する。
- ・クリスマス会以外の自主事業も行う予定。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】クリスマス会（自主事業）

※事業ごとに、簡潔に作成してください。

事業の概要

- 1 開催日時：2024年12月11日（水）10時30分～11時30分
- 2 開催場所：久世いきいき市民活動センター 会議室1・2
- 3 参加人数：25組51名
- 4 協力団体等：久世保育所・久世児童館・久世西児童館・かみふうせん文庫
- 5 予算：46,200円 / 決算：46,200円

1 事業内容

- ・かみふうせん文庫によるパネルシアター、手遊び、歌。
- ・久世児童館による手遊び歌。久世西児童館による手遊び歌。
- ・サンタクロース登場！！（記念撮影）

2 準備段階での工夫

- ・毎年プレゼントは手作りなので、小さいお子様が多いため、持ち帰ってから怪我等の無いようにプレゼント選びをしたり
昨年まちづくりアドバイザーの方に指摘された椅子等の配置や改善など工夫をした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

- ・昨年からの参加者や新規の方、いろいろな方に来ていただいた。
- ・他の自主事業にも参加して頂けるように努めたい。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・クリスマス会は毎年評判がよく、楽しかったとの意見を多数いただいた。
- ・昨年の改善点を生かし、手遊び歌等の選曲を簡単なものにして
小さいお子様にも楽しんでいただけた。

4 今後の抱負

- ・今年も実施する予定なので来場して下さる方全員楽しんでいただけるよう努める。

事業風景の写真



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和 6 年度実績：430,800 円（前年度比 85.0%）

〔内訳 会議室等：430,800 円
付属設備：0 円 ※自主事業分を除く〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和 6 年 1 1 月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
48%	52%	0%	0%	0%

(2) センター独自アンケート

・概ね満足と回答していただいた。

3 意見等への主な対応状況

- ・料理室にレンジを置いてほしいとのお声を頂いたので、設置した。
- ・和室の畳が古いので変えてほしいとの要望もあったため検討中。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

○取り組んだ事業等の総括

- ・今年もクリスマス会を実施した。自主事業ではないが、ペーパーフラワー教室を開催。
- ・急な開催だったが、たくさんの方に参加いただいた。来年度は自主事業として行う予定。

○今後、解決すべき課題等

- ・昨年同様高齢者の利用が少なかったため、事業を行う予定。

○次年度に向けた対応

- ・クリスマス会以外の自主事業を行う。防音設備強化。SNS にも力を入れ新規利用に繋がるよう努める。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特記事項なし

京都市久世いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令6年度分）

指定管理者名 地域環境整備みどりの会

代表者名 作岡貞二

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
【収入の部】				
指定管理料収入		12,667,390	12,667,390	0
利用料金収入		350,000	430,800	80,800
	会議室等	350,000	430,800	80,800
	スモールオフィス			0
	附属設備（自主事業を除く）			0
その他収入	事業参加費			0
	光熱水費分担金			0
	自動販売機電気料			0
	預金利息・源泉徴収還付金		508	508
				0
当期収入合計		13,017,390	13,098,698	81,308
【支出の部】				
1. 施設運営業務				
人件費		7,514,160	8,566,444	▲ 1,052,284
	常勤職員 2名	4,552,560	4,440,000	112,560
	非常勤職員 3名	2,318,400	3,304,150	▲ 985,750
	法定福利費	643,200	775,190	▲ 131,990
	福利厚生費		47,104	▲ 47,104
光熱水費		1,190,119	1,188,467	1,652
	電気代	846,772	881,645	▲ 34,873
	ガス代	60,504	23,902	36,602
	水道代	282,843	282,920	▲ 77
施設管理費		2,002,070	1,251,929	750,141
	樹木剪定	211,750	68,200	143,550
	定期清掃等	950,000	505,800	444,200
	機械警備	190,000	204,600	▲ 14,600
	消防保守点検	180,000	88,000	92,000
	空調保守点検	219,520	59,289	160,231
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検		0	0
	自家用電気工作物		0	0
	雑用水用給水設備		0	0
	建築設備点検		0	0
	空気環境測定等		0	0
	廃棄物回収	250,800	326,040	▲ 75,240
				0

事務費		804,753	1,166,685	▲ 361,932
	電話代	237,199	249,128	▲ 11,929
	事務用品	60,350	388,677	▲ 328,327
	会計業務・税務・給与事務等	375,204	396,880	▲ 21,676
	H P 管理費	132,000	132,000	0
修繕費		399,488	751,289	▲ 351,801
	床壁改修等	399,488	526,350	▲ 126,862
	電話工事		55,000	▲ 55,000
	メンテナンス		169,939	▲ 169,939
備品購入費（5万円以上の物品）		0	0	0
			0	0
			0	0
			0	0
租税公課		1,006,800	663,077	343,723
	消費税	1,006,800	593,000	413,800
	法人税		70,000	▲ 70,000
	その他		77	▲ 77
その他		100,000	26,970	73,030
	その他		0	0
	保険料	100,000	26,970	73,030
当期支出合計		13,017,390	13,614,861	▲ 597,471
当期収支差額		0	▲ 516,163	▲ 516,163

令和6年度 事業報告書 醍醐いきいき市民活動センター

【指定管理者：株式会社ワン・ワールド】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 5 名（常勤 2 名、非常勤 4 名）

【人材育成の取組】

6 年度も学生のフィールドワーク先として受け入れを行い、学生の実践の場としていきセンを活用してもらった。京都橘大学、京都先端科学大学、立命館大学においては、いきセンから出向いて事業の企画運営やボランティアとして関わる学生に向けてプレゼンを行った。京都橘大学の学生は企画運営を、京都先端科学大学、立命館大学の学生はボランティアとして関わる事が出来た。

スタッフにおいては、京都府子育て支援員の資格取得や、カスタマーハラスメントの研修も受講した。6 年度は行政や他団体等との連携事業が多く、企画段階から関わることで、企画の幅も人脈も広げることが出来た。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
74	77	94	92	75	90	92	92	81	73	78	96

(年間)

1,014 件（前年度比 103%）

イ 利用状況

- 平日、土日に関わらず、年間を通じて集会室の利用が多く、ジャンルは子ども大人を問わずダンス系サークルや空手の利用が多かった。会議室では平日昼間の利用が多く、中高年の詩吟や朗読、音楽などの文化系サークルの利用が多かった。新たに増えたサークルでは、三線、学習（自習）、合唱などがあり、継続利用されている。
- 全体的に比較的午後から夜間にかけての利用はあるが、午前中の利用が少ないので増やしていきたい。

ウ 利用促進に向けた取組

- 6 年度も近隣の商業施設でのポスター掲示、チラシ設置を行った。SNS での発信や、活動発表の場を近隣の商業施設で行うことで、より広く活動を周知した。利用者の声を受けて、卓球、歌謡舞踊の体験会を実施した。
- 6 年度から電話やネットでの仮予約を実施した。

エ その他

- サロンの利用者数としては 1,502 名で前年度比 93%となり全体数は減少したが、6 年度に実施した事業により新たな層の利用者が増えた。事業以外の利用者としては、ほぼ毎日来られる高齢者が 1 名のほか、近隣の高齢者施設の利用者が散歩途中に立ち寄られることもあった。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ホームページ、Facebook、X、Instagram、LINE など SNS で情報を発信。
Facebook、Instagram はほぼ毎日、X でも積極的に発信している。ネット環境が整っていない高齢者層にも届くよう、リーフレットやチラシ、広報誌など紙媒体による情報発信も行った。
- 近隣の商業施設でもチラシやポスターでの情報発信を行った。イズミヤ六地藏店においては、展示スペースの空きが出るたびに、醍醐いきセンコーナーとして場所を提供していただいた。また、活動発表の場として「だいきいきフェスティバル」を開催し、活動団体には出店ブースで活動を周知する機会を提供した。
山科醍醐地域の活性化を図るプロジェクト「meetus 山科・醍醐」にも関わることができたので、関連イベントにおいて、いきセンブースで情報発信をすることができた。また、いきセンと関わりのある活動団体にも出店してもらうことで、活動を広く周知することができた。

イ 取組の効果

- イズミヤで開催したフェスティバルにおいて、来場者から歌謡舞踊体験会の実施要望があり、いきセンで体験会を実施した。
「meetus 山科・醍醐」のイベントに関わったことで、来場者の子育て世代の方からアンケートを広く収集できたので、今後の地域での事業の組み立てにおいて、参考にすることができた。

(4) 管理運営

- 建築設備、消防設備、自家用工作物の保守管理等を実施。

(5) その他

- 6 年度は特に行政と連携しての取り組みが多く、醍醐支所地域力推進室をはじめ、子どもはぐくみ室、健康長寿推進課と連携して事業を実施した。
子どもはぐくみ室との連携では、いきセン事業の「はざまカフェ」を乳幼児健診に合わせて実施した。子育て世代のお母さんの悩みを聞いたり、お母さん同士の交流の場を提供したいという「はざまカフェ」のメンバーの方が主体的に活動。
健康長寿推進課との連携では、「つながるプラットフォームミーティング」を実施した。この事業には、いきセン・醍醐支所のほか、社協・包括支援センター・福祉サービス協会・まちづくり協働コーディネーター・大学・地域の市民活動家が主体的に関わる。7 年度も継続して実施していく。
また、醍醐支所で開催の「市民対話会議」にも地域のハブとなる施設として参加。
いきセンからお声掛けをして、地域で活動する団体にも参加していただき、それぞれの活動を直に市長に届けることが出来た。

【事業名】 だいが未来プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）

- ① ふらっと相談 café
- ② だいが de ワイワイ井戸端会議「やんちゃ MTG」
- ③ 醍醐ゆめコレクション
- ④ 醍醐いきいきフェスティバル
- ⑤ だいがゆめもり秋まつり
- ⑥ 醍醐みらいユースセンター
- ⑦ サークル支援事業（ア卓球体験会 イ歌謡舞踊体験会）
- ⑧ お花見交流会
- ⑨ 連携事業（ア：辰巳保育所なつまつり イ：醍醐ふれあいプラザ ウ：みんなの文化祭 エ：つながるプラットフォームミーティング オ：ミータスラボ カ：醍醐まちづくりカフェ キ：春日野小フレンズゲームラリー ク：さくら祭り ケ：みらい食堂）

事業の概要

1 開催日時：

- ① 令和6年5月20日、6月17日、7月15日、8月19日、
9月18日、10月21日、11月18日、12月16日、
令和7年1月20日、2月17日 毎月第3月曜日 13時～15時
- ② 令和6年7月27日（土）13時～16時
- ③ 令和7年2月22日（土）11時～15時
- ④ 令和6年12月8日（日）13時～15時
- ⑤ 令和6年9月22日（日）11時～15時
- ⑥ 令和6年12月23日、令和7年1月13日、1月27日 2月10日
2月24日 3月10日 各月曜日 16時30分～20時
- ⑦ ア：令和6年8月9日（金）11時～12時、8月23日（金）11時～12時
イ：令和7年2月28日（金）13時～15時、3月10日 13時～15時
- ⑧ 令和7年4月5日（土）11時～15時
- ⑨ ア：令和6年7月19日 16時～17時
イ：令和6年10月13日 10時～14時
ウ：令和6年10月26日 11時～15時
エ：①令和6年11月25日 18時30分～20時
②令和7年3月27日 18時30分～20時
オ：令和6年12月5日～12月8日 10時～16時
カ：令和6年12月12日 16時～18時
キ：令和7年2月26日 9時～10時
ク：令和7年3月30日 10時～15時
ケ：令和6年4月～令和7年3月 各月第3日曜日 11時～13時

事業の概要

2 開催場所：

- ① 京都市だいが学園 café&shop ふらっと、醍醐いきいき市民活動センター
- ② 醍醐いきいき市民活動センター集会室、サロン、友愛ひろば
- ③ パセオ・ダイゴロー西館 2F「アトリウム」
- ④ イズミヤ六地藏店
- ⑤ 醍醐いきいき市民活動センター及び友愛ひろば
- ⑥ 醍醐いきいき市民活動センターサロン
- ⑦ 醍醐いきいき市民活動センター集会室
- ⑧ 醍醐いきいき市民活動センターサロン
- ⑨ ア：辰巳保育所 イ：折戸公園 ウ：ひと・まち交流館大会議室
エ：醍醐支所駐車場 オ：パセオ・ダイゴロー西館 2F「アトリウム」
カ：醍醐支所会議室 キ：春日野小学校体育館 ク：社会福祉法人同和園
ケ：醍醐いきいき市民活動センターサロン他

3 参加人数：

- ① 各回 3～8 名延べ 35 名
- ② 延べ 80 名
- ③ 延べ 350 名
- ④ 延べ 250 名
- ⑤ 延べ 450 名
- ⑥ 各回 4 名～20 名延べ 64 名
- ⑦ 各回 2 名延べ 8 名
- ⑧ 30 名
- ⑨ ア：延べ 60 名 イ：延べ 150 名 ウ：延べ 150 名
エ：①30 名 ②25 名 オ：延べ 900 名 カ：30 名 キ：100 名 ク：延べ 350 名
ケ：延べ 360 名

4 協力団体等：

詳細は下記①～⑨の中に記述あり

5 予算： 2,179,750 円 ／ 決算： 2,170,981 円

①ふらっと相談 café

1 事業内容

- ・地域で何か始めたい方や地域に興味を持った方が、当センターのスタッフやまちづくりアドバイザーに気軽に話や相談ができる場を提供した。
- ・ボランティアによるギター演奏のほか、今年度から新たに障害者福祉に長年取り組まれていた社会福祉士の女性にも、定年後の社会活動として福祉分野の相談をボランティアとして担っていただいた。

2 準備段階での工夫

- ・社会福祉法人京都身体障害者福祉センター 京都市だいが学園に場所の提供をしていただいた。
- ・会場である「café&shop ふらっと」においては、他のお客様の迷惑にならないよう配慮しながら実施した。ボランティアの方にギターの演奏をしてもらい、なごやかな雰囲気づくりをすることで、相談に来ることへのハードルを下げた。
- ・京都市まちづくりアドバイザーにまちづくりの相談員として同席していただき、福祉の相談については、京都市だいが学園やボランティアが対応した。

また、第3月曜日が祝日と重なる場合は、場所を変えたり、曜日を変えたりし対応することで普段来られない方にも参加してもらいやすいように配慮した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

雑談や日常会話の中で、気になることや関心事が明確になり、活動に興味を持って。もらえた。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・カフェの雰囲気も良く、気軽に来てもらいリラックスして話をする事が出来た。
- ・会場のだいが学園からの相談で、地域の子どもや高齢者の為の事業を行うお手伝いが出来た。本事業から生まれた、子ども向けアート事業「みんなでつくってあそぼう」では廃材を使ったお神輿を地域の子どもに作ってもらい、そのお神輿を「だいが夢もり秋まつり」で実際に担ぐなど、事業同士の繋がりが出来た。また高齢者向けには学生による寄席&スマホ活用講座を開催し、当センターの利用サークルの方が講師となり活躍の場を設けることが出来た。
- ・参加者がまちづくりの仕事に関する相談をまちづくりアドバイザーに行い、様々なアドバイスを受ける中で、京都市の市民活動に興味を持ち、相談者が次年度の京都市まちづくりアドバイザーに就任された。

4 今後の抱負

- ・定期的に開催することで認知度が高まり多くの方が参加してくれるが、日程の都合で参加できない方もいるため、今後また日に日時や場所を変えて、多様な方に参加していただけるように工夫していく。
- ・地域の方とのふれあいの場、地域の方が気軽に集える場として、今後も継続していきたい。

5 協力団体

- ・社会福祉法人京都身体障害者福祉センター京都市だいが学園
- ・京都市まちづくりアドバイザー
- ・地域ボランティア

事業風景の写真



②だいが de ワイワイ井戸端会議「やんちゃ MTG」

1 事業内容

・今年度は子どもを主体にし、地域の子どもたちが醍醐に住んでいてどのような事を感じているのか、またどのような地域になってほしいかをお互い聞き合う場として開催した。

2 準備段階での工夫

・参加者が気軽に来られるように、いきセン前の広場に京都市ユースサービス協会のキッチンカーを設置し、30歳以下の方には無料でクレープの配布を行った。

・小学生には、京都橘大学の学生による遊びスペースで遊びながら話を聞き、中学生以上にはボードゲームなどを用意し、空間を分けて意見を聞き出した。

・ビンゴ形式の質問カードを作成し、インタビュー形式でお互いの意見を聞き出す事により、ゲーム感覚で様々な意見を拾うことができた。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

・子どもたちが主体的に地域の未来を考える場をつくることを目的とした。

・参加しやすい環境を整え、多くの意見を引き出すことを目指した。

・地域のつながりを深め、住みやすいまちづくりへとつなげることを目標とした。

(2) 事業実施による目標の達成度・

・地域の子どもたちが、自分の住む町について考え、意見を述べる機会を得ることができた。インタビュー形式やビンゴカードの活用により、多様な意見を集め、子どもたちの声を可視化することができた。

・子ども同士だけでなく、大学生や地域の大人たちとの交流の場も生まれ、地域コミュニティの活性化に繋がった。

・キッチンカーでの無料配布や遊びスペースの設置により、幅広い層が気軽に参加できる環境を整えることができた。

【具体的な活動へ発展したもの】

醍醐には青少年活動センターが無かったため、当センターと京都市ユースサービス協会が主体となり、本格的な子どもの居場所作りの基盤を構築した。(サマーフリールーム・醍醐みらいユースセンター)

4 今後の抱負

・集まった子どもたちの意見をどのように活用していくかが今後の課題であり、地域や行政との連携を強化することで、さらに良い展開に繋げていきたい。

・イベント終了後のフォローアップ（意見をまとめて共有する場の設定など）を実施することで、事業の効果を持続させることができた。

・総じて、子どもたちの主体性を引き出しながら地域活性化に貢献する良い取り組みとなったため、来年度も同様の場を継続していきたい。

5 協力団体

・京都市まちづくりアドバイザー・京都市ユースサービス協会・京都橘大学

事業風景の写真

醍醐 de ワイワイ井戸端会議「やんちゃMTG」



③醍醐ゆめコレクション

1 事業内容

醍醐ゆめコレクション実行委員会として開催。

子ども達が自分の夢や将来の目標を発表し、みんなで応援する「ゆめプレゼンテーション」をはじめ、親子ファッションショー、キッズサークルのステージ発表、地域の市民活動団体等によるマルシェの出店や体験型ワークショップなど、多彩な企画を開催。今年3年目になる「ゆめプレゼンテーション」の企画に賛同した企業・学校・行政と連携して実施した。

2 準備段階での工夫

・「ゆめプレゼンテーション」では、子どもたちに夢を語ってもらうだけではなく、コメンテーターとして伏見東はぐくみネットワーク実行委員会の主事、大学の先生、経済同友会の方に参加していただき、応援メッセージをもらいフィードバックまで行うことで、子どもたちの夢への一歩を後押しすることができた。

・「親子ファッションショー」では、株式会社ニッセンが洋服の提供から運営までを担い、イベントを盛り上げる事ができた。

・「マルシェコーナー」では、地域で活動する子ども食堂や子育て支援団体に、安価で楽しめる屋台を出店してもらった。

「ワークショップ」コーナーでは、大学生による西陣織の端材を使った物づくりを、芝生広場では大学生が子どもたちを見守るなど、大学生に活躍の場を提供できた。

・「ステージ発表」では、当センターを利用するダンススクールの子どもたちがパフォーマンスを披露する機会を設けた。

・「芝生コーナー」では、小さな子どもがくつろげるように芝生を設置し、醍醐中央図書館の司書による絵本の読み聞かせを開催することで、子育て世代が楽しめる空間を演出した。

3 事業実施による効果・達成度

当初の事業効果、目標等

子どもたちの夢を応援し、地域のつながりを深めることを目的に、子どもたちの自己表現の場を提供し、地域で応援し合える関係の構築を目指した。

事業実施による目標の達成度

「ゆめプレゼンテーション」や「親子ファッションショー」を通じて、多くの子どもたちが自分の夢や想いを発表することができた。観客からの応援もあり、自己表現の機会を提供できた。

地域の市民団体・企業・行政・大学が協力することで、多くの来場者が参加。世代を超えた交流が生まれ、地域コミュニティの活性化につながった。

体験型ワークショップを通じて、子どもたちや親子が伝統工芸や手仕事を学ぶ機会を提供できた。参加者の満足度も高く、今後の継続に期待が寄せられた。

株式会社ニッセンや京都市はぐくみ局・支所はぐくみ室の協力により、企業の社会貢献活動と地域の子育て支援を結びつけ、持続可能な取り組みの基盤を築くことができた。

4 今後の抱負

今回の「醍醐ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」を通じて、子どもたちが夢を語ることの大切さや、地域のつながりの強さを改めて実感した。来年度は、子どもたちの「夢」をより具体的に応援する仕組みづくりや、地域と企業とのさらなる協働を強化し、より多くの子どもたちに参加の機会を提供できるように取り組みたい。また、地域文化や伝統産業の魅力を活かしたプログラムの充実にも力を入れ、地域ぐるみで子どもたちの成長を支える環境づくりを目指していきたい。

5 協力団体

・株式会社ニッセン・京都市子ども若者はぐくみ局・伏見区役所醍醐支所・伏見東はぐくみネットワーク実行委員会・京都橘大学「学まちチャレンジ！プロジェクト」醍醐いきいき市民活動センターチーム・醍醐中央図書館

事業風景の写真

醍醐ゆめコレクション



④醍醐いきいきフェスティバル

1 事業内容

醍醐いきセンで活動しているサークルの活動発表会を、近隣の商業施設にて開催した。いきセンの事業として活動している「はざまカフェ」に乳幼児向けのプレイコーナーを、京都橘大学の学生に子どもの遊びブースを、子ども食堂にあてものコーナーをそれぞれ運営してもらった。

2 準備段階での工夫

外部の商業施設で開催するため、発表者の方々にスムーズに発表していただけるよう、事前に打ち合わせとリハーサルをしっかりと行った。また、当日プログラムに各サークルの紹介を掲載し、新たなサークルの参加者の募集を行った。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

様々な立場の方々との交流を通じて、参加者が刺激を受け、地域活動が活性化され、新たなサークルが生まれることを目指した。

(2) 事業実施による目標の達成度

- ・近隣の商業施設で発表会を開催し、10組のサークルが出演して、日頃の練習の成果を発表する場を提供できた。
- ・普段なかなか見ることができない、他のサークルの活動をゆっくり見てもらうことができた。
- ・プログラムにサークルの広報を掲載し、新規メンバー加入につながった。
- ・発表会に向けた練習のため、サークルの活動時間が増えたことで、貸館の利用増につながった。
- ・多彩なブースの出店により、多くの来場者が足を止めて楽しんでもらえた。
- ・いきセンの存在を知らなかった方々にも広く周知することができた。

参加者の反応

- ・参加サークルが増えてバラエティーに富んでいて楽しかった。
- ・お客さんも会場も暖かい雰囲気だった。
- ・発表する場があるので、目標を持って取り組めて良かった。

4 今後の抱負

- ・「もう少し広いスペースで踊りたい」との要望があったため、次回の会場について再検討したい。
- ・発表者だけでなく、観覧者も楽しんでいたため、今後も継続して実施していきたい。
- ・サークル同士の交流をさらに深められるような仕組みを作り、活動のさらなる活性化を図っていきたい。

5 協力団体

- ・京都橘大学・はざまカフェ・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

事業風景の写真

醍醐いきいきフェスティバル



⑤だいがゆめもり秋まつり

1 事業内容

醍醐いきセン、みらい食堂（体験型子ども食堂）、京都橘大学が「だいがゆめもり秋まつり実行委員会」を立ち上げ、お祭りを開催した。

醍醐いきセンおよび友愛ひろばを会場とし、飲食ブースやゲームコーナーなどを設けた。

2 準備段階での工夫

ご飯ブースは子ども食堂が、ゲームコーナー（無料）は京都橘大学が担当し、多くの子どもたちに楽しんでもらうことができた。

当センター利用サークルの活躍の場としてステージ発表を行い、岩屋太鼓の会による太鼓の体験ワークショップも開催した。どちらも多くの来場者に喜んでいただいた。

また、地元の自治会にも屋台を出店してもらい、地域の子どもや大人が交流する機会を創出した。

さらに、エコまちステーションによるごみ箱の設置や環境ネットワークのブース出店により、エコ活動にも取り組むことができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

コロナ禍により地域学区の夏祭りがなくなり、地域住民同士の交流する機会が減少する中、地域住民が一堂に集まる場をつくることで住民の孤立感を防ぐことを目的とした。

また、いきセンに地域の方が足を運んでもらうきっかけにもなり、認知を広げ、貸館利用にもつながることを目指した。

（2）事業実施による目標の達成度

・いきセンのことを知らなかった方々にも多数足を運んでもらえて、センターを周知する良い機会となった。

・地域の子どもたちに、射的コーナーを自分たちで運営する機会を提供できた。

・様々な団体からボランティアを受け入れ、新たな繋がりを築くことができた。加えて、協力団体にとっても社会活動の受け入れ先として、貴重な体験の場を提供することができた。

・ボランティア同士の交流から新たな活動に発展した。また、やりがいや楽しさを知ってもらう良い機会となった。

・「はざまカフェ」によるベビー服の交換会では、今まで来られない方が来て、その後手作りの作品を寄付していただくなど、活動の周知に繋がった。

参加者の反応

・初めて出店したが子どもたちがたくさん来てくれてうれしい！

・子どもが屋台のお手伝いをしていてほほえましかった。

・次回は盆踊りもしたい。

4 今後の抱負

・今後はさらに多くの地域団体や企業、学校と連携し、出店やステージ企画の幅を広げること、より多世代が関わり楽しめるお祭りに成長させていきたい。

・また、子どもたちが運営に関わるような仕組みや、来場者同士の交流を深めるコンテンツの導入も検討し、地域の担い手を育てる機会につなげていきたい。

さらに、環境配慮の取り組みを発展させ、エコ活動の啓発にも力を入れることで、地域の未来につながる持続可能なイベントとして根付かせていきたい。

・7年度は上鳥羽北部いきいき市民活動センターにも出店していただく予定。

5 協力団体

・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）

・京都橘大学「学まちチャレンジ！プロジェクト」醍醐いきいき市民活動センターチーム

・醍醐南自治会・岩屋太鼓の会・同和園・宝生苑・深草こども食堂・京都ダルク

・京都市行政職員ボランティア

事業風景の写真

醍醐ゆめもり秋まつり



⑥醍醐みらいユースセンター

1 実施内容

醍醐みらいユースセンター実行委員会を立ち上げて開催。

地域におけるユース世代（主に中学生）の居場所不足に対応するため、市民活動センターのサロンを活用し、月2回の頻度で「ユース世代の居場所づくり」を実施しました。参加するユース世代が安心して過ごせるよう、e-スポーツコーナー、ボードゲーム、自習スペースなどのコンテンツを用意した。

さらに、共催の子ども食堂により100円カフェを毎回開催してもらい、軽食を提供した。

また、月2回のうち1回は、その月に誕生日を迎える参加者を祝う特別企画も実施し、温かみのある居場所づくりを提供した。

2 準備段階での工夫

事業の立ち上げにあたっては、地域の複数の団体と連携し、それぞれの専門性や資源を活かして準備を進めました。

京都市ユースサービス協会 → 青少年の傾向やニーズの把握、見守り体制のアドバイス、スタッフの派遣や支援をしていただいた。

子ども食堂 → 低価格での食事提供の協力、安心できる食の場の確保、調理や運営のノウハウを提供していただいた。

京都橘大学（地域連携・ボランティアサークルなど） → 学生ボランティアの確保、若者同士の距離感の近さを活かした交流支援、イベントの企画サポートや運営の協力をしていただいた。

これらの連携により、専門性と実践力のある体制を整えることができ、参加者にとっても多様で安心感のある環境を提供することができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

ユース世代の居場所を通して、地域の人や団体がつながり、協力し合う場をつくることで、市民活動の広がりや次世代支援のきっかけを生み出すこと。

（2）事業実施による目標の達成度

誕生日企画やカフェの時間などを通じて、子どもたちが「大切にされている」と実感でき、心の安定や社会性の育成につながっていると感じられた。

子ども食堂、青少年活動センター、大学といった多様な団体と連携し、それぞれの役割を活かして事業を進めることができた。

市民活動センターがその連携のハブとなることで、地域の中で自然なつながりが生まれ、ユース世代と地域を結ぶ機能を果たすことができた。

また、学生や地域住民がユース世代と関わる機会も生まれ、次世代支援や市民活動の新たな担い手づくりにつながる成果が見られた。

4 今後の抱負

回によって参加人数に差があり、安定した参加につなげる工夫や中学生が中心であり、高校生や若年層への広がりが今後の課題である。

継続的な運営のために、支援する側の人材確保に努める。

参加したことのないユース世代にも情報が届くよう、学校や地域への周知方法を見直す必要があり広報の工夫を今後していきたい。

5 協力団体

- ・京都橘大学・食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）
- ・京都市ユースサービス協会

事業風景の写真

醍醐みらいユースセンター



⑦サークル支援事業

1 実施内容

サークル作りを目的に、卓球および歌謡舞踊の体験会を開催した。気軽に参加できる活動を通して、今後のサークル活動への参加や自主活動のきっかけづくりを図ることを目的として実施した。

2 準備段階での工夫

「サークルにつなげる」という目的をスタッフ間で共有し、体験会が“単発イベント”で終わらないよう、「今後も続けたい方は…」という導線を用意した。また歌謡舞踊体験会では講師の方に来ていただき実際のサークルのイメージを持ってもらった。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

地域住民の交流機会の創出を目指し、趣味を通じた仲間づくり・孤立予防になるよう継続的な自主活動（サークル）への導入に繋げる。

(2) 事業実施による目標の達成度

参加者は少なかったが、その分しっかりと意見を聞く事ができた。

実際に今後の活動につながるきっかけとなった。

4 今後の抱負

本体験会を通じて、地域内に新たなつながりが生まれ、継続的な活動への意欲も確認できた。今後は参加者の自主性を尊重しつつ、いきセンがサポート役として関わり、持続可能なサークル運営を支援していく。また、今回の課題を踏まえ、より多様な層が参加できる仕組みを構築していく。

5 協力団体

新舞踊都流

事業風景の写真



⑧お花見交流会

1 事業内容

醍醐いきセンのサロンのお庭で、地域住民やいきセン利用団体・サークル利用者を対象にしたお花見交流会を開催しました。イベント中は自由に出入り可能とし、参加費は無料。雨天でも開催しました。いきセン利用団体による演奏会（12 時～13 時）、昨年度のいきセン事業を振り返る動画上映、飲食販売（事前予約制・当日販売あり）

2 準備段階での工夫

当センターの活動サークルと連携し、サロンの庭を使ったステージ発表を開催。

お弁当は地域の福祉施設のコミュニティカフェで発注し、地産地消につなげるようにした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

いきセン利用団体間の交流促進をし、醍醐いきセンの活動を周知してもらう。地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用をする。

（2）事業実施による目標の達成度

事業関係者といきセン利用団体間の交流促進ができた。

動画上映により、普段事業に参加しない方にもセンターの活動内容が伝わり、新たな関心を得るきっかけとなった。

演奏会を通じた文化的交流も実現し、参加者の満足度も高かった。

地域の居場所づくりの一環としての「サロン」の活用地域住民の参加率やリピート参加者の数から見て、地域交流の促進という面では目標を十分に達成。

参加者の反応

- ・桜の前で演奏しているのを聞きながら、交流するのが楽しかった。
- ・サロンの庭に出る機会がなかったので、こんな庭になっているのを知れてよかった。

4 今後の抱負

混雑時にサロンが手狭に感じられたため、導線の整理や座席配置の工夫が必要であるが、参加者さんからは満足度の高いお声をいただき来年度も実施する予定。

5 協力団体

- ・当センター利用団体・京都市まちづくりアドバイザー

お花見交流会



⑨連携事業

ア 辰巳保育所夏祭り

内容：辰巳保育所の在園時、地域の親子向けに夏祭りを開催。醍醐いきセンとはざまカフェで手作りコーナーを担当。子育て層にセンターを周知した。

効果：地域の親子が安心して参加できる交流の場となり、保育所と地域のつながりを強化することができた。いきセンの手作りコーナーは親子のふれあいを促進し、参加者の満足度も高かった。

協力団体：辰巳保育所、はざまカフェ



イ 醍醐ふれあいプラザ（主催：醍醐ふれあいプラザ実行委員会）

内容：区民ふれあい祭り。醍醐いきセンブースを出店し広く広報した。

効果：幅広い年齢層の区民が参加し、地域の一体感を高める機会となった。いきセンの参加を通じて、地域活動の認知向上にも寄与した。



ウ みんなの文化祭

内容：市民活動センター共催で、各センター利用のサークル発表会に参加。

効果：センター利用団体の活動発表の場を提供することで、市民活動の活性化と参加意欲の向上につながった。

協力団体：各市民活動センター



⑨連携事業

エ つながるプラットフォームミーティング

内容：地域において多様な主体が出会いまなび合う場「地域づくりプラットフォーム」の構築する準備開催にコアメンバーとして参加。

効果：多様な地域主体がつながる場づくりの第一歩として、参加者同士の相互理解や学び合いが促進された。今後の地域づくりの基盤形成に向けた重要な準備活動となった。

協力団体：伏見区役所醍醐支所、伏見区社会福祉協議会醍醐分室、京都市まちづくりアドバイザー



オ meetusLobo

内容：パセオ・ダイゴローを使った社会実験。醍醐いきセンブースとして子育て層の声を聞いたり広報を行った。

効果：子育て層のニーズを直接聞き取る貴重な機会となり、いきセンの情報発信・広報活動にも有効であった。商業施設を活用した実験的な取組が、新たな地域連携の可能性を示した。

協力団体：京都市、株式会社マガザン



カ まちづくりカフェ

内容：まちづくり団体と行政との交流の場として、いきセンは場の進行として参加。

効果：行政とまちづくり団体がフラットに交流できる場を提供し、協働のきっかけづくりにつながった。いきセンが進行を担うことで、ファシリテーション能力の向上と信頼構築が図られた。

協力団体：伏見区役所醍醐支所



⑨連携事業

キ 春日野小学校フレンズゲームラリー

内容：春日野小学校の行事に参加。

効果：子どもたちの交流と主体性を育む機会となり、学校と地域をつなぐ取組として保護者・教職員からも好評を得た。いきセンの地域連携の一環として、教育分野との協力体制を強化した。

協力団体：春日野小学校



ク さくら祭り

内容：社会福祉法人同和園にて、同和園さくら祭り実行委員会として「さくら祭り」を開催し、いきセンもブース（ドリンクコーナー）として出店。

効果：高齢者施設における地域開放イベントとして、住民との交流を深める場となった。いきセンのブースは世代間交流の促進に寄与し、福祉と地域活動の橋渡し役としての意義を発揮した。

協力団体：社会福祉法人同和園、京都醍醐北郵便局、京都福祉サービス協会醍醐事務所、京都橘大学、京都市だいが学園、京都市やましな学園、三笑堂、すばる醍醐、たのしい家醍醐、醍醐の家ほっこり、TACOSBOX、つばさクラブ少年団、社会福祉法人やましなの里、POLA LEI SALPN、ヒノリーノ、宝生苑、メナード、食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会（みらい食堂）



ケ みらい食堂

内容：食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会が主催で、醍醐いきセンのサロンにて、毎月第3日曜日に開催。3年前の団体立ち上げに関わったことでサロンを定期的に利用し、いきセンの和室をボランティアスタッフの控室として利用するなど、貸館利用にもつながった。単なる子ども食堂ではなく、子どもたちや親子で様々な体験ができる子ども食堂として認知され、醍醐支所の事業とのコラボも実現。7年度は企業とのコラボ事業も実施予定。

協力団体：食を通じた文化体験プロジェクト実行委員会



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】文化サロンづくり「みんなのアトリエ」（サロン運営・活用事業）

- ① まちかど美術館
- ② カルチャースペース（A 尊鉢さんのギターで歌おう！Bブック&レコードサロンC書き方教室D一穂の部屋）
- ③ 図書館との連携 絵本サロン
- ④ はざまカフェ

事業の概要

1 開催日時：

① 令和6年4月～令和7年3月

② A 令和6年6月～令和7年2月（各回13時～15時 計9回）

令和6年6月13日（木）、7月11日（木）、8月8日（木）、9月12日（木）、
10月10日（木）、11月14日（木）、12月12日（木）、令和7年1月9日（木）、
2月13日（木）

B 令和6年6月～令和7年2月（各回14時～16時 計9回）

令和6年6月15日（土）、7月20日（土）、8月17日（土）、9月21日（土）、
10月19日（土）、11月16日（土）、12月21日（土）、令和7年1月18（土）、
2月15日（土）

C 令和6年6月～令和7年2月（各回13時～15時 計16回）

※令和6年7月3日（水）は中止。（スタッフ体調不良のため）

令和6年6月19日（水）、7月17日（水）、8月7日（水）、8月21日（水）、
9月4日（水）、9月18日（水）、10月2日（水）、10月16日（水）、11月6日
（水）、11月20日（水）、12月4日（水）、12月18日（水）、令和7年1月8日
（水）、1月22日（水）、2月5日（水）、2月19日（水）

D 令和6年6月～令和7年2月（毎回13時～15時 計13回）

※令和6年6月28日（金）と7月5日（金）は中止。（本人体調不良のため）

※令和6年8月中と9月中は猛暑のため中止する。

令和6年6月21日（金）、7月12日（金）、7月19日（金）、7月26日（金）、
10月23日（水）、11月13日（水）、11月27日（水）、12月11日（水）、12月
25日（水）、令和7年1月15日（水）、1月29日（水）、2月12日（水）、2月26
日（水）

③ 第1回 令和6年9月27日（金）14時～15時

第2回 令和6年11月29日（金）14時～15時

④ 令和6年4月～令和7年3月 計15回

a 令和6年4月19日（金）12時～13時

b 令和6年6月24日（月）10時30分～13時30分

c 令和6年7月19日（金）16時～17時

d 令和6年8月19日（月）13時～15時

e 令和6年9月6日（金）13時～16時

f 令和6年9月22日（日）11時～15時

g 令和 6 年 10 月 5 日（土） 11 時～15 時
h 令和 6 年 11 月 28 日（木） 13 時～16 時
i 令和 6 年 12 月 7 日（土） 10 時～15 時
j 令和 6 年 12 月 8 日（日） 13 時～16 時
k 令和 6 年 12 月 15 日（日） 11 時～14 時 30 分
l 令和 7 年 1 月 25 日（土） 11 時～13 時
m 令和 7 年 2 月 22 日（土） 10 時～14 時
n 令和 7 年 3 月 2 日（日） 10 時 30 分～12 時
o 令和 7 年 3 月 26 日（水） 11 時～13 時

2 開催場所：①～④ サロン「おいない」

※④→サロン「おいない」以外の開催については、以下のとおり。

辰巳保育所（c）、醍醐支所（e h）、イズミヤ六地藏店（j）、京都橘大学（k）
パセオ・ダイゴロー（i m）、醍醐中央図書館（n）

3 参加人数：①延べ 1495 名 ②A 計 27 名 B 計 57 名 C 計 85 名 D 計 31 名

③第 1 回（9/27）12 名 第 2 回（11/29）6 名 ④計 236 名（イベント出店を除く）

4 協力団体：①春日丘センター ③醍醐中央図書館、④辰巳保育所（c）、だいが学園（d）、
醍醐支所（e h）、京都橘大学（k）、醍醐中央図書館（n）

5 予算： 2,072,200 円 / 決算：2,073,406 円

① まちかど美術館

1 事業内容

地域の高齢者施設「春日丘センター」の利用者が作成した手作り作品を展示した。

2 準備段階での工夫

春日丘センターは近隣の施設であり、日常からセンターのスタッフとコミュニケーションをとっているため、スムーズに展示することができた。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

近くにある高齢者施設の利用者の手作り作品を展示することで、地域間交流を図ることを目標にした。

（2）事業実施による目的の達成度

春日丘センターのスタッフの減少や利用者の高齢化により、前年度と比べると展示の頻度が少なくなった。

4 今後の抱負

今後、展示の頻度が少なくなることが予想されるが、展示を継続することにより、地域の高齢者の生きがいづくりを行い、地域間交流を図っていきたい。

事業風景の写真

① 「まちかど美術館」



② A 尊鉢さんのギターで歌おう！

1 事業内容

尊鉢さんのギター演奏で参加者が懐かしい歌を歌ったり、ゆっくりおしゃべりする場をつくった。

2 準備段階での工夫

歌集（2冊）を用意して、参加者に使用してもらった。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

参加者がみんなで歌を歌いおしゃべりすることによって、参加者が交流して楽しむ場をつくることを目標にした。

（2）事業実施による目標の達成度

地域に引っ越してこられた方がチラシを見て参加され、知り合いや仲間をつくる場になった。参加人数は少なかったが、当初の目標は達成できた。

○参加者の反応

一人住まいのご高齢の方が、懐かしい歌を歌ったり、聴けるといことで毎月楽しみにしているという感想をいただいた。

4 今後の抱負

高齢者ばかりでなく、若い方も参加できるように工夫したい。

事業風景の写真

② A「尊鉢さんのギターで歌おう！」

本日開催

尊鉢さんのギターで歌おう!

尊鉢さんのギター演奏で歌いませんか?
懐かしい歌を歌ったり、
ゆっくりおしゃべりしたり…
みんなで楽しみましょう!

尊鉢さん ことし
生ギター演奏は「尊鉢 敏史さん」

中学生からアコースティックギターを弾き始め、昭和40年代のフォークソングの洗礼を受ける。
那珂市内の各地で弾き語りを行うかたわら、日本各地を旅する“自由人”。

毎月第2木曜日
13～15時
参加費無料
事前申込不要

時間：13:00～15:00 (時間中の入退室自由)

参加費：無料
対 象：どなたでも

いつでも都合の良い日に
ご参加ください!

開催予定日 (令和6年6月～令和7年2月まで、開催日は都合により変更の可能性あり)
令和6年6/13、7/11、8/8、9/12、10/10、11/14、12/12 令和7年1/9、2/13

♪毎週
♪演奏
♪歌謡曲など



②B ブック＆レコードサロン

1 事業内容

参加者によるおすすめの本と音楽（レコード、CD 他）の紹介の場。参加者同士でおしゃべりして交流する。

2 準備段階での工夫

サロン事業全体のチラシを小冊子として春先に一括で作成し広報を行った。「ブック＆レコードサロン」は毎月 1 回の開催で年間 9 回開催したが、個々のチラシは作成せずに SNS で直前広報して集客を行った。

3 事業実施による効果、目標等

（1）当初の事業効果、目標等

本や音楽（レコード）が生み出すつながりによって幅広い世代が集いそして参加者が交流する場をつくることを目標にした。

（2）事業実施による目標の達成度

本を媒介に新しい出会いの場として参加者が繋がっていった。

- ・参加者の世界が広がり、参加者が多角的な視点を持つことができた。
- ・世代間交流が図られた。

以上の 3 点から、事業として成功したと考えている。

○参加者の反応

「対話すること、会話することの大切さを実感した。」

（第 4 回「ブック＆レコードサロン」参加者の声）

「化学反応が起きるようなゲストの方（本の紹介者）の話が良かった。」

（第 6 回「ブック＆レコードサロン」参加者の声）

4 今後の抱負

「対話すること」「会話すること」の重要性をサロン事業を展開して痛切に感じている。さらに多世代が交流できる場を創出したい。

事業風景の写真

② B「ブック＆レコードサロン」



②C 書き方教室

1 事業内容

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しみ、ゆったりする場をつくった。

2 準備段階での工夫

筆や墨、半紙など必要なものは、すべていきセンで用意した。参加者の方が気軽に参加できるようにした。月2回開催で月毎にお手本を変えて、参加者に配布した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

いきセンのスタッフと一緒に気軽に「書」の時間を楽しむ場をつくることを目標にした。

(2) 事業実施による目標の達成度

気軽に「書」ができる場をつくったことが、リピーターを生み、サロンが活性化した。

○参加者の反応

「習字をするのは小学校以来で楽しかった。」

「おしゃべりしながら習字ができるのが楽しい。」

4 今後の抱負

好評につき次年度も実施を予定している。次年度は参加費は無料ではなく有料としたい。

事業風景の写真

③ C「書き方教室」

本日開催

書き方教室

毎月第1,3
水曜日

いきセンのスタッフと一緒に
お気軽にお習字やペン習字をしませんか？
ゆったりとした時間を楽しみましょう！
※講師はおりません



時間：13:00～15:00 入退室自由
参加費：無料 対象：どなたでも

開催予定日
(令和6年6月～令和7年2月まで、開催日は都合により変更の可能性あり)
令和6年6/19、7/3、7/17、8/7、8/21、9/4、9/18、10/2、
 10/16、11/6、11/20、12/4、12/18 **令和7年**1/8、1/22、2/5、2/19

筆ペンや筆など
必要なものはこちらで
ご用意しております



②D 一穂の部屋

1 事業内容

地域で居場所づくりをしたい田中一穂さんと一緒におしゃべりする場をつくった。10 月からは、みんなで絵手紙をつくった。

※田中一穂さん…傾聴ボランティアの経験を活かして、20 数年間、地域の高齢者施設を訪問。地域で公園体操のリーダーを務めている。

2 準備段階での工夫

6 月から毎週開催でスタートしたが、7 月まで参加者はゼロだった。その後、一穂さんと内容の検討を重ね、10 月から月 2 回の開催とし「一穂さんと一緒に絵手紙をつくる」という内容にした。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

田中一穂さんと自由におしゃべりしたり、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、身体を動かしたりというような「地域の居場所づくり」を目標にした。

(2) 事業実施による目標の達成度

当初、事業内容があいまいだったため、参加する側からは「何をする場なのか」がわかりにくく、参加者がゼロの状態が続いた。年間を通してみると、目標は達成できなかった。

4 今後の抱負

「一穂の部屋」と「書き方教室」の参加者が重なっているので、次年度は「書き方教室」に一本化したいと考えている。

事業風景の写真
②D「一穂の部屋」



③図書館との連携

絵本サロン

1 事業内容

「絵本専門士」の図書館司書による大人のための絵本紹介と読み聞かせ

○協力団体

京都市醍醐中央図書館

2 準備段階での工夫

参加者のターゲットを大人（一般）に絞った。

年間で2回開催することにより、絵本に興味のある一般の方が、少しでも多く参加できるようにした。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果、目標等

地域の図書館といきセンが連携、協力して、地域にお住まいの方とりわけ高齢者の孤立を防ぐ取り組みを行う。

（2）事業実施による目標の達成度

参加者（地域にお住まいの方や絵本に興味のある方）に満足度の高いイベントを提供することができた。

○参加者の反応

「このような機会はないので、また参加したい。」（第1回の参加者の声）

「とても素敵な可愛いまた興味ある絵本ばかりで、大変楽しい時間を過ごすことができた。」

（第2回の参加者の声）

4 今後の抱負

引き続き図書館と連携して高齢者を対象とした企画を考えていきたい。

事業風景の写真

③図書館との連携 「絵本サロン」

京都市 読みたいいき市民活動センター・読書中央図書館 協力事業

参加：無料
申込：不要
対象：大人

絵本を楽しむ午後のひととき

絵本サロン

「絵本専門士」の絵本推薦による
絵本の紹介と読み聞かせ

絵本は子どもだけのものではありません。
大人もこころをのびる
絵本の魅力に魅かれてみましょう。

絵本専門士とは？
読書中央図書館から認定される絵本に関する
高度な知識、技術及び経験を有する絵本の専門家。

第1回
令和6年9月27日(金)
14:00～15:00

第2回
令和6年11月29日(金)
14:00～15:00

場 所：読みたいいき市民活動センター サロン「おひな」
参加費：無料
対 象：一般（大人）
申 込：不要（当日参加可）

【お問合せ】
京都市読書
いきいき市民活動センター
〒601-1203
京都市伏見区醍醐中山街道21-21
☎ 075-571-0035
FAX 075-573-5224
開館時間 月～土 10時～17時
日 12時～17時

主催：読書中央図書館・いきいき市民活動センター
協賛：読書中央図書館・いきいき市民活動センター
後援：京都市読書中央図書館・いきいき市民活動センター
協賛：京都市読書中央図書館・いきいき市民活動センター
協賛：京都市読書中央図書館・いきいき市民活動センター

※申込は不要です。当日参加可です。

●申込方法：読書中央図書館・いきいき市民活動センターへ電話またはメールにてお申し込みください。
●開催日時：令和6年9月27日（金）14:00～15:00、11月29日（金）14:00～15:00
●開催場所：読書中央図書館・いきいき市民活動センター（京都市伏見区醍醐中山街道21-21）
●お問い合わせ：読書中央図書館・いきいき市民活動センター（電話：075-571-0035、メール：yokoyama@city.kyoto.jp）



④はざまカフェ

1 事業内容

ベビー&キッズ用品交換会を中心として、子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を醍醐の各地で実施した。

2 準備段階での工夫

はざまカフェの活動を地域の方に認知してもらうために、行政、大学および各施設の協力を得て、ベビー&キッズ用品交換会を数多く実施した。

また学童期のニーズに応えるために、さくらや京都店の協力で新たにランドセル・学用品譲渡会を実施した。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

子育て中の方がほっと一息つける企画やお子さん向けの企画を行い、地域で子育てについて気軽におしゃべりをして交流する場をつくる。

(2) 事業実施による目標の達成度

「はざまカフェ」として、この1年間いろいろな取組みができて、繋がりが広がった。

ただイベントを実施することに追われてしまい、子育てについてじっくり話ができる場をなかなかつくれなかった。

○参加者の声

ベビー&キッズ用品交換会を醍醐支所と醍醐中央図書館でそれぞれ行ったが、両方の施設から今後も行っていきたいという声があがっている。

- ・ベビー&キッズ用品交換会は参加者から喜ばれている。
- ・ランドセル・学用品譲渡会が好評だった。(f)
- ・おしるこづくりで、お餅が大好評だった。(j)

4 今後の抱負

- ・今年度開催したイベントの参加者から1名が新しく「はざまカフェ」のメンバーに加わった。活動が広がっていきなかで、メンバーとスタッフの人数が不足している。今後、メンバーの増強とボランティアスタッフの確保に力を入れていく。
- ・お母さん同士がじっくり子育てについて話ができる場づくりを考えていく。
- ・いきセンとして来年度も引き続き「はざまカフェ」の活動をサポートしていく。

事業風景の写真

④はごまカフェ



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和6年度実績：1,495,480円（前年度比98%）

〔内訳 会議室等：1,438,600円
 附属設備：56,880円 ※自主事業分を除く〕

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和6年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
63.3%	33.2%	3.1%	0.0%	0.3%

(2) センター独自アンケート

○概ね満足

温かい雰囲気でした。楽しかったです。(醍醐いきいきフェスティバル)

子どもを地域で囲む大切さをもっといろんな形でアピールしてほしい。子どもの人数の低下が気になります。(醍醐ゆめコレクション)

3 意見等への主な対応状況

○「着替え中に扉を開けられるのは恥ずかしいので控えてもらいたい。高校生とかもいるため少し困る。」の声を受け、スタッフには利用者の在室中は必ず声をかけてから入室するよう徹底した。利用者には利用時間内に着替えを終えて退室していただくよう伝えた。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・貸館については、新たなジャンルの利用者が増えたほか、一旦他の場所で活動されていた団体が戻って来られるなど明るい兆しも見えてきた。6年度から実施した電話とオンラインによる仮予約も、少しずつ利用が増えてきた。数字は以前厳しいものとなっているが、今後増やせるよう SNS で発信するなど広報に努めていきたい。

・市民活動支援・活性化事業については、他団体と連携して行うことが多い一年であった。連携先も多岐にわたり、それぞれの活動に刺激を与えるものとなった。連携することでプラスの相乗効果も生まれ、地域にも還元されることとなった。7年度はさらに発展した事業として、地域で活動したい企業と連携して事業展開を図りたい。

・サロン運営・活用事業については、年齢を問わず居場所となる「きっかけを作る」ことを心掛けた。「きっかけ」が習字や音楽、本、ベビー服の交換会など、ここに来たら何かがある、そんな場を意識しながら事業を実施した。参加者からは高評価が得られた。

・その他の事業として、各いきセンとしみセンとで「みんなの文化祭」を開催した。スケジュール的になかなか厳しいところもあり、しっかりと運営に関わることができなかったが、参加されたサークル団体からは良かったとの声をいただいた。

・6年度はこれまで以上に他団体から声がかかる形での連携事業や、実行委員会形式で実施する事業が多かった。連携先と打合せを重ねて事業を実施することでお互いの信頼関係がより深まった。地域を良くしたい、地域に何か変化をもたらしたいという思いは同じで、7年度も引き続き関係性を深めて、地域に根差した活動を行っていきたい。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

○ 特になし

京都市醍醐いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名：株式会社ワン・ワールド

代表者名：山口 勝広

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		15,296,150	15,296,150	0
利用料金収入		2,640,000	1,495,480	▲ 1,144,520
	会議室等	2,580,000	1,438,600	▲ 1,141,400
	スモールオフィス			0
	付属設備（自主事業を除く）	60,000	56,880	▲ 3,120
その他収入	個別事業参加費 （だいが未来プロジェクト）		5,000	5,000
	利用団体（みらい食堂）		1,450	1,450
	光熱水費			
	個別事業飲料代 （だいが未来プロジェクト）		26,450	26,450
				0
				0
当期収入合計		17,936,150	16,824,530	▲ 1,111,620
人件費		9,900,000	8,865,088	1,034,912
	職員2名	4,800,000	4,740,000	60,000
	非常勤職員4名	3,300,000	2,659,080	640,920
	法定福利費	1,200,000	1,203,508	▲ 3,508
	福利厚生費	600,000	262,500	337,500
光熱水費		1,512,000	1,429,263	82,737
	電気代	1,320,000	1,262,176	57,824
	ガス代	120,000	95,941	24,059
	水道代	72,000	71,146	854
施設管理費		991,540	972,840	18,700
	樹木剪定	110,000	115,500	▲ 5,500
	定期清掃等	55,000	49,500	5,500
	機械警備	244,200	244,200	0
	消防保守点検	63,800	63,800	0
	E V保守点検			0
	空調保守点検			0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検			0
	自家用電気工作物	266,640	266,640	0
	雑用水用給水設備			0
	建築設備点検	159,500	140,800	18,700
	空気環境測定等			0
	廃棄物処理	92,400	92,400	0

事務費		812,660	1,026,109	▲ 213,449
	電話代	168,000	162,012	5,988
	事務用品	338,660	458,919	▲ 120,259
	雑費	306,000	405,178	▲ 99,178
修繕費		450,000	96,800	353,200
	外灯改修工事代	450,000	33,000	417,000
	誘導灯改修工事代		63,800	▲ 63,800
				0
備品購入費（5万円以上の物品）				0
				0
				0
				0
				0
租税公課				0
				0
				0
				0
				0
その他		18,000	17,680	320
	賠償責任保険料	18,000	17,680	320
				0
施設運営業務支出合計		13,684,200	12,407,780	1,276,420
市民活動支援・活性化事業費		2,179,750	2,170,981	8,769
	だいき未来プロジェクト	2,179,750	2,170,981	8,769
				0
				0
				0
				0
サロン運営・活用事業費		2,072,200	2,073,406	▲ 1,206
	文化サロンづくり 「みんなのアトリエ」	2,072,200	2,073,406	▲ 1,206
				0
				0
その他	事業実施業務繰越			0
事業実施業務支出合計		4,251,950	4,244,387	7,563
当期支出合計		17,936,150	16,652,167	1,283,983
当期収支差額		0	172,363	172,363

令和6年度 事業報告書 伏見いきいき市民活動センター

【指定管理者：まちとしごと総合研究所】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 10 名（常勤：1 名/非常勤：9 名）

【人材育成の取組】

- ・公共施設の運営、管理における基本的な業務については、OJT を行い、各スタッフが適切に業務を実施できるようにしています。
- ・全体での研修を通して、市民活動センターのスタッフとしての支援力向上やノウハウ共有などを行っています。
- ・定期的な面談を通して、各自のスキルアップやキャリア形成、ワークライフバランスを確認する機会をつくっています。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
257	279	266	264	232	268	272	260	233	215	250	253

(年間)

3049 件（前年度比 93%）

イ 利用状況

- ・昨年度に比べて、全体の件数は減少しました。特に 8 月、2 月、3 月は、昨年度と比べると約 40 件減少しました。8 月の猛暑や 2 月、3 月の厳寒などの気候が 1 つの要因となっている可能性があります。
- ・音楽室は、他の部屋に比べて料金が安いことに加えて、少人数での利用や当日予約も増えてきています。
- ・会議室 305、会議室 306 は、平日土日いずれも夜間利用が多くありました。定期利用団体が増えたことで希望日時が被ることがありました。対応として、新たに会議室 202 に移動式鏡を設置しました。一方で、日中(13 時～17 時)の時間帯は空いていることもあり、利用促進をしていく必要があります。
- ・集会室は、地域住民から「吹奏楽団の打楽器の音が気になる」という声があったため、土曜日夜間の楽器利用を制限しました。そのため、集会室夜間の利用件数、利用時間が減少しました。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・館外の歩道に面している掲示板でセンターの会議室の紹介を行いました。どのようなお部屋があるかわかるよう、お部屋の写真を掲示しました。加えて、利用団体のメンバー募集チラシやイベントチラシを掲示することで利用内容に興味を持っていただき、センターを訪ねていただくように工夫しました。実際に、「掲示板を見て来館した」や「前を通り気になって、問い合わせした」というように利用につながりました。

ウ 利用促進に向けた取組

- ・リーフレットを再度印刷し、伏見区内の飲食店や関係機関への配架を行いました。
- ・利用目的に特化した宣伝物を作成しました。例えば、「音楽」での利用を考えている方には、音楽でおすすめの部屋のみをピックアップし、宣伝を行いました。楽器店やピアノ教室などに直接持参し、伏見区内での認知度アップを目指した行動を行いました。
- ・伏見区民、近隣住民にセンターの存在を知ってもらうために、センター入口にセンターのことを紹介する掲示物を設置しました。センターの存在を通りがかる方や市バス利用者に知っていただくきっかけをつくりました。

エ その他

サロン利用人数(述べ) : 2691 名(昨年度 : 2916 名)

- ・館外に掲示しているお知らせや予定表を見て、興味を持ってくださる方がいました。そのような方に対しては、スタッフとのコミュニケーションにより、館内に入っていただき、詳しい取り組みの紹介や参加をしていただきました。
- ・以前からサロンに来られていた方がご友人やご兄弟を誘って、サロンに参加するというながれができています。
- ・自由来館においては、未就学児を連れのお父さん、お母さんもサロンを訪ね、遊具で遊ぶなどの姿がみられました。

(3) 情報発信等

ア 取組実績

- ・SNS(Twitter、Facebook、Instagram)にて、事業の様子や貸館情報を定期的に発信しました。
- ・SNS においては、協力いただいた団体をタグづけすることでセンターだけでは届くことが難しい層への発信を行い、センターを知っていただく機会としました。加えて、センターに関連した投稿をしてくださった方には、いいねやコメントなどセンターからリアクションを返すことも心がけました。
- ・伏見区の市民活動を応援する助成金情報を発信しました。
- ・センターまでのアクセスに関する問い合わせを受けることから、SNS で最寄駅からセンターまでのルートを動画にして、発信をしました。センターSNS をフォローしてくださっている方はもちろん、動画で発信することでセンターを知らない層にも届けることができました。

イ 取組の効果

- ・事業と関わりのある方が、SNS でのシェアやコメントなどリアクションをしてくださり、SNS を通した交流を行うことができました。

(4) 管理運営

- ・法定点検としてある、消防用設備点検、空調保守点検、建築設備点検、定期清掃などは業者に依頼し、期日までに実施をしました。
- ・上記の法定点検以外にも、日常的に施設の維持管理をチェックシートをもとに定期的に行いました。

- ・防火管理者の選定、消防訓練など緊急時の対応を検討しました。
- ・その他、備品等の保守管理、保安警備業務等を実施しました。

(5) その他

- ・センター運営において気になる点や改善点があれば、スタッフ全員が出席する定例会議において全体で検討を行い、アイデア出しや提案を行いました。
- ・高校、大学などの教育機関と連携し、地域での学生の活動コーディネート(龍谷大学政策学部 Ryu-SEI GAP)や学校運営協議会への出席(京都府立京都すばる高等学校)、高校の探求の授業へのアドバイザー(京都橘高等学校)を行いました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト

～新しいチャレンジを生み出す支援プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月(全6件)
- 2 開催場所：淀児童館、南浜児童館、稲荷小学校、深草商店街、藤森神社、京都信用金庫伏見支店
- 3 参加人数： 6団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：1,470,000円 / 決算：1,433,124円

1 事業内容

地域での活動の中には、毎月定期的に行っている居場所や子ども食堂、季節イベントがあります。運営側は、工夫を凝らして内容を実施していますが、自分たちだけで新しい内容を考えるには限界があります。

一方、センター利用団体のなかには、地域で活動を発表する機会を探しているケースも少なくありません。活動を発表することを目標に日々の練習を頑張ることができるという声もよく聞かれます。

そこで、活動メニューに悩む地域団体と活動の機会を求めるセンター利用団体を結び、新しいつながりを築く取り組みとして昨年度に続き、今年度も実施しました。今年度は、6件のご相談をいただき、地域とセンター利用団体をお繋ぎしました。

2 準備段階での工夫

伏見区内の活動団体やイベント主催者に直接連絡を取り、センターの取り組みを紹介しました。一方的な連絡で終わらせるのではなく、地域側の状況を理解したうえでどのようなメニューが提供できるか考えました。また、事前うちあわせを必ず行い地域、利用団体ともに顔の見える関係性が気づけるような工夫を行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

定期的に居場所づくりを行う活動団体や地域で新しいイベントを開催する団体に対し、メニュー提供やゲスト探しを簡易にすることで、実施のハードルを下げます。昨年度のつながりを継続させながら、新規依頼獲得を目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度は、6件の依頼がありました。初めてご依頼いただく地域団体、施設もあり、継続的に事業を実施していることで事業の認知度が深まっていることがわかりました。また、今回初めて事業に協力いただいた利用団体もあり、今までは異なる団体を地域に繋げることができました。依頼数は、昨年度に比べると減少しました、地域・利用者双方から事業について

好評な声をいただくことができました。

例えば、今までコンクールに向けて練習を重ねていた吹奏楽団が児童館で演奏した事例では、観客の近くで演奏することでダイレクトに反応を得られたことに対し、利用団体は楽しさを感じ、「今後も地域での演奏を定期的に受け入れていきたい」という発言がありました。また、一昨年度から継続して依頼をいただいている商店街イベントでは、昨年度の様子が参加者から好評であったため、今年度も再度ご依頼をいただきました。さらに、昨年度のイベントの様子をご覧になった近隣の商店街からも、ご依頼をいただきました。加えて、児童館での将棋教室においては、昨年度事業を活用した児童館と今年度新たに事業を活用した児童館との間で合同将棋教室が実施され、当センターの事業を起点としたつながりの波及が見られました。

4 今後の抱負

昨年度からご依頼いただいている事例については、地域団体とセンター利用団体との間で一定の信頼関係が構築できることから、今後は当センターが間に入らずとも、両者間で主体的に連携・調整いただけるよう、自走化を支援していくことを目指します。

今年度は新規のご依頼が少なかったため、次年度に向けては、当センターの取り組みをより広く周知し、新たな連携機会の創出に繋がるよう、情報発信の方法や対象の見直しなど、「届ける工夫」を検討・実施します。



【事業名】伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト

～市民の学び・対話の場づくり事業

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター 会議室 101
- 3 参加人数：述べ31名
- 4 協力団体等： 実行委員会形式で行った場合はその団体名 等
- 5 予算：1,520,000円 / 決算：1,408,496円

1 事業内容

地域課題や社会課題をテーマに、市民が関心のあるテーマをゲスト講師による講演と参加者同士のディスカッションを行うワークショップを開催します。今年度は、「自治会・町内会」をテーマに現役役員や住民を招き、各地域の運営における工夫や課題を共有する場をつくりました。特に、先進的な取り組みを行う自治会・町内会の事例紹介を通して、参加者が地域活動のヒントを得ることを目指しました。

ゲストとして、自治会をサポートする有志グループを結成し、自治活動を後方的に支援する取り組みを行っている地域や、自治会の会員制をなくし、協力金制とすることで住民が関わる余地をつくっている地域などをお招きしました。

2 準備段階での工夫

自治会・町内会のサポートされている方や実際の役員さんたちにもお話を聞きするなかで、抱えている課題について深めていきました。どの地域でも「高齢化」、「担い手不足」、「情報発信方法」などの共通している課題が多くありました。参加される方が興味を持ってくださるようなテーマを選び、実施しました。自治会・町内会の会長さんや役員さんに対して直接お声がけやご連絡をし、参加を呼びかけました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

毎回ごとに自治会・町内会で地域地域づくりに取り組んでいる方々にお越しいただき、運営の中で直面している課題や、その解決のための工夫やアイデアについて伺います。参加者がこうした事例から学びを深め、自分の地域に役立つ知見を持ち帰ることができるような機会を提供します。また、参加者同士の情報交換・交流の場とすることで地域で同じように感じている仲間がいることを感じていただけることを目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

参加者は、京都市内はもとより、長岡京市、宇治市など近隣地域からも熱心なご参加をいただきました。参加者からは、地域特性や世帯構成などが地域によって異なるため、単一の事例をそのまま自地域に適用することは困難であるものの、本事業を通じて、それぞれの地域で応用可能なヒントを得るために参加したという声が多く聞かれました。

また、各回の終了後には、参加者間での個別な質疑応答や情報交換が活発に行われ、当初の目標通り、地域活動に携わる方々の交流の場として機能いたしました。

アンケートでは、「大変満足」との回答が 60%、「満足」との回答が 40%となり、参加者のみなさんには満足いただける内容であったと評価しています。「今後の自治会活動の参考になった」、「具体的な内容を丁寧に話していただいたことで今後考えていくヒントをいただくことができました」といった意見が寄せられ、参加者が本事業で得た学びを自身の地域に持ち帰り、活用しようとする意欲が窺えました。

4 今後の抱負

参加者のみなさんから本事業の継続的な実施を望む声が多数寄せられています。このため、「自治会・町内会」をテーマとした取り組みについては、今後も検討していきたいと考えています。また、センターとしては、事例紹介にとどまらず、地域課題の解決に向けたより具体的な支援の検討を行なっていきたい。



【事業名】市民活動団体や地域団体の伴走支援プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター
- 3 参加人数：2団体
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算：778,000円 / 決算：736,209円

1 事業内容

今年度も引き続き、伏見区内の市民活動団体や地域団体、学生団体を対象にそれぞれが抱える課題に対しての伴走支援を行います。団体が抱える課題を明らかにするための対話をコーディネーターが行い、解決のための要点を可視化します。必要に応じて、専門家や先進的に同様の課題に取り組む団体からアドバイスをもらうセッションや、ワークショップを実施します。

今年度は、伏見区久我地域で子どもを中心とした地域の居場所づくりを行う「ゆるくる実行委員会」、センター周辺中学校に通う、中学生に対して学習支援活動を行う「STUDY ONE」、2団体の伴走支援を行いました。

2 準備段階での工夫

団体の状況に合わせたサポートを行うため、個別のヒアリングを行いました。ヒアリングでは、団体の概要、活動内容や課題をお聞きしました。活動団体においては、日々の活動を行うことで精一杯になり、じっくりと団体の活動について振り返る時間を取れておらず、またそういったことを話す相手も限定的であったため、アウトプットする時間となるようにじっくりとヒアリングを行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

専門家や一歩先を進む活動団体に課題に対してアドバイスや工夫を聞き、課題を抱えている団体のヒントとなるような場をつくります。また、団体が話を聞いて終わりではなく、話を踏まえてアクションするまでをサポートします。団体の抱えている課題によっては、専門家の話を聞く機会を提供するのではなく、センターの施設を活用した取り組みを展開してもらいます。

(2) 事業実施による目標の達成度

団体だけでは、解決が難しい課題に対して、少し先行く団体の活動の工夫を知ること、自分たちの団体に活かす工夫を行っていました。アドバイス側においても、活動団体が使用できるようなフォーマットや実践的なアドバイスの提供があり、活動団体がさらに活動を進めていくための参考になりました。

「客観的に自分たちの活動を見つめ直すことができた」、「行動した後に言葉にして振り返ることで自分たちの変化にも気づけた。」という声をいただきました。

また、定期活動をセンターで行なっている団体においては、対象者の親御さんから問い合わせの連絡がありました。実際の活動に参加するところまでは、難しかったが、公共施設とセンターの特性から安心感を感じてもらうことができました。

4 今後の抱負

市民活動センターとして、引き続き伏見区内の活動団体の支援を行なっていきます。どのような支援が必要とされているか、活動団体のみなさんの声を聞きながら、事業の見直しも行います。



【事業名】多世代交流拠点 きょういく基地プロジェクト

事業の概要

- 1 開催日時：2024年5月～2025年2月
 - ・まーじゃん塾：20回
 - ・ハンドメイドサロン：9回
 - ・コグニステップ：9回
 - ・笑いヨガ：7回
 - ・うたごえサロン：8回
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ・リズムステップ)：27回
 - ・おしゃべり手芸サークル：10回
 - ・筋トレ体操：20回
 - ・にこにこルーム 10回
- 2 開催場所：伏見いきいき市民活動センター サロン
- 3 参加人数：
 - ・まーじゃん塾：述べ500名
 - ・ハンドメイドサロン：述べ68名
 - ・コグニステップ：述べ68名
 - ・笑いヨガ：述べ42名
 - ・歌声サロン：述べ162名
 - ・いきいき筋トレ(ロコステップ・リズムステップ)：述べ445名
 - ・おしゃべり手芸サークル：述べ33名
 - ・筋トレ体操(足上げ)：述べ457名
 - ・にこにこルーム：述べ35名
- 4 協力団体等：なし
- 5 予算： 982,000 円 / 決算：981,506 円

1 事業内容

今年度も、シニアの得意や好きなことを活かし、仲間を募り、活動をスタートさせる「○○さんの日」を継続して実施しました。今年度は、8つのグループが活動し、新たに手芸グループが発足、継続に至りました。一方的に教える形ではなく、参加者同士の交流を大切にした運営となっています。当初は、メンバーが集まりにくい状況となっていましたが、センターのお知らせでの発信やスタッフによる声掛けにより、少しずつメンバーを増やしています。

一方で、リーダーのモチベーション低下により、活動継続が困難となったグループもありました。メンバーからの懸念を受け、スタッフがリーダーとメンバーの間に入り、調整を行いました。結果的には、活動終了となりましたが、センターがサポートに入ることで双方の思いや方向がわかりました。

また、センターの掲示板やお知らせを通じて、年代問わず、新しく取り組みに参加してくださる方もいました。

2 準備段階での工夫

各取り組みのリーダー(〇〇さん)とのコミュニケーションを丁寧に行いました。日々の活動の様子だけでなく、活動中の困りごとやメンバーさんの様子などをお聞きし、継続的な活動を行えるようにサポートしました。

毎月の予定表を発行し、新しい取り組みに関しては、詳しく記載するなど多くの方が興味を持ってくださるよう工夫を行いました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

シニアが今までのスキルや得意を活かして、主催する場づくりをサポートすることを目指します。活動する際にネックとなる、人、資金、場所をサロンを活用することで、活動のはじめの一步を踏み出しやすくします。

また、参加メンバーが固定化してきている点も課題としてあるため、新たな参加者を募集し、そこから担い手の発掘も目指します。

(2) 事業実施による目標の達成度

今年度は、新しい取り組みが1つスタートしました。当初は、2～3名と人数が少ないなかでのスタートでした。しかし、シニアのみなさんの口コミやスタッフの声掛けにより、毎回5～6名程度の参加となっています。少しずつではありますが、参加者が増加しています。

また、サロン外部掲示板を見て、サロンに来館してくださる方やもともと興味があり、一步を踏み出してくださった方など新しい利用者も増えています。

「体操などの取り組みを行うだけでなく、人とのつながりもできる」、「今まで興味を持っていたけれど、なかなか一步を踏み出せなかった。一步踏み出すことでさまざまな活動があることを知った」という声をシニアのみなさんからいただいています。

4 今後の抱負

新しく活動をスタートしたいシニアの発掘を十分に行うことができませんでした。そのため、来年度以降は、スタッフとシニアのみなさんとのコミュニケーションの頻度を高め、得意やスキルを引き出す機会をつくっていきます。



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1	利用料金の収入実績 令和 6 年度実績：4,317,840 円（前年度比 92%） 〔 内訳 会議室等：4,261,400 円 付属設備：56,440 円 〕
2	管理運営に係る経費の収支決算 別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1

利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】 令和5年11月実施

【調査項目】 窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2

利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

	たいへん 満足	満足	不満	たいへん 不満	無回答
① 案内表示の わかりやすさ	34.6%	57.9%	4.7%	0%	2.8%
② 挨拶や声か け	53.3%	44.9%	0%	0%	1.9%
③ 身だしなみ	47.7%	50.5%	0%	0%	1.9%
④ 表情や態度	48.6%	49.5%	0%	0%	1.9%
⑤言葉づかいや 説明の丁寧さ	50.5%	46.7%	0.9%	0%	1.9%
⑥説明の わかりやすさ	44.9%	49.5%	1.9%	0%	3.7%
⑦整理整頓	42.1%	51.4%	1.9%	0%	4.7%

(2) センター独自アンケート

特になし

3

意見等への主な対応状況

・「掃除をもう少ししてほしいです。」「ときどき小さなゴミが落ちています。」という声に対しては、スタッフ定例会議にて改めて清掃の徹底と重点箇所の確認を行いました。

・「会議室 306 の床が滑りやすい」という声に対しては、週 1 回の水拭きの実施を行いました。根本的な原因の特定には至っていません。

・「鏡を増やしてほしい」、「スポーツ用マットを貸し出し備品として増やしてほしい」という声に対しては、鏡の増設については以前から同様の要望をいただいていたこともあり、年度末に移動式鏡 2 台を購入し、設置しました。

・「場所がわかりにくいいため、もっと大きい看板がほしいです」、「センターの案内がわかりにくいという人が多いです」という声に対しては、センター入り口に大きな掲示物を設置し、場所がわかるようにしました。

・上記以外には、「トイレの洋式を増やしてほしい」、「エレベーターを設置してほしい」という施設に関する意見「室内には 5 分前に入れてほしい」、「同曜日、同時時間の予約をもっと簡単に予約できるようにしてほしい」「キャッシュレス化してほしい」という利用・予約に関する意見をいただきました。施設改修を伴うものや現在のセンターの運営状況では安定的に導入することが困難なものがありました。

・「」

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

・ 取り組んだ事業等の総括を記載してください。

貸館については、昨年度より利用が減少しました。大きな理由としては、①集会室土曜日の夜間楽器利用制限による吹奏楽団の利用減少②定期利用団体の減少③新規定期利用団体の獲得不足④猛暑などの気候と考えています。新規利用団体の獲得においては、認知度向上のための取り組みを引き続き行なっていく必要があります。

事業については、事業内でのつながりづくりを継続・新規ともに行うことができました。また、活動団体の取り組みが継続的に行われるための相談対応やサポートを行い、伏見区内の活動を応援することができました。

・ 今後、解決すべき課題等があれば記載してください。

貸館については、上記に記載したように、利用が減少していることが課題となります。さらに多くの方に知っていただき、利用していただくための取り組みを検討していく必要があります。

事業については、「つながり」をつくることができましたが、その後のアクションについて十分に展開をつくるできていません。つながるで終わるのではなく、その後をイメージしながら事業を実施していく必要があります。

- ・ 次年度に向けた対応について記載してください。

貸館については、利用用途に合わせた情報の発信をさらに行なっていきます。13 の部屋すべてを紹介するのではなく、利用用途や利用のしやすさを考慮し、どのような方が利用できるかを想定しながら発信していきます。また、待合スペースの設置など猛暑でも快適に過ごしていただけるための工夫を考えていきます。

事業については、より多くの方にとって役に立つ、活動を支援できる事業であるか、見直し、実施していきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

特になし

京都市伏見いきいき市民活動センター

指定管理料等に関する収支決算書（令和6年度分）

指定管理者名 まちとしごと総合研究

代表者名 岡本卓也

①指定管理業務の収支状況

項目	内訳	予算額	執行額	差引
指定管理料収入		16,961,240	16,961,240	0
利用料金収入		4,609,800	4,317,840	▲ 291,960
	会議室等	4,560,000	4,261,400	▲ 298,600
	スモールオフィス	0	0	0
	付属設備（自主事業を除く）	49,800	56,440	6,640
その他収入	光熱水費分担金	0	0	0
	個別事業参加費	0	0	0
当期収入合計		21,571,040	21,279,080	▲ 291,960
人件費		9,491,400	8,635,896	855,504
	職員11名	8,191,400	7,577,908	613,492
	法定福利費	1,300,000	1,048,132	251,868
	福利厚生費	0	9,856	▲ 9,856
光熱水費		2,320,000	2,314,382	5,618
	電気代	1,300,000	1,330,817	▲ 30,817
	ガス代	900,000	861,009	38,991
	水道代	120,000	122,556	▲ 2,556
施設管理費		1,702,660	1,757,484	▲ 54,824
	定期清掃等	440,000	440,000	0
	機械警備	306,240	340,464	▲ 34,224
	消防保守点検	71,500	71,500	0
	空調保守点検	253,000	253,000	0
	受水槽・高架水槽の清掃及び点検	49,500	49,500	0
	自家用電気工作物	256,080	256,080	0
	建築設備点検	71,500	71,500	0
	一般廃棄物	114,840	114,840	0
	産業廃棄物	20,000	19,800	200
	樹木剪定	120,000	140,800	▲ 20,800

事務費	1,094,591	1,246,317	▲ 151,726
旅費交通費	500,000	424,300	75,700
消耗品費	80,000	184,578	▲ 104,578
印刷費	0	40,823	▲ 40,823
リース料	160,000	171,336	▲ 11,336
通信費	300,000	365,758	▲ 65,758
新聞図書費	32,000	31,272	728
支払報酬	12,591	11,730	861
支払手数料	10,000	16,520	▲ 6,520
修繕費	500,000	506,556	▲ 6,556
2階空調修繕		45,100	
エプソンコピー機修理		22,000	
消防設備修繕		71,500	
デジタルカメラ修理		49,396	
事務所玄関鍵交換		30,360	
消防設備修繕		148,500	
サロン污水管通管		19,800	
非常用バッテリー取り替え		119,900	
備品購入費（5万円以上の物品）	0	0	0
なし	0	0	0
租税公課	1,500,000	1,383,450	116,550
消費税	1,500,000	1,383,450	116,550
その他	16,100	16,100	0
賠償責任保険保険料	16,100	16,100	0
施設運營業務支出合計	16,624,751	15,860,185	764,566
市民活動支援・活性化事業費	3,768,000	3,587,829	180,171
伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト ～新しいチャンスを生み出すマッチング事業	1,470,000	1,443,124	26,876
伏見の市民活動を生み出す支援プロジェクト ～市民の学び・対話の場づくり事業	1,520,000	1,408,496	111,504
市民活動団体や地域団体の伴走支援プロジェクト	778,000	736,209	41,791
サロン運営・活用事業費	982,000	981,506	494
多世代交流拠点きょういく基地プロジェクト	982,000	981,506	494
その他 事業実施業務繰越	0	0	0
事業実施業務支出合計	4,750,000	4,569,335	180,665
当期支出合計	21,374,751	20,429,520	945,231
当期収支差額	196,289	849,560	653,271